



国立大学法人
鹿児島大学
概要 2026



KAGOSHIMA UNIVERSITY

CONTENTS

- 02… 学長からのメッセージ
- 03… 大学の基本的な目標
- 04… 大学憲章
- 05… 学生憲章
- 06… 教育目標／生涯学習憲章
- 07… ポリシー
- 10… ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン
推進宣言
- 11… 男女共同参画基本理念
- 12… 沿革
- 15… 組織図
- 16… 学術研究院
- 17… 学部
- 20… 鹿児島大学病院
- 21… 大学院
- 24… 総合教育機構
- 27… ヒトレトロウイルス学共同研究センター
- 28… 学内共同教育研究施設
- 32… 学内共同教育研究施設／海外拠点
- 33… 学部等附属教育研究施設
- 34… 教育関係共同利用拠点
- 35… 教育学部附属学校
- 36… 本学の特徴ある研究
- 40… かごしまルネッサンスアカデミー／
大学地域コンソーシアム
- 41… 支援センター等
- 42… 地域交流施設ほか

資料編

- 47… 役職員等
- 49… 役職員数
- 50… 入学定員・現員数
- 51… 附属学校入学定員・現員数
- 52… 入学状況
- 54… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 55… 奨学生状況／経済支援制度
- 56… 産学官連携活動
- 58… 公開講座等
- 59… 学術国際交流協定締結状況
- 61… 外国人留学生
- 62… 収入・支出決算額／予算
- 63… 外部資金受入状況
- 65… 鹿児島大学病院・附属動物病院実績
- 66… 附属図書館実績
- 67… 土地・建物・船舶
- 68… 位置図・交通アクセス
- 69… 地区別建物等配置図
- 73… 所在地一覧

学 年 暦		
学 期	期	期
前 後	期	期
入 学	期	期
休 業	期	期
春 季	休 業	期
夏 季	休 業	期
冬 季	休 業	期
鹿児島大学記念日		期
卒業式・修了式		期

※学期・休業日は鹿児島大学学則より抜粋

歴 代 学 長

氏 名	任 期	備 考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日	
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日	
"	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日	
"	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月21日	
中 村 末 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	※
"	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日	
"	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日	
"	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日	
井 形 昭 弘	昭和62年 1月12日～平成 3年 1月11日	
"	平成 3年 1月12日～平成 5年 1月11日	
早 坂 祥 三	平成 5年 1月12日～平成 9年 1月11日	
田 中 弘 允	平成 9年 1月12日～平成13年 1月11日	
"	平成13年 1月12日～平成15年 1月11日	
永 田 行 博	平成15年 1月12日～平成19年 1月11日	
吉 田 浩 己	平成19年 1月12日～平成22年 1月11日	
"	平成22年 1月12日～平成25年 3月31日	
前 田 芳 實	平成25年 4月 1日～平成28年 3月31日	
"	平成28年 4月 1日～平成31年 3月31日	
佐 野 輝	平成31年 4月 1日～令和 5年 3月31日	
"	令和 5年 4月 1日～令和 7年 3月31日	
井 戸 章 雄	令和 7年 4月 1日～	

※学長事務取扱



「進取の精神で、地域と世界の未来に挑む教育研究拠点」を目指して

鹿児島大学は、安永2年(1773年)に設立された藩学造士館を起源とし、明治以降に設立された旧制第七高等学校造士館をはじめ各種の高等専門学校統合により、昭和24年(1949年)に新制国立鹿児島大学として発足しました。以来、南九州における最高学府として、多くの有意な人材を輩出し卒業生・修了生は国内外の幅広い分野で活躍しています。現在、鹿児島大学は9つの学部と9つの大学院研究科を擁し、約9,000名の学部学生と約2,000名の大学院生(うち留学生約300名)、併せて約11,000名の学生が、世界に羽ばたき活躍すべく3つのキャンパスで学びを深めています。

さて、鹿児島大学は「藩学造士館」の建学の精神「学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自立の進取の精神を尊重し、地域と共に社会の発展に貢献する」こととともに教育を通じて「向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍する人材を育成する」ことを掲げ、海外留学・海外研修、ボランティア活動および「進取の精神」を具現化しチャレンジする取り組みを支援し、学生の向上心を育てるための奨学金制度や表彰制度を設け、学生が安心して学べるキャンパス環境を整えています。

本学の位置する鹿児島は、アジアと世界の諸地域に開かれた南の玄関口として、海外との交流を通じ異文化の導入を率先して行い、豊かな文化や学術を育み、我が国の変革と近代化を推進した数多くの人材を輩出してきました。二つの世界自然遺産「屋久島」と「奄美大島・徳之島」に加えて、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」を有する鹿児島の豊かな自然、固有の文化・歴史という恵まれた環境の中で、「進取の精神」を自ら培い、人としても成長し、鹿児島大学で学んだことに自信と誇りを持ち、グローバルな視点を備えて国際的に活躍できる人材を育成しています。

南北600キロに及ぶ県土を本学のキャンパスとして、そこにある自然・歴史・風土・産業を土台としつつ、地域とともにある大学として「地」と「知」の力をもって、皆さんとともに、「進取の精神で、地域と世界の未来に挑む教育研究拠点」となることを目指して進んでいきます。

Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow.

The important thing is not to stop questioning.

(昨日から学び、今日を生き、明日に希望を持とう。大切なことは、疑問を持ち続けること。)

理論物理学者アインシュタインの言葉です。過去の失敗から学び、今日に繋げ、明日また新たな1日が来ることを期待して生きていく。もっとも大切なことは、問うこと、考えることをやめないこと。失敗から学ぶことは多く、逆に、失敗を恐れていては成長の機会を逃してしまいます。「進取の精神」にもつながる言葉です。

第14代 鹿児島大学長

い ど あき お
井戸 章雄



国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標

第4期中期目標(令和4～9年度)

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にあるという地理的特性や我が国の近代化を支えた多くの人材を育ててきた教育的・精神的伝統を踏まえた本学ならではの取組を推進することで、地域社会、我が国並びに国際社会に貢献し、本学の全構成員、卒業生、地域が誇りとするような「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しています。

第4期中期目標・中期計画期間においては、持続可能な社会の実現に向けて、引き続き南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化しつつ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」とグローバルな視点を有する人材を育成し、「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」としての価値を高めるべく、以下の基本目標に取り組めます。

1. グローカル人材の養成に向けた教育改革

国際レベルの教育の質の担保を進め、多様な教育制度・入試制度を活用して一層の教育の国際化を図るとともに、グローバルな視点に基づき地域で活躍できる人材の育成に向け、地域との協働に基づく学びを更に拡充し、地域特性を活かした体験型教育を推進します。また、総合大学としての強みを活かした文理横断的な学びを取り入れつつ社会の急激な変化も見据えた柔軟な教育体系を構築するとともに、学生への支援拡充等の教育改革に取り組み、「進取の精神」を備えた人材の輩出を目指します。

2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進

食と安全、先進的感染制御、生物多様性、宇宙・天文、島嶼や環境等、大学の強みや地域特性を活かした研究分野の更なる発展に取り組めます。また、各種基金等を活用し、若手研究者や競争的資金の獲得が難しい基礎研究及び人文社会科学分野等への支援体制を充実するとともに、イノベーション創出を目指した先進的な分野融合型研究を推進します。

3. 地域課題に応える社会貢献、産学連携の推進

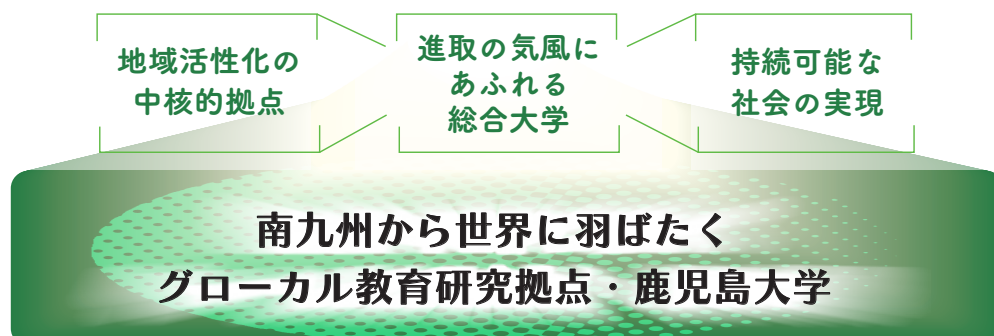
地域・産業界と連携し、地域課題に応じたリカレント教育プログラムの充実、火山対策をはじめとした地域の防災・減災に資する多様な活動、地域産業や自治体等が抱える課題の解決に取り組むとともに、研究成果の活用と社会実装を推進し、地域イノベーションの創出に取り組めます。また、島嶼や環境など、本学の特徴を活かした教育・研究・社会貢献を全学的に推進するための拠点を強化・充実させます。

4. 地域を支える質の高い医療の提供

先端の基礎的研究から橋渡し研究の結果としての先進的医療を実践しつつ、離島へき地などの地域性を活かした実習・研修を行い、次世代の地域医療従事者育成に取り組めます。

5. 自己分析に基づく的確な組織整備と運営

学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、IR体制や監査機能の充実を図り、自らをよく知り、評価結果を改革に活かすことで、効果的な組織整備や他機関との連携、効率的かつ健全な大学運営に取り組めます。



鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

■ 教 育 ■

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

■ 研 究 ■

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

■ 社会貢献 ■

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

■ 大学運営 ■

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

※「進取の精神」とは、自ら困難に立ち向かう態度である。

平成19年11月15日制定
(第58回鹿児島大学開学記念日)



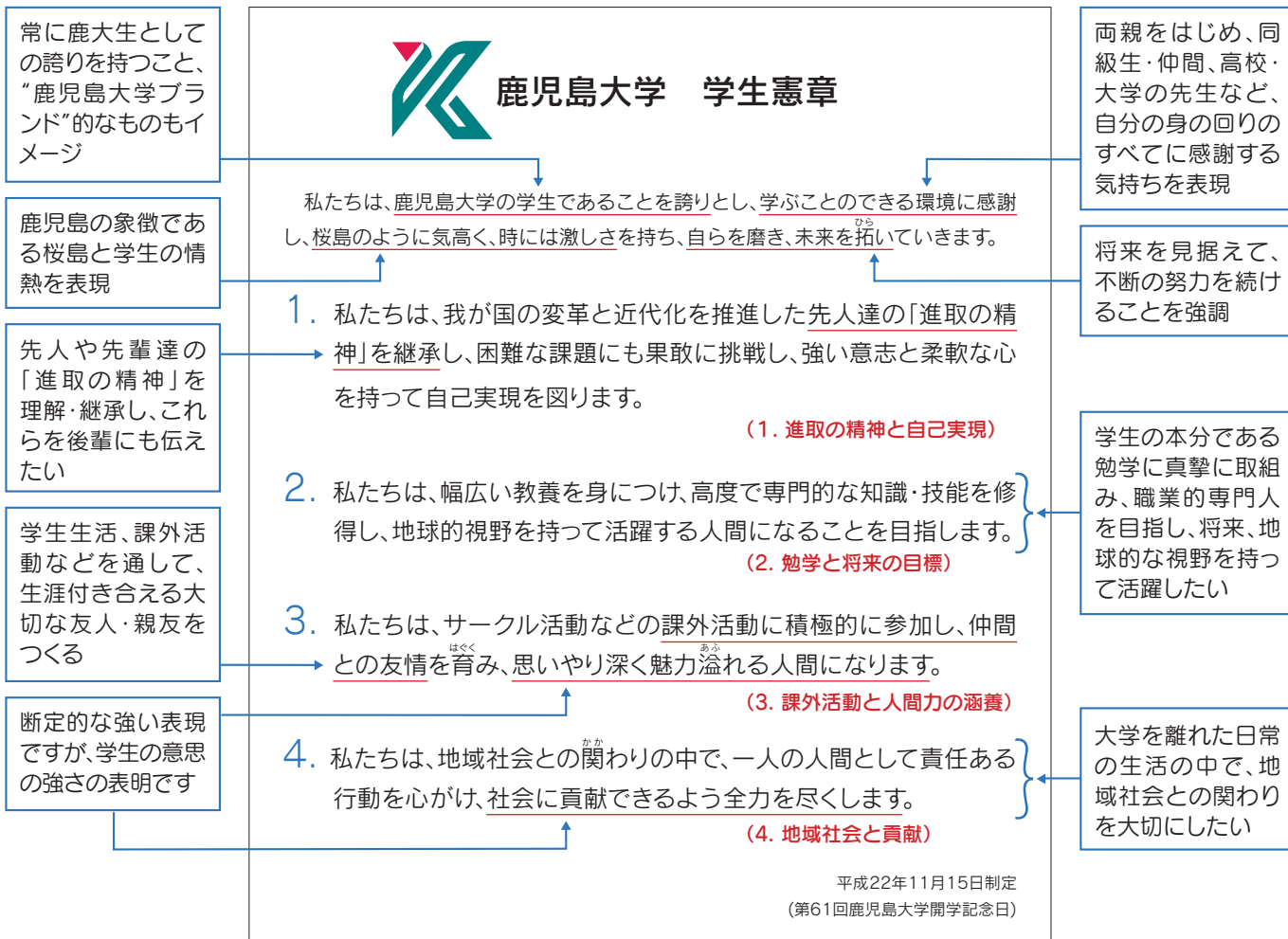
鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成22年11月15日制定
(第61回鹿児島大学開学記念日)

〈学生憲章の解説〉



鹿児島大学教育目標

鹿児島大学は、進取の気風にあふれる総合大学として、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、自主自律と進取の精神を有する人材の育成を目指します。そのために次の教育目標を掲げます。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育みます。
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ちむかう態度を養います。
3. 地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養います。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育みます。

平成23年12月15日制定

鹿児島大学生涯学習憲章

鹿児島大学は、大学憲章の理念に沿って、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしており、大学と地域をつなぐ営みとして生涯学習を推進します。

鹿児島大学は、古来より海上交通の要衝として多彩な文化を集積し、世界で固有の多様な自然と共生してきた地域に学び、成熟社会における新たな社会像、地域像、大学像を獲得できる生涯学習に全学で取り組みます。

地域のもつ知は大学及び大学人に新たな知的発見をもたらす宝庫であり、知的拠点としての鹿児島大学がめざす生涯学習とは、地域に生きる人びとと大学人がともに学び教え合う関係から知の循環を促し相互に成長していくことです。

鹿児島大学は、全構成員が生涯学習の理念を共有し、地域と世界を結ぶ視野をもって、生涯学習を組織的に実践するために、次の方針を掲げます。

1. 青年期の教育とともに、成人を対象とした教育に取り組み、生涯にわたる学習の機会を提供します。
2. 地域の発展の基礎となる多様な教育機会を用意し、激動の時代を生きる地域の人びとが、ともに支え合い、暮らしていくことに貢献します。
3. 大学の専門知と科学知が、地域の生活や経験と向きあうことを大切にします。そのことを通じて学問を鍛え直し、新しい社会を展望できる知を創造し、広く地域に還元していきます。
4. 鹿児島大学学生憲章の実現に向けて、学びの主体性を支え、進取の精神を養い、課題解決能力や実践力を育むため、学生が大学で修める学問を基礎に、地域とともに成長できる機会を保障します。
5. 柔軟で闊達な組織づくりに努め、大学と地域の相互理解を深める機会を創出し、生涯学習の推進を地域とともに発展する大学づくりの柱と位置づけます。

平成25年9月19日制定

鹿児島大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、大学憲章及び教育目標に鑑み、地域の活性化及び国際社会の発展に貢献していくため、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。

1. 社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、多様なコミュニケーションができる能力
3. 自ら進んで様々な社会活動に参加し、省察し、その上で、将来の課題を発見し、その探究・解決を志向し続けられる実践力

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学位を授与します。

■修士(博士前期)課程

修士(博士前期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、審査に合格した者に修士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における基礎的な研究能力
- 高度な学識と専門性を活かして地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■博士(博士後期)課程

博士(博士後期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における独創的な研究能力
- 専門分野で指導的な役割を担い、地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■専門職学位課程

専門職学位課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得した者に専門職学位を授与します。

- 高度専門職業人として求められる責任感、職業倫理観、及び実務能力
- 専門分野で指導的な役割を担うことのできる能力

鹿児島大学教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成

- ① 幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力を育む科目を配置します。
- ② 自ら課題を発見・探究・解決する能力を育成する実践的な科目を配置します。
- ③ 大学、地域及び国際社会における多様な人々とのコミュニケーションを重視した教育を展開します。
- ④ アクティブ・ラーニングの推進を通して、学生が倫理観をもって自主的に問題に取り組むことを支援する教育を展開します。
- ⑤ 人、自然、文化の多様性に見られる鹿児島特有の資源を活用した教育を展開します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

大学院

鹿児島大学大学院は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

1. 進学から学位取得に至るまで系統性のある教育課程の編成

① 修士(博士前期)課程

- 研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 専門分野における基礎的な研究能力と高度な専門性を発揮できる実践的な能力を身につけた人材を育成する教育を展開します。

② 博士(博士後期)課程

- 研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 鹿児島大学の多様な学術的研究を背景に、課題の発見・探究・解決を目指す研究者や、専門分野を牽引していく役割を担うことのできる専門家を育成する教育を展開します。

③ 専門職学位課程

- 高度専門職業人として、固有の専門業務に必要な深い学識と卓越した能力を養成する体系化した教育を展開します。
- 学外との連携を通じた実務教育を行い、地域に根ざした高度専門職業人としての責任感と倫理観を養成する教育を展開します。
- 専門分野において、指導的な役割を担う実務家を養成する教育を展開します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

鹿児島大学入学者受入の方針(アドミッション・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、教育目標に定める「進取の精神」を有する人材を育成するために、次のような学生を求めています。

1. 鹿児島大学の教育目標を理解し、それを実現できる基礎学力と自身の成長のために修学しようという意欲がある人
2. 地域／グローバル社会の多様性を理解し、さまざまな相手や状況に応じたコミュニケーションの必要性を認識している人
3. 地域／グローバル社会の一員であることを自覚し、社会の課題解決に向けて貢献する意志のある人
4. IT革命からAI革命へと進展する現代社会において、学術的方法を通じて多様な情報を批判的に検証・精査し、新たな知の探究・創出を目指す人

このような学生を適正に選抜するために、学部の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に定める「進取の精神」を有する人材を育成するために、次のような学生を求めています。

■修士(博士前期)課程、博士(博士後期)課程

1. 学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人
2. 主体的に学ぶ態度を身につけ、専門分野に関連する諸問題に関心を持つ人
3. 自ら課題を発見・探究・解決しようとする意欲に満ちた人

■専門職学位課程

1. 高度専門職業人を目指す明確な問題意識・関心を持ち、幅広い教養と柔軟な思考力を持つ人
2. 専門職技能並びに実践力を身につけたい人
3. 学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人、または、当該分野の基礎資格や現場での経験を有する人

このような学生を適正に選抜するために、研究科の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

鹿児島大学 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進宣言

令和8年2月19日
鹿児島大学

鹿児島大学は、鹿児島大学憲章の精神に則り、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしてまいりました。

鹿児島大学男女共同参画基本理念である「一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために」を新たなステージに発展させるべく、ここにダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進を宣言します。

1. 鹿児島大学は、性別や国籍、年齢や障がいの有無などにかかわらず、多様な人々が互いを認めあい、安心して共生できる環境をめざします。
2. 鹿児島大学は、誰もが自分らしく学び合う大学であるため、多様な人々が対等に関わりあいながら協働し、個々のニーズにあわせた支援やリソースへの公平なアクセスができるようなキャンパスをめざします。
3. 鹿児島大学は、共生社会におけるバリアの解明と解決をめざし、異なる価値観に触れることで自らを啓発し、発展していけるような組織文化の醸成に取り組みます。

鹿児島大学男女共同参画基本理念

男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国の最重要課題であると位置づけています。男女共同参画社会とは、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することのできる社会のことです。この実現には、教育・研究の場であるとともに、就業の場である大学の果すべき役割・社会的責任が極めて大きいものと考えます。

鹿児島大学は、男女共同参画社会基本法に基づき、男女共同参画社会実現の意義と責任を認識しつつ、21世紀の総合大学に期待される使命を自覚し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざし、以下の基本理念の下、男女共同参画を積極的に推進します。

＜基本理念＞

鹿児島大学は、大学憲章の精神に則り、教育・研究機関として男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮できる大学を実現します。

「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」

＜行動指針＞

1. 男女共同参画の視点に立った教育、研究、就業の場の確立および大学運営における意思決定過程への女性の参画を拡大します。
2. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を重視した施策を推進するための環境を整備します。
3. 女性の能力開発・能力発揮(エンパワーメント)を支援するために、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の推進、女性キャリアガイダンスの充実、再チャレンジ支援などを行います。
4. 男女共同参画に資する教育・研究、広報・啓発活動を、地域(地方自治体、教育機関、医師会、企業、NPO等)と連携して積極的に推進します。

平成22年1月21日制定
教育研究評議会決定

沿革 (旧制度下)



沿革

鹿児島大学

昭24.5(1949) 直



藩学造士館「三国名勝図会」(附属図書館「玉里文庫」所蔵)



第七高等学校造士館前景

【略記説明】

- 直: 設置
- 称: 改称
- 組: 改組
- 定: 認定
- 加: 参加
- 校: 廃校
- 離: 離脱
- 正: 廃止
- 造: 建造
- 移: 移管
- 停: 募集停止
- 国: 国立移管
- 管: 移管改称
- 措: 学内措置
- 合: 合併改称
- 直: 文部省直轄

鹿児島大学

昭24.5(1949) 置

鹿児島県立大学

昭24.6(1949) 称

医学部

昭27.2(1952) 置

【略記説明】

- 置：設置
 称：改称
 組：改組
 定：認定
 加：参加
 校：廃校
 離：離脱
 止：廃止
 造：建造
 移：移管
 停：募集停止
 国：国立移管
 管：移管改称
 措：学内措置
 合：合併改称
 直：文部省直轄

学部

- 文理学部 昭47.3(1972) 置
- 第七高等学校 昭25.3(1950) 置
- 鹿児島師範学校 昭26.3(1951) 置
- 鹿児島青年師範学校 昭26.3(1951) 置

教養部

- 鹿児島県立大学医学部 昭33.4(1958) 置
- 県立鹿児島医科大学(旧制) 昭36.3(1961) 置
- 附属熱帯医学研究施設 昭35.4(1960) 置、昭57.3(1982) 置
- 附属病院霧島分院 昭33.5(1958) 置
- 附属看護学校 昭33.5(1958) 置
- 附属助産婦学校 昭33.5(1958) 置
- 附属保健婦学校 昭36.4(1961) 置
- 附属腫瘍研究施設 昭42.6(1967) 置
- 昭63.3(1988) 置
- 昭63.3(1988) 置
- 平元.3(1989) 置
- 平元.3(1989) 置
- 平15.3(2003) 置
- 鹿児島県立大学工学部 昭33.4(1958) 置
- 鹿児島農林専門学校 昭27.3(1952) 置
- 鹿児島水産専門学校 昭26.3(1951) 置
- 一般教養部 昭24.6(1949) 置、昭40.3(1965) 置
- 教養部 昭40.4(1965) 置、平9.3(1997) 置

大学病院

- 医学部附属病院 昭33.5(1958) 置、平15.9(2003) 置
- 歯学部附属病院 昭55.4(1980) 置、平15.9(2003) 置
- 法学研究科 昭54.4(1979) 置、平15.3(2003) 置
- 人文社会科学研究科 昭61.4(1986) 置、平13.9(2001) 置

大学院

- 県立鹿児島医科大学研究科(旧制) 昭29.5(1954) 置、昭36.3(1961) 置
- 理学研究科 昭52.4(1977) 置、平12.3(2000) 置
- 工学研究科(修) 昭43.4(1968) 置
- 医学研究科 昭34.4(1959) 置、平28.3(2016) 置
- 歯学研究科 昭59.4(1984) 置、平20.3(2008) 置
- 教育学専攻科 昭34.4(1959) 置、平6.3(1994) 置
- 理学専攻科 昭44.4(1969) 置、昭52.3(1977) 置
- 工学専攻科 昭34.4(1959) 置、昭43.3(1968) 置
- 農学専攻科 昭29.4(1954) 置、昭41.3(1966) 置
- 水産専攻科 昭34.4(1959) 置、昭44.3(1969) 置
- 遠洋漁業学特設専攻科 昭28.4(1953) 置、昭49.4(1974) 称
- 水産専攻科 平15.3(2003) 置

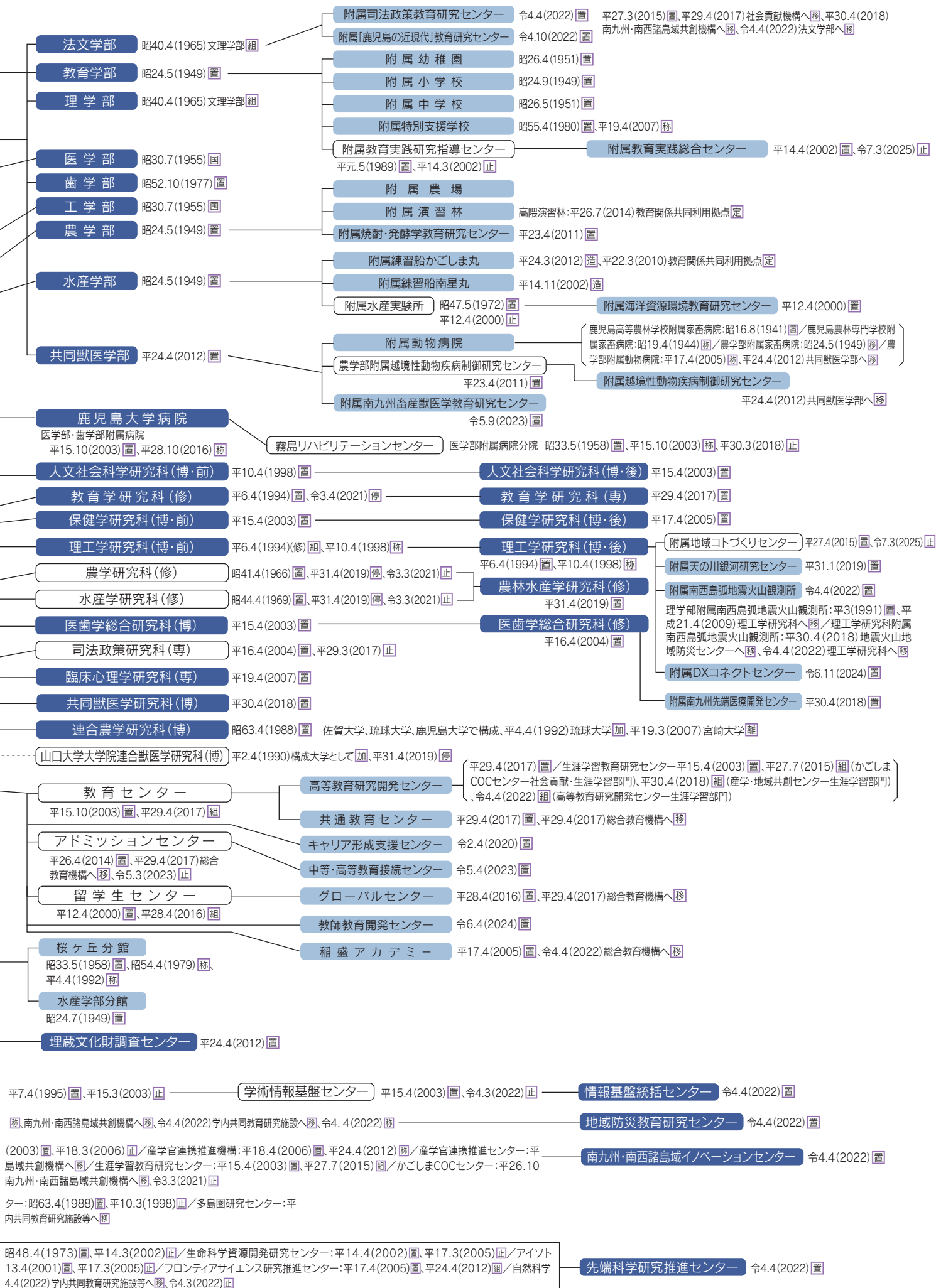
機構

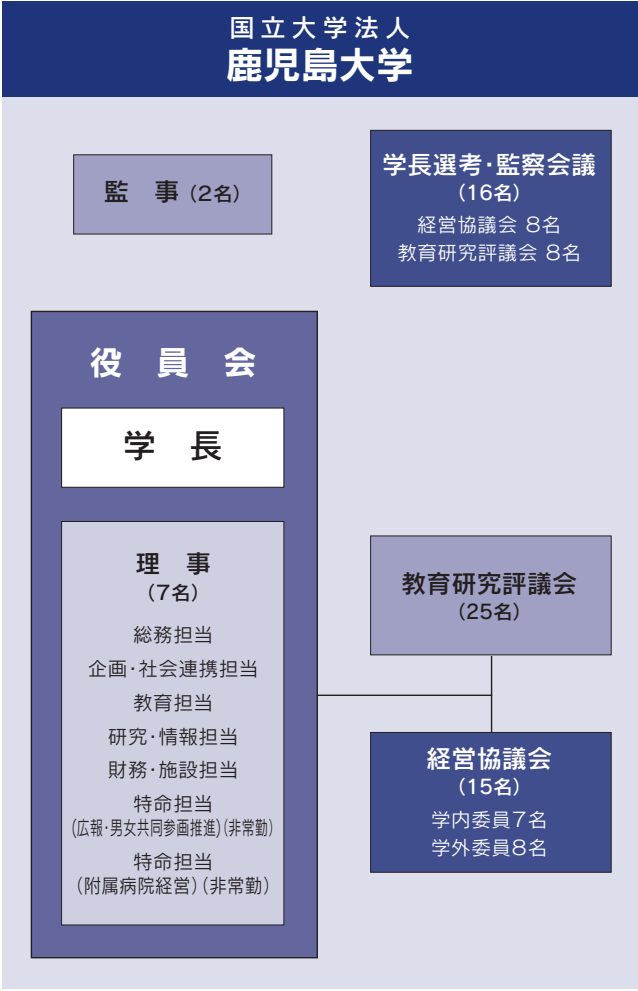
- 総合教育機構 平29.4(2017) 置
- 研究推進機構 平29.4(2017) 置、令4.3(2022) 置
- 社会貢献機構 平29.4(2017) 置、平30.4(2018) 置
- 難治ウイルス病態制御研究センター 平16.4(2004) 置、平31.3(2019) 置
- 南九州・南西諸島域共創機構 平30.4(2018) 置、令4.3(2022) 置

学内共同教育研究施設

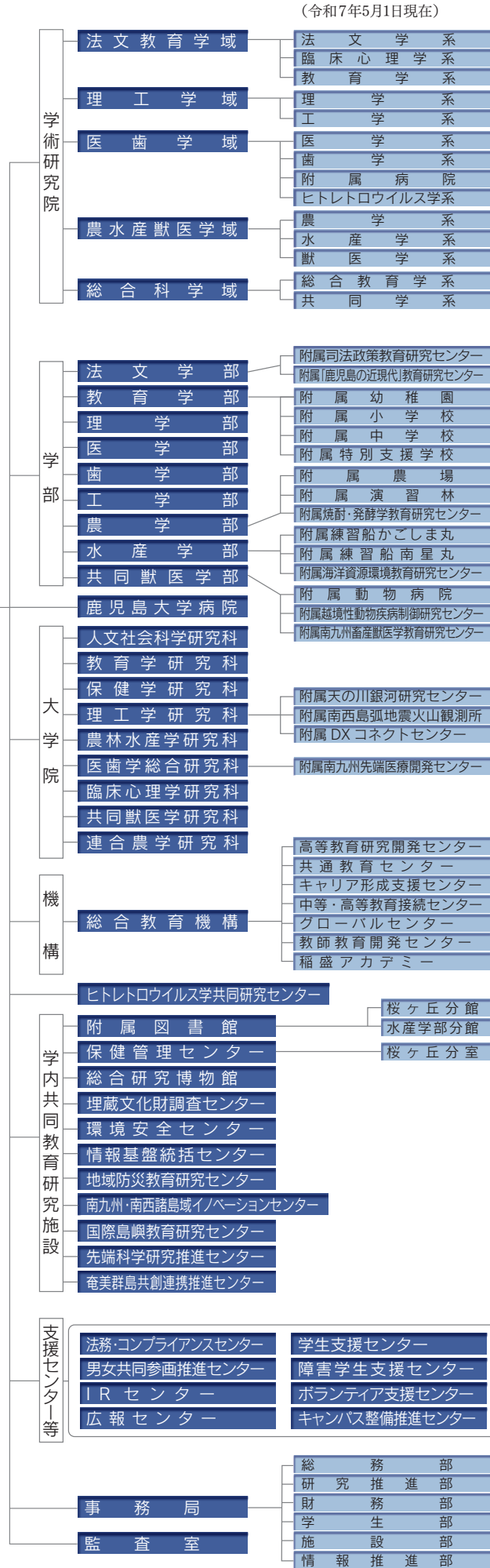
医療技術短期大学部 昭60.10(1985) 置、平11.4(1999) 医学部保健学科に組、平14.3(2002) 置

- ヒトレトロウイルス学共同研究センター 平31.4(2019) 置 (熊本大学との共同設置)
- 附属図書館 昭24.5(1949) 置
- 保健管理センター 昭47.5(1972) 置
- 総合研究博物館 平13.4(2001) 置
- 埋蔵文化財調査室 昭60.6(1985) 置、平24.4(2012) 称
- 研究支援センター環境保全施設
- 情報処理センター 昭62.12(1987) 置、平7.3(1995) 置
- 地震火山地域防災センター 地域防災教育研究センター：平23.6(2011) 置、平成29.4(2017) 社会貢献機構へ置、平30.4(2018) 置
- 産学・地域共創センター 地域共同研究センター：平4.4(1992) 置、平18.3(2006) 置、知的財産本部：平15.12.24.4(2012) 置、平29.4(2017) 社会貢献機構へ置、平30.4(2018) 置、南九州・南西諸島(2014) 置、平27.7(2015) 置、平29.4(2017) 社会貢献機構へ置、平30.4(2018) 置、
- 国際島嶼教育研究センター 南方海域研究センター：昭56.4(1981) 置、昭63.3(1988) 置、南太平洋海域研究センター：10.4(1998) 置、平22.4(2010) 置、平29.4(2017) 研究推進機構へ置、令4.4(2022) 学
- 医用ミニブタ・先端医療開発研究センター 遺伝子実験施設：平8.5(1996) 置、平14.3(2002) 置、医学部附属動物実験施設：一歩総合センター：平11.4(1999) 置、平17.3(2005) 置、機器分析センター：平教育研究支援センター：平24.4(2012) 置、平29.4(2017) 置、研究推進機構へ置、令
- 研究支援センター
- 奄美群島共創連携推進センター 令8.4(2026) 置
- 環境安全センター 平31.4(2019) 置
- 総合情報処理センター
- 文理・農・教育・工学部分館 昭40.3(1965) 置





鹿児島大学



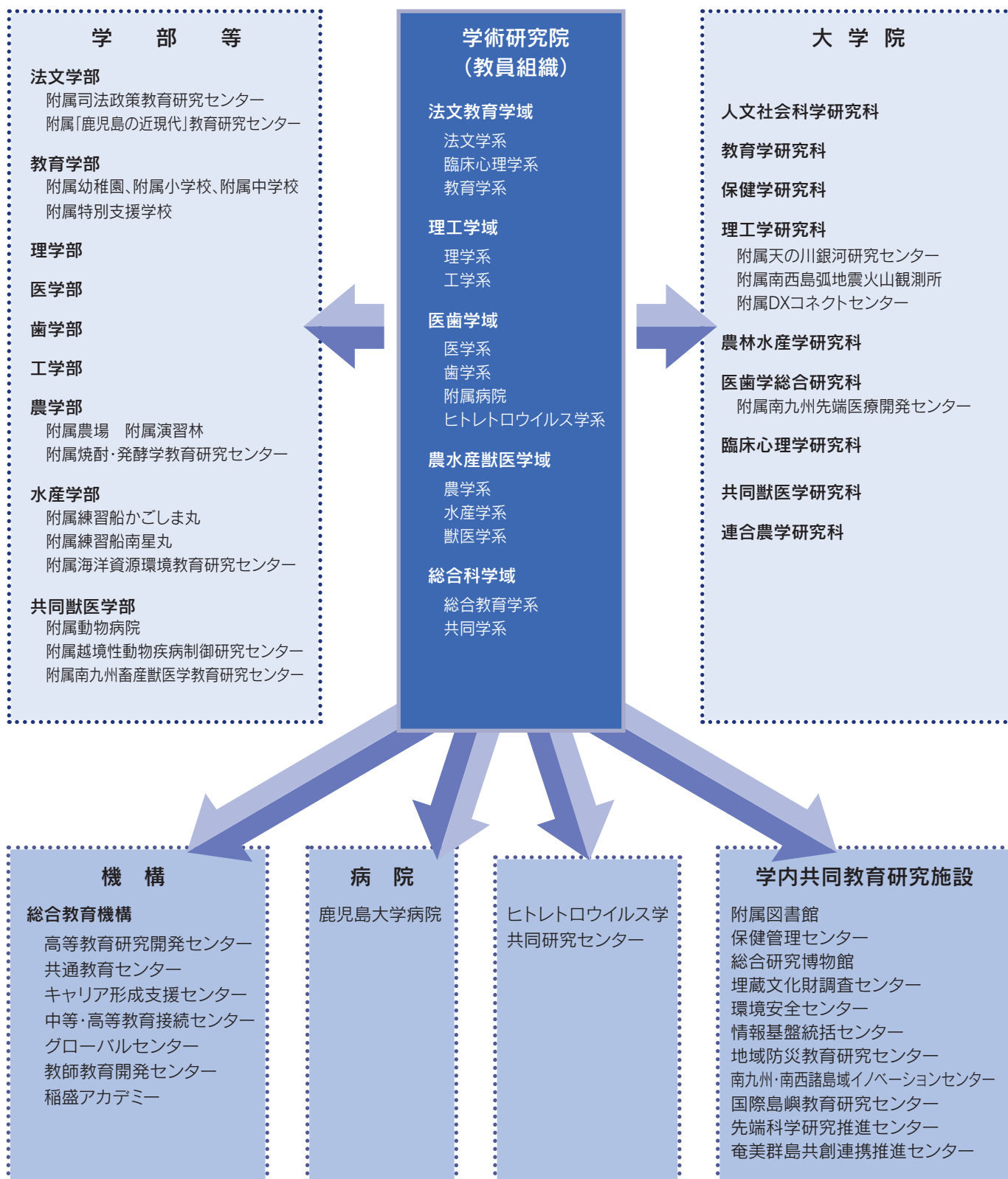
【学術研究院】

学長のリーダーシップの下、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成及び学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるため、現行の教育研究組織を教員組織と教育研究組織に分離し、新たに学術研究院(教員組織)を平成27年4月1日に設置しました。

学術研究院は、5つの「学域」と14の「学系」からなり、学域は現在の学部・研究科等の教育研究分野に対応した一定規模の組織を形成し、学系は学域の下に教員の専攻分野に応じた組織となっています。

学術研究院長には学長を充て、今まで学部・研究科等ごとに所属していた教員を一元的に管理し、全学的な視点に基づいた計画的な教員人事を行うこととしています。

教育研究組織 (令和8年4月1日)



法文学部



法経社会学科／人文学科

藩学造士館、旧制第七高等学校の系譜を引く法文学部は、現在、法経社会学科（法学コース、地域社会コース、経済コース）、人文学科（多元地域文化コース、心理学コース）の2学科5コースを擁する南九州唯一の人文社会系総合学部となっており、附属施設として司法政策教育研究センターおよび「鹿児島の近現代」教育研究センターを有しています。

本学部では、「広く学ぶ」「深く学ぶ」「学びを活かす」という「3つの学び」を実現し、各コースの履修モデルにしたがった実践的できめ細かな専門教育と、学際的な知識と現場感覚を身につける「法文アドバンスト科目」などの教育プログラムを展開することで、総合的な観点から人間と社会を深く理解し、情報化、国際化および地域社会の変化にともなう諸問題に適切に対処できる課題解決能力を持った人材の育成を目指しています。

教育学部



学校教育教員養成課程

教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきました。令和2年4月には、学校教育教員養成課程（初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コース）1課程に改組し、Society5.0に向けて、これからの社会を生きて行く子供の学ぶ力・学び続ける力を地域との関わりの中で育てるために、自らの専門性を効果的に活かして多様な他者と協働し、グローバルな視野をもって、地域を活かし輝かせる教員の養成を目指しています。

理学部



理学科（数理情報科学プログラム、物理・宇宙プログラム、化学プログラム、生物学プログラム、地球科学プログラム）

「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきました。こうして現代社会は豊かなものになりましたが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じました。このような問題を解決するためにも、真理の探究とともに、物事の原理を基礎から理解する「理学」のさらなる進展は不可欠です。鹿児島大学理学部は、南九州という自然に恵まれた地理的特色を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進めています。

〈育成する人材像〉

- * 創造的で指導的な役割を担う専門的職業人として活躍できる人材
- * 未知の課題に挑戦する研究者・技術者として活躍できる高度な研究能力を有する人材

医学部



医学科／保健学科

医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として招聘した薩摩藩医学校を源流とし、昭和18(1943)年に開校した県立鹿児島医学専門学校を直接の前身とします。その後幾多の変遷を経て、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部となりました。平成10(1998)年には保健学科が設置され、2学科体制となり、平成30(2018)年に医学部創立75周年、保健学科設置20周年を迎えました。人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ、医学・医療を担う人材を育成することを使命として掲げた教育・研究・診療を実践し、これまでに両学科を合わせて1万人を超える医療人を輩出しています。鹿児島県のみならず、日本全国、さらに海外で人々の健康と福祉の向上、医学・医療の発展に多大な貢献をしている学部です。

歯学部



歯学科

歯学部は、沖縄を含む南九州地域における唯一の歯科医学教育・研究施設として、歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置され、令和9(2027)年には創立50周年を迎えます。

本学部では、生命科学の原理を理解し、科学的探究心と問題解決能力を身につけるとともに、各種口腔・顎顔面領域の疾患の診断、予防、および治療に関わる知識と技能を修得することを、教育目標としています。また、県内離島の歯科巡回診療同行実習や海外の大学での研修などを通して、地域医療の重要性を理解し、コミュニケーション能力を備えた国際的視野を有する人材を育成しています。同時に、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践者としての歯科医師および歯科医学教育者・研究者の育成を目指しています。

工学部



先進工学科（機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、海洋土木工学プログラム、化学工学プログラム、化学生命工学プログラム、情報・生体工学プログラム）／建築学科（建築学プログラム）

工学部の起源は、1945年4月に設立された鹿児島県立工業専門学校にあり、創設から80年以上の歴史を有します。

本学部は、工学の面白さを学びたい、ものづくりに取り組みたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつひとりひとりの学生に、幅広い教養と高度な専門能力を授け、獲得した知識や技術等を統合的に活用し、実社会における課題解決のために応用できる力を身につけられる教育に心がけています。今日まで連綿と国際的な通用性をもった教育改革を進め、グローバルに活躍できる人材を育む教育を実践しています。

本学部は、工学の主要な分野を網羅する2学科7プログラム編成で、社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出などに寄与する「知の拠点」となっています。文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)認定の他、大学院教育と一体となった数理・データサイエンス・AIに関する教育の強化、半導体人材育成の拠点形成などに取り組んでいます。

農学部



農学科／国際食料資源学特別コース(農学系サブコース)

農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年に鹿児島大学農学部となりました。本学部は令和6(2024)年に改組し、4プログラム(植物資源科学、環境共生科学、食品生命科学、農食産業・地域マネジメント)からなる農学科と国際食料資源学特別コースで構成されています。附属施設として、農場、演習林、焼酎・発酵学教育研究センター及びかごしまスマート農学教育研究センターを有しています。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及ぶ多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命、防災に関する教育を行っています。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と世界に貢献できる技術者・指導者を養成しています。

水産学部



水産学科／国際食料資源学特別コース(水産学系サブコース)

水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生しました。「就職に強く学生に親切な水産学部」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む水圏をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の調査と保全、グローバル化する産業社会や「食」に関わる生活文化の創出において、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としています。食料生産の確保とその生産基盤である海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、資源・環境・食品分野に強く、高度で先端的な教育を受けた水産技術者を養成し、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国をはじめとする国際社会で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を多数送り出しています。また、ISO9001規格に基づいた独自の教育システムを運用し、弛まぬ改善と教育の質の保証に取り組んでいます。農学部と連携した国際食料資源学特別コースも設置し、世界の食料問題に取り組むグローバル人材の育成も強化しています。

共同獣医学部



共同獣医学科／畜産学科

共同獣医学部は、昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立された獣医学科を前身とし、農学部獣医学科を経て、平成24年に鹿児島大学9番目の学部として設置されました。本学と山口大学による共同教育課程は、欧米水準の獣医学教育を目指し、令和元年6月には、国内及びアジアで初めてEAEVE(欧州獣医学教育機関協会)による教育認証を取得しました。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従って職務を遂行し、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師の養成を目指しています。教育病院である附属動物病院には、小動物診療センターに加え、大動物診療センター、軽種馬診療センター、大隅産業動物診療研修センターを置いています。また、我が国屈指の畜産地帯を背景に、越境性動物疾病の研究を行う附属越境性動物疾病制御研究センターや、南九州の基幹産業である畜産の発展に貢献する附属南九州畜産獣医学教育研究センターも設置されています。

鹿児島大学病院

鹿児島大学病院の歴史は、明治13年に設立された県立鹿児島医学校および附属病院に始まります。その後、昭和24年には県立鹿児島大学医学部附属病院が開設され、昭和33年には鹿児島大学医学部附属病院へと継承されました。昭和49年には、これまでの鹿児島市城山町から現在の桜ヶ丘へと移転し、昭和55年には歯学部附属病院が新たに設立されました。

平成15年10月には、医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科横断的な17のセンターによる新たな診療体制が構築されました。さらに、平成28年10月には病院名称を「鹿児島大学病院」へと改称しています。

患者サービスの向上、先進医療の導入、地域医療の充実、病院運営の効率化を目指し、平成19年より病院再開発事業に着手しました。令和6年1月には外来診療棟・病棟（A棟）が竣工し、既に稼働していたB棟・C棟とあわせて、診療関連施設の再整備がすべて完了しました。現在は、令和9年度末の完成を目標に、外構整備を進めております。

当院は、エイズ拠点病院、肝炎診療連携拠点病院、てんかん診療拠点機関、難病診療連携拠点病院、基幹型認知症疾患医療センターなどの指定を受け、鹿児島県内の医療水準向上に貢献しています。

がん医療においては、平成18年に「都道府県がん診療連携拠点病院」、令和元年には「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、県内におけるがん医療およびがんゲノム医療の中核的役割を担っています。

救急医療の分野では、平成26年4月に鹿児島県より救命救急センターの指定を受け、同年に整備されたC棟屋上のヘリポートを活用することで、救急搬送患者の受入体制の強化を図っています。また、当院は災害拠点病院および原子力災害拠点病院にも指定されており、有事に備えた体制の整備にも力を注いでいます。

医療従事者の教育においては、平成25年度に「総合臨床研修センター」を設置し、協力病院との連携のもと「卒後臨床研修プログラム」を実施するなど、優れた医師・歯科医師の育成に努めています。さらに、平成28年には九州の国立大学病院として初めて、厚生労働大臣より看護師の「特定行為研修指定研修機関」に指定されました。

鹿児島県内で唯一の特定機能病院として、鹿児島大学病院は、県民に信頼される高度医療の提供と医療の発展に向けて、多方面から貢献を続けています。

診療センター	部門科	中央診療施設等
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科	■検査部（臨床検査科） ■手術部 ■放射線部 ■救命救急センター（救急科） ■集中治療部 ■輸血・細胞治療部 ■周産母子センター ■全身管理歯科治療部 ■血液浄化療法部 ■病理部・病理診断科 ■光学医療診療部 ■歯科技工室 ■リハビリテーション部 ■中央採液室 ■臨床心理室 ■歯科総合診療部 ■遺伝カウンセリング室 ■外来化学療法室 ■がん先端医療センター（病理遺伝子診断科） ■肝疾患相談センター ■漢方診療センター ■てんかんセンター ■HIV対策室 ■緩和ケアセンター ■歯科口腔ケアセンター ■超音波センター ■ME機器センター ■探索的医療開発センター ■心血管病低侵襲治療センター ■ロボット手術センター ■難治性腸疾患支援センター ■脳卒中・心臓病等総合支援センター
消化器センター	消化器内科 消化器外科	■医療器材管理部 ■医療情報部 ■総合臨床研修センター ■医療安全管理部 ■感染制御部 ■地域医療連携センター ■医療相談室 ■地域医療支援センター ■女性医師等支援センター ■栄養管理部 ■臨床研究管理センター ■看護師特定行為研修センター ■医療クラーク管理室
脳・神経センター	脳神経内科 脳神経外科	■プロジェクトセンター ■下垂体疾患センター ■ヒトゲノム遺伝子解析センター
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科	
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科	
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・甲状腺外科	
メンタルケアセンター	神経科精神科	
小児診療センター	小児科 小児外科	
女性診療センター	産科、婦人科	
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科	
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 形成外科	
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科	
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科	
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科	
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科	
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯インプラント科	
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科	



人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、平成10年に設置され、博士前期課程4専攻（法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻）および博士後期課程1専攻（地域政策科学専攻）によって構成されています。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいます。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、外国人留学生特別選抜指定校推薦入試（秋入学）による留学生の受け入れ、遠隔授業制度（令和6年度より導入）など、社会のニーズに積極的に応えています。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができます。

博士前期課程

- 法学専攻
- 経済社会システム専攻
- 人間環境文化論専攻
- 国際総合文化論専攻

博士後期課程

- 地域政策科学専攻

教育学研究科

教育学研究科は、平成29年4月にこれまでの修士課程（教育実践総合専攻）に加え、新たに専門職学位課程（学校教育実践高度化専攻）を設置しました。令和6年3月に、修士課程（教育実践総合専攻）を廃止し、現在は、専門職学位課程（学校教育実践高度化専攻）の1専攻からなります。

学校教育実践高度化専攻は、指導力・展開力を備え、様々な教育課題に取り組む新しい学校づくりの有力な一員となり得る新入教員や、確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備え、地域や家庭と連携しつつ学校において指導的役割を果たしうるスクールリーダーとしての中核的教員の養成を目的とします。所定の科目を履修すると修了時に教職修士（専門職）の学位が与えられます。

また、幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭・養護教諭・特別支援学校教諭（知・肢・病）の一種免許状を所有していると、条件に応じて専修免許状を取得することもできます。

専門職学位課程

- 学校教育実践高度化専攻

保健学研究科

保健学研究科は、保健学に関する優れた専門知識・技術をもつ高度専門職業人並びに卓越した教育や研究のできる人材及び離島・へき地や国際的な保健医療活動の推進・充実に貢献できる人材を育成し、併せて教育研究の成果及び情報を広く提供し、社会に貢献することを目的として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置されました。

本研究科では、(1)優れた専門知識・技術をもつ高度専門職業人の育成、(2)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究ができる人材の育成、(3)離島・へき地や地域の保健医療活動の充実、向上に貢献できる人材の育成、(4)国際保健医療活動を推進できる人材の育成を教育目標としています。

なお、博士前期課程（看護学領域）には、看護学分野（精神看護専門コース含む）、助産学分野、公衆衛生看護学分野を設置しています。

博士前期課程

- 保健学専攻
 - 看護学領域
 - 保健学領域

博士後期課程

- 保健学専攻
 - 保健看護学領域
 - 神経運動障害基礎学領域
 - 臨床精神神経障害学領域

理工学研究科

理工学研究科は、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもと、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極め、社会の発展に寄与する高度専門職業人の育成を目的としています。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めています。

博士前期課程に3専攻11プログラム(PG)、博士後期課程に1専攻2コースを設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開しています。

博士前期課程

- 理学専攻
 - 物理・宇宙PG 化学PG
 - 生物学PG 地球科学PG
- 工学専攻
 - 機械工学PG 電気電子工学PG
 - 海洋土木工学PG 化学工学PG
 - 化学生命工学PG 建築学PG
- 情報科学専攻
 - 情報科学PG

博士後期課程

- 総合理工学専攻
 - 理工学コース 情報科学コース

農林水産学研究科

農林水産学研究科は農学研究科と水産学研究科を前身として平成31年(2019年)4月に設立されました。個々のニーズにきめ細かく対応でき、先進的スマート農畜林水産業の創出等を担える人材を育成するため、南西諸島と南九州の環境や食品・生命科学に関する農水融合型の「環境フィールド科学専攻」「食品創成科学専攻」、及び資源の持続的生産に向けたイノベーションを重視した「農林資源科学専攻」「水産資源科学専攻」の4専攻を設置しています。学生は植物生産科学、畜産科学、地域ビジネス、食品流通、養殖、食品創成に関する生産活動、食と健康、及びそれらの基盤となる地域の環境特性、亜熱帯化、森林科学、防災、水産資源、地域の生物環境等の高度な専門知識と研究・開発手法を学修します。それらに基づき、農畜林水産業や食品産業における問題を提起し、地域社会において指導的立場での解決策を示す能力を持つ人材を養成します。また、グローバル化人材を育成する「ダブル・ディグリープログラム」、「熱帯水産学国際連携履修プログラム」及び課程修了に必要なすべての学修を英語で行う「留学生プログラム」を開設しています。

修士課程

- 農林資源科学専攻
- 食品創成科学専攻
- 環境フィールド科学専攻
- 水産資源科学専攻

医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置されました。本研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としています。

本研究科には、現在、13講座、3プロジェクト講座、2連携講座のほか、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)や、本研究科の優れた研究シーズの非臨床・臨床開発と実用化への一体的な支援・推進を行う南九州先端医療開発センター(平成30年4月)を含む9研究センター、3共同研究講座、8寄附講座が設置されています。

修士課程

- 医科学専攻

博士課程

- 健康科学専攻
- 先進治療科学専攻

臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、臨床心理分野専門職学位課程であり、高度専門職業人の臨床心理士養成を主眼に平成19年度に国立大学初の独立研究科として設置されました。取得可能な学位は臨床心理修士(専門職)です。教育理念に(1)個別支援、集団支援、地域文化を理解した地域支援、危機介入支援ができる人材の育成、(2)教育、福祉、医療、司法・矯正領域等で即戦力となる人材の育成を掲げ、理論と実践を架橋すべく学内・学外実習を充実強化した2年間の教育課程を編成し、教育研究教員と実務家教員の協働による講義・演習・実習を連動させた指導を展開しています。要件を満たす者には、公認心理師受験資格も提供しています。

入学定員は15人で、修了後は精神科を始めとする医療関係、児童養護施設、スクールカウンセラー等における心理職、県市町村の心理職や、家庭裁判所調査官補、矯正心理専門職等の公務員心理職に就いており、博士後期課程に進学し研究職に就いている者もいます。

専門職学位課程

- 臨床心理学専攻

共同獣医学研究科

共同獣医学研究科は、平成30年4月に鹿児島大学10番目の大学院として設置されました。当研究科は、山口大学に設立された共同獣医学研究科と、修業年限4年間の共同教育課程(博士課程)を組み、2つの教育コースを設けています。一つは獣医科学コースで、我が国における次世代の欧米水準の獣医学教育を担う高度な研究者養成コースです。もう一つは獣医学専修コースで、実験動物の健康と福祉に寄与する実験動物医学専門医、病理学的診断により疾病制御を担う病理学専門家等の高度獣医学専門家、あるいは先端・高度な動物医療を担う指導者としての獣医療人を養成します。2つの教育コースとも修了要件を満たした場合、博士(獣医学)の学位が授与されます。

博士課程

獣医学専攻

連合農学研究科

連合農学研究科は、日本の食料生産基地である九州・沖縄において、農水産業のさらなる発展を目指し、環境と調和した安定的な食料生産および技術革新を担う指導者の養成を目的としています。

佐賀大学、琉球大学と鹿児島大学が連合し、多彩な教員組織により、専門的かつ学際的な教育研究体制を作り、社会・世界に貢献する博士を輩出する博士課程大学院です。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が授与されます。学位取得者は、日本人以外に多くの留学生が含まれ、国内外の幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍しています。

(注)連合農学研究科は、3大学(佐賀、琉球、鹿児島)で構成

博士課程

農水生命科学専攻

総合教育機構は、本学における学士の質保証、共通教育の実質化と高度化、そして地域人材の育成を全学的かつ学部横断的に行うことを目的として設置された本学全体の学修を支える組織であり、以下の7センター等から構成されています。

高等教育研究開発センター

高等教育研究開発センターは、国内外の高等教育(≒大学)について研究し、これをベースとして現在の鹿児島大学が置かれた状況をデータに基づき的確に把握するための調査・検討を行っています。また、全学的な教育カリキュラムの構築と改善、教育改革についての提案、教育の質保証に向けた教職員の能力開発なども実施しています。限られた学内資源を有効活用して高い教育成果、学習成果を挙げるための方策を立案、実施する主体としての役割が本センターに期待されています。

すなわち、本センターの活動には、「大学において大学を研究する」という側面と、「鹿児島大学において鹿児島大学について調査・検討する」という側面があります。そしてこの2つの取組の成果を、鹿児島大学における教育の改善につなげていくとともに、我が国の高等教育の発展にも資することが、本センターの大きな役割です。

近年、上記のように「大学が大学自身を調査・検討すること」をIR(Institutional Research)、「教職員の能力開発を行うこと」をFD(Faculty Development)やSD(Staff Development)と呼びます。これらの活動のうち、FDとSDについては大学の義務であるとされ、本学においても全学や各学部のFD委員会を中心に様々な取組が行われています。本センターは全学FD委員会において、IRで得られたデータを活用しつつ、FD・SD活動の企画立案を担っています。

さらに、学部横断型の全学的な取組である「地域人材育成プラットフォーム」において、教育プログラムの構築及びコーディネートを担当するのも本センターです。この「地域人材育成プラットフォーム」は、学習のプロセスと成果を管理するためのラーニング・マネジメント・システム(LMS)やe-ポートフォリオの導入などを通じて、地域人材育成の基盤というだけでなく、鹿児島大学における教育改革の重要な牽引役となります。その質的向上および量的拡大は、本学の将来を左右する大きな試金石であると言えます。

令和4年度から旧産学・地域共創センターの生涯学習部門が高等教育研究開発センターに加わりました。当部門は平成25年に制定された鹿児島大学生涯学習憲章に基づき次の役割を担っています。

- 人口減少型社会を見据えた生涯学習の質的転換の取組
- 青年期教育と成人教育、教養教育と職業教育などを接続させた高等教育機関としての生涯学習推進
- 地域の生涯学習の再構築への学校、行政、民間などと協働しての取組

多世代型の教育機会として、公開授業・公開講座・かごしまルネッサンスアカデミーなどの教育プログラムを推進しています。近年は、離島・へき地の教育機会格差の是正を視野に、奄美群島をモデルに産学官民が連携・協働する社会人向け教育プログラムの開発・実施、および、鹿児島県教育庁教育事務所や自治体と協働する人材育成にも取り組んでいます。



▲FD・SD合同フォーラムの様子(鹿児島大学FD委員会・大学地域コンソーシアム鹿児島共催)



▲奄美群島の社会人対象の教育プログラムを開発、その思想やカリキュラムの特徴をしおりにまとめました。

共通教育センター(共通教育)

共通教育センターは、専門教育と有機的・体系的に連携しながら、幅広い教養と豊かな人間性を培い、社会の発展のために貢献できる人材を育成することを目的とし、全学協力体制のもとに共通教育に関する企画・立案・実施を中心的に実施する機関として設置されています。

共通教育では、(1)自律性と自己管理能力の育成、(2)社会的責任と問題解決能力の育成、(3)国際性と異文化理解の促進、(4)専門分野の基礎知識と総合的視点の習得を教育目標としています。共通教育のカリキュラムは、初年次教育科目群、学際教育科目群、グローバル教育科目群、自然科学科目群、人文社会科学科目群で編成されており、さらに、主体的・自律的学びを促進することを目的として、個別最適化科目を設定しています。



▲共通教育科目「屋久島の環境文化I-植生-」授業風景



▲共通教育棟1号館

キャリア形成支援センター

キャリア形成支援センターは、全学的なキャリア形成支援体制のもとで、キャリア教育及びインターンシップを含めたキャリア形成・就職支援を充実・推進し、学生の多様なキャリア形成を全学的立場から支援することを目的として、令和2年4月1日に設置されました。

【主な業務内容】

- キャリア教育の研究開発・実施
- キャリア・就職支援の企画立案・実施
- インターンシップをはじめとする各種キャリア形成支援プログラムの企画立案・実施
- 学生(卒業生及び中途退学者を含む)のキャリア・就職に係る相談対応
- キャリア教育やキャリア・就職支援、インターンシップ等に関する調査・分析及び報告
- 求人その他の就職及びインターンシップ情報の収集・提供



▲センターが実施する「SKY CAMP」プログラムの様子



▲センターが実施するイベントの様子

中等・高等教育接続センター

中等・高等教育接続センターは、入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、入学者選抜方法の検証、学生確保に係る広報活動、中等・高等教育接続に関する事業等を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的とし、前身のアドミッションセンター（平成26年4月設置）を廃止して、令和5年4月に設置されました。

【主な業務内容】

- 多面的・総合的な能力の評価を行う入試の実施へ向けた各種調査・検討およびシンポジウム等の開催
- 入試結果の分析・評価や入学後の学業成績の追跡調査等を通じた入学者選抜機能の検証
- 鹿児島県内各地での「鹿児島大学説明会（単独主催）」の開催をはじめ、高校および高校生と大学との相互理解を深める「高校訪問」の企画実施、高校等からの大学訪問の受入といった入試広報活動
- 中等教育と高等教育との連携
- 入学前教育と補習教育の体系化



▲「鹿児島大学単独説明会」の様子

グローバルセンター

グローバルセンターは鹿児島大学の教育研究の国際化推進を目的に、留学生センター（平成12年設置）と国際連携推進センター（国際戦略本部（平成17年設置）を平成24年に改名）を統合して、平成28年4月に設置されました。「鹿児島大学 進取の精神グローバル人材育成 双方向交流プログラム」（P-SEG Interactive）の運営を通して学生の海外派遣を促進するとともに、外国人留学生を対象とした「Study Japan Program」で日本語・日本文化教育を提供し、留学生の受入を促進しています。日本人学生と外国人留学生の国際共修の場を提供し、全学の国際教育推進を統括しています。



▲「ベトナム学生海外研修」の様子



▲41カ国348名の外国人学生が留学中！

キャンパス・グローバル化部門

- 国際教育研究プロジェクトの推進
- 海外の大学・研究機関との連携強化
- 国際社会に向けた情報発信

外国人留学生部門

- 全学留学生向け日本語、日本文化・異文化理解教育
- 外国人留学生への生活・学習支援
- 留学生と地域との交流促進

学生海外派遣部門

- 「進取の精神グローバル人材育成 双方向交流プログラム」（P-SEG Interactive）の実施
- 海外研修、学術交流協定校等の派遣留学促進
- 海外留学に必要な情報の提供、相談・指導
- 日本人学生と外国人留学生の国際共修促進

教師教育開発センター

教師教育開発センターは、教員養成カリキュラムの全学的管理・運営体制の整備を行い、組織的指導体制を確立することに加え、地域社会と連携した教員研修等の支援及び教職課程の質保証を推進することを目的として、令和6年4月に設置されました。

【センター内各部門の主な業務内容】

教育実践研究部門

- ICT活用など教育DX化に関する知見を踏まえた学校現場へのコンサルテーション
- 理学部や法文学部などの専門分野の教員と附属学校教員との共同研究を推進

教員研修支援部門

- 学部・教職大学院のリソースを活用した県内の学校での教員研修の企画・実施
- 履修証明プログラム等を活用した鹿児島県内の教育課題の解決を支援

教員養成支援部門

- 教育学部・附属学校園のノウハウを活かした教育実習や教職実践演習の推進
- 教師を目指す鹿児島大学の全学生に対する教職支援（教員を目指す学生への支援業務及び教員採用試験対策の指導）

稲盛アカデミー

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業された鹿児島大学名誉博士の稲盛和夫京セラ株式会社名誉会長（当時）および京セラ株式会社からの寄付により、平成17年に学内共同教育研究施設「稲盛経営技術アカデミー」として設置し、平成20年に「稲盛アカデミー」へ改組しました。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った『21世紀型スキルを備えた人材』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」ことを基本理念としています。このため稲盛哲学（フィロソフィ）の探究および継承・発展を基盤に据え、人材育成を目指した教育研究および社会貢献（人間教育、経営教育、地域・国際連携）を展開するとともに、名誉博士創設の国際賞「京都賞」関連行事などを通じた地域および国際との連携・協働を図っています。

学内向けプログラム

共通教育科目の提供：「稲盛経営哲学」、「進取の精神」などに関わる科目の開設
海外研修などの学習機会の提供

学外向けプログラム

「履修証明プログラム」に基づく社会人向けの「稲盛経営哲学プログラム」の実施
「公開シンポジウム」の実施
「稲盛哲学」に関する国内外における研修の支援
「京都賞」関連行事の開催



ヒトレトロウイルス学共同研究センター

ヒトレトロウイルス学共同研究センターは平成31年4月に鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研究センターを再編・統合した新しい共同研究センターとして設置されました。前身の両センターは、それぞれ20年以上にわたるHTLV-1（ヒト細胞白血病ウイルス1型）やHIV-1（ヒト免疫不全ウイルス1型）研究の歴史があります。本共同研究センターではこれらのレトロウイルスとは異なる研究領域であるHBV（B型肝炎ウイルス）を加えた3つのウイルスの診断法・治療法の開発を目指した共同研究を実施しています。血液や神経の病気の原因となるHTLV-1やHIV-1と肝疾患の原因となるHBVはこれまで研究交流がほとんどありませんでしたが、3つのウイルスは逆転写酵素をもち排除が困難という共通点をもつため、新しい研究体制ではこれまでにない発想による新しい治療法の開発を目指しています。HTLV-1感染により、成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)や鹿児島大学で発見・命名されたHTLV-1関連脊髄症（HAM/TSP）を発症しますが、これらの疾患に対しては、いまだに有効な治療法が開発されていません。HIV-1感染では、ウイルスの増殖を抑制する抗ウイルス剤が開発されエイズの発症を予防できるようになりましたが、ウイルスそのものを排除できないため、一生薬を飲み続けなければならない問題が残っています。HBV感染では致死的な肝硬変や肝臓癌を発症しますが、ウイルスを完全に排除する治療法の開発はなされていません。本センターでは基礎研究と医薬品開発の橋渡しを担当するトランスレーショナルリサーチ部門を新設し、抗ウイルス剤と抗がん剤の開発を進めています。さらに令和2年から世界中に広がったパンデミック感染症である新型コロナウイルス感染症（COVID-19）についても研究を行っています。これまでにワクチンが開発され、重症化する患者さんは減少しているものの、いまだに収束に至っておらず、新しい治療法の開発が重要です。さらにこれらの研究成果を将来起こり得る、新しいパンデミック感染症への迅速な対応に活かすための取り組みも進めているところです。

本共同研究センターでは、従来の共同研究では実施されなかった、教員の共同選考や、大型機器の計画的な導入等の、人的・物的資源の最適化を実施する全国的にも初の試みがなされるため、少子化時代の地方国立大学連携の新しいモデルケースとなります。



▲センター建物



▲センター実験室



附属図書館

附属図書館は、中央図書館（郡元キャンパス）、桜ヶ丘分館（桜ヶ丘キャンパス・医学図書館）および水産学部分館（下荒田キャンパス・水産学図書館）の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供しています。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、一般市民に対しても開放されています。

近年は、ラーニングコモンズとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実に努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用しています。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開しています。

【中央図書館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

国民の祝日、年末年始等（12月27日～1月3日）

施設

鉄筋地上5階地下2階建（平成8年12月竣工）
総座席数 915席 図書蔵書冊数 100万冊



【桜ヶ丘分館（医学図書館）】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

国民の祝日、年末年始等（12月27日～1月3日）

施設

鉄筋3階建（昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築・令和4年3月改修）
総座席数 202席 図書蔵書冊数 15万冊



【水産学部分館（水産学図書館）】

開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

休館日

日曜日、国民の祝日、年末年始等（12月27日～1月3日）

施設

鉄筋2階建（昭和45年2月竣工・平成26年3月改修）
総座席数 130席 図書蔵書冊数 6万冊



保健管理センター

保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的としています。

センターでは、医師、保健師のほか、学医として学内の各科の専門医（内科、神経科精神科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科）による健康相談業務を行っています。さらに学医とカウンセラー、キャンパスソーシャルワーカーがこころの健康相談及び学生支援を行っています。桜ヶ丘キャンパスには分室があり、保健師が健康相談業務を行っています。

また、定期健康診断Web問診システムや感染症申請Webシステムを確立し、学生の健康状態等の把握に努めています。

【業務内容】

- 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導
- こころの健康相談ならびに学生支援・職員支援
- 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導
- 健康診断証明書発行（定健受診者のみ）
- 健康教育活動（学生・教職員への健康啓発講演会開催など）
- 環境衛生および感染症予防に関する指導
- 卒煙支援
- 心肺蘇生法講習会
- 産業界活動



総合研究博物館

総合研究博物館は、平成13年4月に旧国立大学では7番目の大学総合博物館として設置されました。鹿児島大学とその前身である明治以降の複数の学校で教育や研究に使用された貴重な学術資料を一元的に保存・管理・調査・公開し、これからの教育や研究に資するとともに、鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を社会に広く発信すべく活動を行っています。常設展示のほか、毎年様々なテーマで特別展を開催しています。また、ニュースレター・モノグラフ・研究報告の発行など、学内外に向けた出版広報活動と並行して、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座を開き、自然体験ツアーなども行っています。本館が保管している学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の利用があり、これらを利用して得られた成果は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されています。



▲特別展

埋蔵文化財調査センター

鹿児島大学では、郡元キャンパス・桜ヶ丘キャンパス・唐湊学生寮・指宿植物試験場・入来牧場に埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されています。埋蔵文化財調査センターは、学内の施設整備事業等によって影響を受けるこれらキャンパス内遺跡の保護対策を講ずることを目的として設置されています。センターの主な事業としては、校舎建設等工事に伴う発掘調査などの調査研究の実施や、調査報告書の作成、出土遺物の管理や活用などです。また、学内遺跡における研究成果公開の取組として、一般市民向けの体験発掘や遺跡見学会、公開講座などを開催しています。



▲発掘調査の様子

環境安全センター

大学は高度で専門的な教育・研究活動が行われる場であり、新しい発見、有用な成果、人材育成により社会の発展に貢献しています。その一方で、多種多様な廃棄物も発生しており、特に、実験廃液には危険性・有害性が高い性状のものも多くあります。これらの安全・適正な取り扱いと処理は一事業場として当然のことではありますが、万一問題が発生した場合には、個人として、そして組織として、迅速かつ適切に対応し、原因解明と再発防止に努める必要があります。

環境安全センターでは大学の教育・研究活動の結果生じる有害廃棄物の管理に関すること及び、実験排水の管理に関することについて全学から情報を集約し、安全・適切な管理を行えるよう体制を整備し、事故防止に貢献するとともに、学生・教職員に対し、適切な教育・指導・助言を行うことで安全・環境に関する高い知識と意識を持った人材の育成に貢献しています。



情報基盤統括センター

情報基盤統括センター(2022年4月より学術情報基盤センターより改組)は、鹿児島大学のDX(Digital Transformation)を推進し、地域のDXを積極的に支援するとともに、大学の情報通信基盤を支え、情報環境の高度化の推進に取り組んでいます。また、授業・自習利用のための端末室を設置し、当該センターに、鹿児島大学IDで利用できる端末を190台準備し年間通じて(月～金 8:30～18:00)利用できます。さらには、情報セキュリティマネジメントシステムを運用し、国際的な情報セキュリティ基準の下、安全な情報サービスを提供しているとともに、2016(平成28)年からサイバーセキュリティ戦略室を設置し、さらなるセキュリティ対策の強化及び事業継続計画対策、情報セキュリティ啓発活動、緊急を要するセキュリティインシデント事案への迅速な対応を行う体制も整えています。



地域防災教育研究センター

南九州・南西諸島域は、梅雨や台風による土砂崩れや洪水など発生頻度が高く、さらに、火山活動の活発な火山を多数有する地域でもあり、豪雨、台風、火山噴火、地震、津波などに起因する多様な自然災害が大規模かつ複合的に発生する可能性の高い地域です。このような地域で、人々が安心・安全に暮らすことができるため、地域防災体制の確立とそれを支える総合的な防災研究・防災教育の推進が喫緊の課題となっています。そこで、本センターでは、南九州・南西諸島域における災害の防災・減災を図るため、災害の実態解明、予測、防災・減災技術開発、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興などの課題に対し、総合大学である鹿児島大学の強みを生かした学際的防災研究の成果を基礎に、地方公共団体や地域住民と連携した課題解決に取り組み、地域防災力の向上に貢献することを目指しています。

調査研究部門

- 豪雨、台風、火山噴火、地震、津波などに起因する多様な災害に関する調査研究
- 災害時の応急対応、災害医療、復旧復興策、防災対策、警戒避難等に関する調査研究

防災教育部門

- 本学の共通教育、小・中・高等学校、市民講座等における防災教育の企画・運営
- 地域防災の核となる防災リーダーの養成支援、防災士資格取得支援

地域連携部門

- 地方公共団体、地域住民と連携した地域防災に係る課題の解決
- 自治体、自主防災組織、企業等からの防災に関する問い合わせの対応



▲レジリエント社会・地域共創シンポジウム

南九州・南西諸島域イノベーションセンター

南九州・南西諸島域イノベーションセンターでは、本学における研究支援・産学連携の中核的組織として知的財産専門家(弁理士)、リサーチアドミニストレーター、産学連携コーディネーター、地域連携コーディネーター、事業化支援コーディネーター等の専門教職員を配置し、学内研究者への外部資金獲得等の研究支援から、研究シーズと企業ニーズとのマッチングによる共同研究の推進、研究成果としての知的財産の保護・管理及びそのライセンスの推進、研究リスクマネジメントの推進、大学発ベンチャーによるイノベーションの創出まで、一体的でシームレスな支援を行っています。

研究・産学地域連携ユニット

- 本学研究者が国際的に高い水準で研究を実施するための各種研究支援活動
- 地域産業界や自治体等からの技術相談対応、一元的な社会ニーズ収集・集約、地域課題の発掘・収集
- 本学で生まれた研究シーズと企業ニーズとのマッチングによる共同研究・受託研究の推進
- 地域中小企業の研究・開発力強化をめざし、研究成果の可視化(試作・プロトタイプング)の場とした「オープン実証ラボ・実証フィールド」の企画・運営
- 大学研究成果を収集した「研究シーズ集」の発行、産業界等での活用が見込まれる大学研究・技術情報の展示会等での発信、大学研究成果の社会実装に向けた外部資金等の獲得支援、技術移転の推進
- 地域の産学官交流の場、大学研究成果の情報発信を目的としたセミナー・講演会の企画・運営
- 大学発ベンチャーの認定及び事業化支援活動 ●アントレプレナーシップ教育

知的財産・リスクマネジメントユニット

- 知的財産の創出、権利化、維持及び活用の戦略的な推進と一元管理 ●知財セミナーの開催等、知的財産に係る教育・啓発活動
- 知的財産のライセンス交渉やライセンス契約の推進及び共同研究契約や研究マテリアル移転契約等に対する支援
- 安全保障輸出管理や利益相反等、産学官連携に伴い生じるリスクマネジメントの推進



PARKS
Platform for All Regions of
Kyushu & Okinawa
for Startup-ecosystem



奄美群島共創連携推進センター

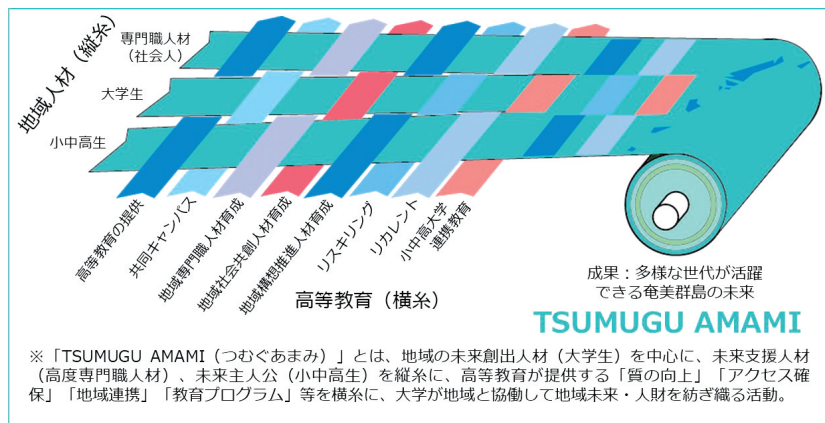
奄美群島共創連携推進センターは、奄美群島市町村等と連携して高等教育拠点「TSUMUGU AMAMIキャンパス（共同キャンパス）」を整備、運営するとともに、各部局等と連携して奄美群島に関連する教育・研究・地域連携機能を集約することを目的として令和8年4月に設置されました。

「TSUMUGU AMAMIキャンパス」では、奄美群島において大学生の中・長期滞在型実践教育を実施し、地域医療、学校教育、社会教育、農水産業、野生動物獣医等分野を中心とした実践力をもった専門職人材を育成するとともに、小中高大学連携教育プログラムやリカレント・リスキリングプログラム等、地域の多様な世代に対する高等教育へのアクセスを確保し、関係人口の拡大と個性を活かした地域づくりを通じて地方創生に貢献します。

また大学生が奄美群島に中・長期滞在することにより、地域の小中高生や地域住民との交流機会を創出し、子どもたちは近未来の自らの姿を想像できるとともに、高等教育への関心や進学意欲を喚起して地域の未来を創る人材の大学進学率増を図ります。さらに、地域の社会人・専門職人材へのリカレント・リスキリングの場の提供により、地域人材の高度化やUターン増加を促し、地方創生に貢献します。

将来的には、本学だけでなく他の大学とも連携し多くの学生を迎え入れる共同キャンパスを視野に入れ、奄美群島での経験を共有した学生たちが大学を超えたネットワークを形成し、奄美群島に何らかの形で携わることで関係人口が増加することも期待できます。

本センターは、平成27年に設置した奄美群島拠点の機能も継承しており、奄美市名瀬の奄美群島大島紬会館6階の居室、セミナールーム及び多目的ルームや教職員・学生が利用できる宿舎を引き続き運用しています。また令和6年度から奄美市で奄美群島拠点シンポジウムを開催しており、昨年度は「奄美群島の更なる発展に向けた地域連携と人財育成」をテーマに、一般、自治体・企業・学校・団体等の職員、高校生など対面とオンラインで約180名に参加いただきました。



国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島県からアジア・太平洋に広がる島嶼域を対象にした教育・研究を推進しています。学内の兼務教員と協力して島嶼域の諸問題について先進的な教育・研究を行うとともに、英文学術誌“South Pacific Studies”等を発行して世界の島嶼学研究を牽引し、研究会やシンポジウム、観察会を通して研究成果を地域に還元しています。令和6年度は奄美群島及びミクロネシアにおいて兼務教員とともに総合学術調査を行いました。研究会・島めぐり講演会はそれぞれ10回ずつ、シンポジウムは1回開催しました。鹿児島県の島嶼域における研究成果については、高校生・大学生など将来の人材への育成や一般の方への知の還元のために『鹿児島大学島嶼研ブックレット』等を発刊するとともに、英文書籍“The Amami Islands”や“The Koshiki Islands (R5年)”を出版して海外にも成果を発信しています。また、「島における教育」を積極的に実施しており、共通教育科目「島のしくみ」では奄美大島、大学院科目の島嶼学概論、環境島嶼学では奄美大島、十島村中之島において一部講義を行っています。また、アジア太平洋の若手研究者との交流や共同研究も進めています。さらに、平成27年4月に奄美市に国際島嶼教育研究センター奄美分室を設置し、文化・社会・生物の多様な地域として発展してきている奄美群島で急務である多様性維持機構の解明と保全の活動を行っています。



▲ ミクロネシア連邦 Chuuk 環礁での総合学術調査の様子



▲ 奄美分室で行われた「奄美分室で語りましょう」の様子

先端科学研究推進センター

先端科学研究推進センターは、地域課題の解決につながる研究及び先進的感染制御等の国際レベルの研究による地域への貢献等を推進し、先端的な生命科学・自然科学系の教育・研究の進展に資することを目的として令和4年4月に設置されました。動物実験、遺伝子実験及び放射性同位元素等を活用した教育研究および高度先端研究機器・設備の一元的管理・運営、新興・再興ウイルス感染症に対する高度な研究・教育活動等の推進・支援を行うため、3つのユニットおよび下部部門を設置しています。

① 生命科学動物実験ユニット

小動物から大動物に至る種々の実験動物を用いたシームレスな生命科学研究を推進・支援するため、研究支援センター・動物実験施設と医用ミニブタ・先端医療開発研究センターの統合によって設立されたユニットです。令和4年4月に発足した本ユニットでは、動物実験に関する研究推進や教育、実験動物の品質管理および安全管理による動物実験の適正化を基に、シーズ創出から実用化を目指した動物実験を推進するため、動物管理・小動物研究推進部門、大動物研究推進部門、共同研究部門として医用ミニブタ・先端医療開発共同研究部門の3部門が設置されています。

② 研究支援ユニット

高度先端研究機器・設備、遺伝子実験、RIを活用した教育研究を支援し、先端的な生命科学・自然科学の教育・研究・開発の進展に資することを目的としています。遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備、および解析機器類を整備する遺伝子実験部門、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図る機器分析部門、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理・防護、核燃料物質の管理ならびに低温寒剤の安全教育、低温実験支援を行う低温実験・アイソトープ部門、研究用生体試料を収集・保管し、学内外の研究者や企業等へ提供を行うバイオバンク部門の4部門が設置されています。

③ 感染制御研究ユニット

本学における先進的感染制御研究の推進を目的として、令和4年度に設置されたユニットです。バイオセーフティレベル3 (BSL3) 実験室を擁し、学内の各部署や、海外を含めた他大学・研究機関、企業と連携・協力することで、社会・地域からのニーズが高い新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を中心とする新興・再興ウイルス感染症から人々を守るための予防・治療法の研究開発や、それに携わる研究者育成等を行っており、感染制御研究部門の1部門が設置されています。



▲先端科学研究推進センター

フィリピン大学ビサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ビサヤス校 (UPV) の日本オフィスが平成18年4月に開設されました。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミアガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定されました。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてです。

水産学部は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきました。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行いました。その結果、研究交流が各教員レベルに根付いており、平成27年度から開始された「熱帯水産学国際連携プログラム」などによる大学院生の交流も活発化しています。



▲フィリピン大学ビサヤス校

稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設されました。

ベトナム事務所には客員教授を配置し、(1)ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2)ベトナム社会主義共和国内の大学等との共同研究、(3)ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4)その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究および社会貢献に係る国際活動を推進するなど、国際的な交流活動を行っています。



▲共通教育科目「進取の精神海外研修inベトナム」の様子

学部等附属教育研究施設

法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター

本センターは2022年10月に法文学部の附属機関として設立されました。

活動は大きく二つの柱からなっており、一つは鹿児島の近現代にかかる歴史・文化・社会の記録（資料）の収集、目録作成やデジタル化を推進し、教育・研究に活用できるように整備を行う事業です。もう一つは地域が抱える様々な問題を、学内の研究者が中心となって自治体・企業・学校・市民など学外の協力を得ながら解決を目指す、公募型のプロジェクトを展開していく事業です。

二つの事業で得られた成果は、鹿児島大学の社会貢献の一環として鹿児島あるいは近現代に関するシンポジウム、ワークショップ、講座の開催、出版、ホームページを通して広く地域や世界に向けて発信していきます。



▲設立記念シンポジウム「鹿児島の近現代」

共同獣医学部附属動物病院

鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院は、学部附属の教育施設であり、将来の獣医師を養成するための重要な教育病院です。動物の診断や治療に関する各種研究活動も行っており、地域獣医療の中核病院としても機能しています。診療対象動物は、犬や猫といった伴侶動物の他に、地域性も背景とした産業動物の比率も大きく、この分野における機能が充実した数少ない病院でもあります。平成20年には他の獣医系大学では類を見ない軽種馬診療センターも設置し、馬の診療にも対応しています。共同獣医学部は、令和元年に獣医学教育の国際認証を取得しており、その一環として、平成29年に伴侶動物の診療を行う小動物診療センターと産業動物の診療を行う大動物診療センターをそれぞれ新営、改修設置しました。伴侶動物診療においては、鹿児島県内以外にも南九州全域からの依頼症例を受け入れており、また、産業動物診療では郡元に加えて大隅町に大隅エリアの診療拠点を設置し活動しています。

これらの施設は地域の動物医療への貢献と同時に実践的教育拠点となっています。

診療時間	9:00 ~ 16:00	休 診	土曜日 日曜日 祝祭日
月～金曜日	19:00 ~ 翌 6:00（予約制・夜間診療）		



▲動物病院建物外観

共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センター（SKLV センター）

鹿児島大学共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センターは、鹿児島県曾於市が事業主体となって整備した南九州畜産獣医学拠点において、本学部の産業動物獣医学教育の特色を更に強化し、より高度な産学官連携体制を基に他大学の学生や国内外の技術者を対象に実践的畜産獣医学教育を行う教員組織として令和5年度に設置されました。和牛生産肥育一貫農場、肉用鶏飼育施設、及び乗用馬飼育施設において、動物の健康と福祉に配慮した適正な維持管理、農場衛生・経営に関するコンサルテーション等の獣医業務を通じた産業動物臨床獣医学と動物衛生学の教育組織として発足し、令和6年度の共同獣医学部畜産学科新設と併せて、入来牧場や郡元食肉分析室の合流により当該センターにおける畜産学のエデュケーション組織が強化され、獣医学部門と畜産学部門へと拡充しています。動物福祉に配慮した家畜飼養管理法、畜産動物の疾病検査、動物用医薬品等の共同開発、畜産農場指導審査、施設外周辺農場における高度な産業動物獣医療、畜産物評価の他、地域の児童・生徒の教育等にも産学官連携によって取り組み、動物を通じた交流人口増を促すことによって地域の活性化に貢献します。



▲南九州畜産獣医学拠点全景

教育関係共同利用拠点

各国立大学が有するさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、平成21年9月に認定制度が創設されました。国立大学からの申請に基づき、文部科学大臣が認定を行います。

水産学部附属練習船かごしま丸

水産学部附属練習船かごしま丸は、平成22年度に、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として文部科学大臣より認定され、水産・海洋系カリキュラムを持ちながら練習船を保有しない全国の大学に質の高い洋上実習の機会を提供しています。令和7年度より拠点認定4期目(5年間)に入り、従来の共同利用乗船実習に加えて、全国の大学の教職課程学生向けに、初等中等教育における海洋教育指導に資する洋上実習の機会提供を実施しています。平成24年には、かごしま丸(Ⅳ世)が共同利用に投入されました。かごしま丸(Ⅳ世)は、2基の全旋回型推進装置とバウスラスターを装備し、横・斜め移動やその場回頭など特殊操船能力を持ち、電気推進システムにより防振・防音対策を施しました。さらに、実験室を拡充したことにより実習環境が大幅に向上しました。また、水産・海洋分野の幅広い分野の教育のために搭載した様々な漁具や生物標本採集具、海洋観測装置など最新鋭の設備を活用し、本学および利用大学の学生・大学院生に高度な洋上教育を安全かつ効率的に実施できます。

拠点認定以降、国内の大学の水産・海洋系学部や研究科による利用に加えて、文系学部や放送大学の全国開放型授業、更には水産学部の主な対象域でもある東南アジア域内の大学に国際共同利用されるなど、充実した共同利用が展開されています。



教育関係共同利用拠点

農学部附属高隈演習林

高隈演習林(垂水市)は、森林・林業に関する教育研究のための附属施設として旧制鹿児島高等農林学校時代の明治42(1909)年に開設されました。総面積3,061ヘクタール(垂水市の19%、本学が所有する土地の84%を占める)の広大な森林は、100年余り前から先人達が築き上げてきた人工林(屋久杉を起源とするスギやヒノキなど)がおおよそ3分の1を占め、残りは南九州を代表する豊かな照葉樹の天然林に覆われています。演習林は主に農学部森林科学コースの学生によって、専門課程の実習や研究等で利用してきましたが、平成12(2000)年ごろから専門課程以外の共通教育や他大学の授業で、あるいは地域貢献として児童生徒を対象とした森林環境教育や社会人を対象とした林業技術者教育など、利用の幅が大きく広がるようになってきました。

国内外の高等教育機関の教育研究フィールドとして平成26年度に文部科学省から教育関係共同利用拠点の認定を受け、2期が終了するまでの10年間で延べ4,700人を越える利用がありました。令和6年度からは「多世代・多様なひとと磨き合う学びと出会いの森拠点」として3期目がスタートし、林業、環境教育、動植物、防災、地域コミュニティ等の多様な分野で多くの大学から利用されています。



教育学部附属学校

附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、創立147年目を迎える全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園です。今年度は、3歳児12名、4歳児27名、5歳児21名、計3学級60名が在籍しています。研究主題に「遊びの中で育つ子どもの道徳性の芽生え」を掲げ研究し、研究成果を公開することで、本県の幼稚園教育に寄与しています。

また、学部と連携し研究を深めるとともに、親と子が共に育つ場としての幼稚園を目指しています。



附属小学校

附属小学校は、創立149周年目を迎え、21学級619人の児童が在籍しています。教育学部の附属機関として、教員としての確かな資質・能力を高める講義や教育実習に取り組むとともに、国や県の教育の動向や課題を踏まえた先導的な教育研究の推進及び、その成果の公開に取り組んでいます。また、複式学習指導法やICTを活用した教育活動の実際など、学校現場の様々なニーズに対応した授業視察を受け入れることを通して、県内外の教育の発展に寄与しています。なお、6か年の計画で、令和3年度入学児童から、1学年の定員を1学級(35名)減じました。また、令和6年度入学児童から、1学年の定員を15名減じることにより、学校規模の見直しを図っています。



附属中学校

附属中学校は、創立76年目を迎え、540名(学級数15)の生徒が在籍しています。平成21年度には校舎改修工事、平成23年度にはグラウンド改修工事が完了し施設・設備も一新されました。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、その1本1本に校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」の名をもつシンボルツリーでもあります。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の教育実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校です。



附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒56名が在籍しています。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子供の成長と自立を支え、共に向上し続ける学校」、「附属学校として質の高い研究と教育実習を追究し続ける学校」、「保護者や教育関係者、地域のニーズに丁寧に応え続ける学校」を目指しています。



◆本学の特徴ある研究

(1) 地域社会の課題解決につながる研究

① 島嶼

国内外島嶼地域における自立的発展に寄与する研究の推進

鹿児島大学はその創立以来、鹿児島県下の島嶼域はもちろんのこと東南アジアや南太平洋の島々をフィールドとした研究が各学部で独自に行われてきました。このような歴史的伝統を踏まえ、南九州からアジア・太平洋諸地域などの産業振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化・情報環境の改善や向上など、地域や国際社会の発展に貢献するとともに、島嶼学の世界水準の教育・研究拠点となることを目指し、次の3プロジェクトとデータベース作成が行われています。

【環境変動に適応する「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクト】

自然や社会の環境変化の影響を受けやすい島嶼域の教育研究機関や行政と連携し、国際的な島嶼教育研究拠点を形成しています。令和7年度は対面式とオンラインのハイブリッド式のシンポジウム「島の貴重なカンキツ―その特徴と可能性を探る―」を開催しました。

【島に生きる「島嶼社会」生活力向上プロジェクト】

人々の生活に関わる社会、歴史、文化、医療、情報等の研究テーマを調査分析し、その相互関係も含めた総合的な生活力向上の改善策を構築しています。令和7年度は、主に奄美群島において総合調査と島民向け講演会を行いました。

【島嶼地域発展のための適応策構築プロジェクト】

県内島嶼域の農林畜産水産資源の探索、機能性成分の分析などを通じて地域産業の発展や振興策を構築し、そのための人材養成を行っています。令和7年度は人材育成を目指し3冊の鹿児島大学島嶼研ブックレット『共生』を考える―希少種による農作物被害の現場から』『諏訪の瀬島火山―火山研究のミッション』『鹿児島から沖縄のヤムイモ、タロイモ、キャッサバ』を出版しました。

【多島域データベース】

鹿児島県南部の島嶼に関する文献データベースである「薩南諸島データベース」、国際島嶼教育研究センターの出版物データベースである「島嶼研出版物データベース」、奄美群島の自然科学系文献を対象にした「奄美生物多様性文献データベース」から成る『文献データベース』と鹿児島県島嶼統計資料から成る『資料データベース』を作成しています。



▲シンポジウムのポスター



▲出版したブックレット

② 環境・生物多様性

2021年に世界自然遺産に登録されてから5年目を迎える奄美地域と、わが国で最初の世界自然遺産である屋久島を抱える鹿児島島の豊かな自然環境と文化に関して、地域とともに問題解決を模索する研究である鹿児島環境学プロジェクトと、生物多様性に関する全学的な研究を推進する生物多様性プロジェクトを進めています。

鹿児島環境学プロジェクトでは、2008年の開始以来、地域の方たちと協力した自然共生型地域づくり等の研究や、世界自然遺産登録上の重大な課題だった「ノネコ問題」に焦点を当て地域関係者と解決に向けた共同研究を行ってきました。また、2018～2021年度には「環境文化」を通して豊かな地域づくりを考えるシンポジウムを奄美大島各所で開催することで、世界自然遺産登録に向けた、アカデミックの立場からの支援行ってきました。2025年度は世界自然遺産の管理支援のため、住民参加型外来植物モニタリングについての高校での特別授業や遺産地域での生物多様性モニタリング調査を行いました。また、環境文化の考え方を地域の活動や国立公園の管理に活用と、地域の環境文化の継承や地域振興を目指した座談会を開催しました。



▲環境文化に関する座談会

近年、世界自然遺産の管理においては、地域の文化や知識を遺産の管理に取り入れることが重要視されていますが、これは鹿児島環境学プロジェクトがこれまで進めてきた取組みと合致するものだと考えています。このような世界的にも先進的な取組みである鹿児島環境学プロジェクトの取組みをさらに発展させるとともに、海外への情報発信も行います。

生物多様性プロジェクトでは、ミッション実現戦略予算の『奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル』の研究者と協力して次のような研究・教育活動を行っています。奄美の世界自然遺産地域の長期モニタリングのために5年前から設定した調査区の再測定、遺産地域の保全上の問題となっているノヤギやアマミノクロウサギの食害について調査、将来の気候変動の影響を予測するための植物の分布調査を行いました。また干潟、岩礁、マングローブ林を含む沿岸域生態系では魚類、甲殻類、貝類、海藻等の生物の分類や生態などを研究して進化や生物多様性維持機構の解明を進め、地域研究として奄美群島の農業、水産業、歴史、伝統文化および文化の変遷に関する研究を行っています。教育活動として、奄美大島で「島めぐり講演会」、植物観察会、海の生物観察会を行い、2026年2月14日には奄美大島でこれまでの研究成果を地域の人に知ってもらうためのシンポジウムを実施しました。鹿児島大学についてよく知ってもらうと同時に相互理解を深めるために、奄美群島在住の方で生物多様性に関心の深い方7名を鹿児島大学に招聘し、ワークショップを2026年1月27～28日に開き、大学の施設見学や講演会・討論会を行いました。これらの成果を一般の方に広めるために「奄美の生物多様性と人々の暮らし」という259頁の一般図書を2026年3月に発行しました。



▲出版した本の表紙

③ 食と安全

食と安全プロジェクトは、鹿児島県の豊かな食物・飲物が持つ機能性とより良い活用法を研究することで、高齢化社会の中での生活習慣病予防や老年症候群予防など、食による安全と健康長寿に寄与することを目的とします。また、本研究により機能性が明らかになった食品に対し消費者の関心が高まり、市場での価値を上げることで県内産飲食物の需要拡大に寄与することが期待されます。

本研究は、鹿児島大学医学部・農学部・水産学部ならびに県内外複数の民間企業との部局横断産学連携プロジェクトであり、民間企業・農家・地方自治体からの機能性解明・活用法開発の要望を受け、大学の知識・研究技術を活用し研究を実施します。

【黒膳プロジェクト】

黒膳プロジェクトでは、鹿児島県産食材の機能性解析ならびに高機能メニューを作成しています。現在各城山ストア店舗の他、鹿児島中央駅および博多駅構内、ネットスーパーにて「薩摩黒膳弁当」「薩摩黒膳かんぱち弁当」を販売中です。その他、県産柑橘類や月桃など県内産の高機能食材を用いたメニューの試作も順次行っています。

【焼酎プロジェクト】

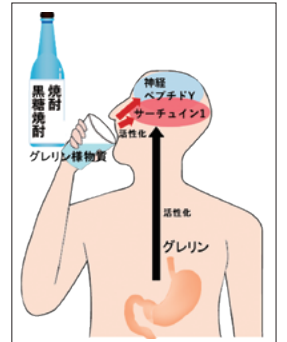
百寿者が多い鹿児島県民の食生活に着目した焼酎プロジェクトにおいて、焼酎・黒糖焼酎に老化を抑え健康長寿を促進するホルモン「グレリン」と同様の働きをする物質（グレリン様物質）が含まれることを明らかにしています（特許第7430442号）。日本では2024年2月に新たな抗肥満薬（グルカゴン様ペプチドGLP-1アゴニスト）が承認されました。今後この種の抗肥満薬が世界で臨床応用されていくことが期待されますが、鹿児島県本格芋焼酎の香気成分ゲラニオールが、胆汁酸受容体を介して内因性GLP-1を放出させることを明らかにしました。芋焼酎が肥満・2型糖尿病の患者さんにも楽しんで頂ける科学的根拠の1つとなります。2024年、講談社の「食と医療」に、「焼酎と健康」というタイトルでデータをまとめ報告しました。また、現在、アルコールの毒性に関わるアセトアルデヒドの分解を促進する鹿児島県産食材の検討を行っています。

【月桃プロジェクト】

離島地域より島の特産物として研究要請がありました月桃の種子の機能性研究を行っています。本研究により、月桃の種子は古来大草薙（ダイソウク）として消化不良や嘔吐下痢に利用されており、ポリフェノール含量が非常に高いことが明らかになりました。



▲ 2019年度お弁当・お惣菜大賞全国第二位を受賞した薩摩黒膳弁当(左)と薩摩黒膳かんぱち弁当(右)



▲黒糖焼酎・芋焼酎に含まれるグレリン様物質の作用

④ 水産・海洋資源、再生可能エネルギー

鹿児島県の水産業は漁業就労者の減少により省力化・効率化が急務となっています。また、多くの島嶼部では需要に応じた発電・送電が困難であり、一次産業の高度化に課題を抱えています。さらに、広大な海岸線を有する本県にとって海洋プラスチックごみ問題は極めて深刻です。海×島SDGs推進プロジェクトは、これらの課題解決と地域産業の強化を目的として、水産・海洋産業のスマート化、島嶼部における再生可能エネルギーの高効率利用、AI・リモートセンシングを活用した海洋ごみ観測・定量化技術の開発を進めています。本年度は水産分野と海洋プラごみ分野に関わる取り組みについて紹介します。ここで紹介する漁場予測・赤潮監視技術や海洋ごみの観測・定量化技術の開発は水産白書や環境白書に掲載され、我が国の政策決定に役立っています。

【スマート水産業：漁場予測・赤潮監視システムの開発】

高分解能海洋モデルと洋上フィールド施設（練習船南星丸・かごしま丸）を利用して、スマート水産業を推進する技術創出と社会実装化に関するプロジェクトを推進しています。漁場探索・赤潮監視における不確実性低減・経費削減・業務効率化を可能とする、海洋ビッグデータ・数値実験・人工知能を駆使したシステムを開発し、社会実装化しつつあります。例えば、ブリ・カンパチ養殖の天然種苗を採捕するための漁場探索システム（モジャコ漁支援ツール）、サバ類などの小型浮魚類を漁獲するための漁場探索システム（浮魚類漁業支援ツール）、赤潮発生情報が集約された赤潮監視システム（赤潮監視支援ツール）などが多くの漁業関係者に利用されています。国際情勢や環境変動にレジリエントな水産養殖モデルを構築することによって、地域基幹産業の振興に貢献しています。

【リモートセンシングと画像解析AIを活用した観測・定量化技術の開発】

街中から河川、海岸、沿岸域へと運ばれるプラスチックごみの流れを明らかにするために、リモートセンシングと画像解析AIを活用した観測・定量化技術の開発を進めています。スマホアプリ（市民科学）、ドライブレコーダー、固定設置型Webカメラ、ドローン、人工衛星など、多様な観測手法を組み合わせることで、ごみの分布や量を広域かつ継続的に把握し、科学的根拠に基づく政策立案や対策の高度化につなげることを目指しています。実際、得られた成果は、環境省から発表された海ごみモニタリングに関する国際的なガイドラインにも反映されています。今後は、海ごみ対策の重点地域の抽出や清掃計画の最適化、自治体による効率的な環境管理への活用を通じて、研究成果の社会実装をさらに推進する予定です。さらに、本研究で開発した観測・解析技術は、地域ごとの実情に応じた監視体制の構築に役立つものであり、東南アジアをはじめとする海外地域への展開が期待されています。将来的には、地上・沿岸・空・宇宙からの統合的な観測基盤へと発展させることで、国際的な海洋環境監視や、より実効性の高い海洋ごみ対策に貢献していくことを目指しています。



▲海洋ごみモニタリング手法の調和ガイドラインに関する情報が公開されている環境省のウェブサイト (https://www.env.go.jp/water/post_114_00007.html)



▲大学のウェブサイトで公開しているモジャコ漁支援ツール (<https://nagaremo.fish.kagoshima-u.ac.jp/>)、浮魚類漁業支援ツール (<https://uki.fish.kagoshima-u.ac.jp/>)、赤潮監視支援ツール (<https://akashio.fish.kagoshima-u.ac.jp/>)



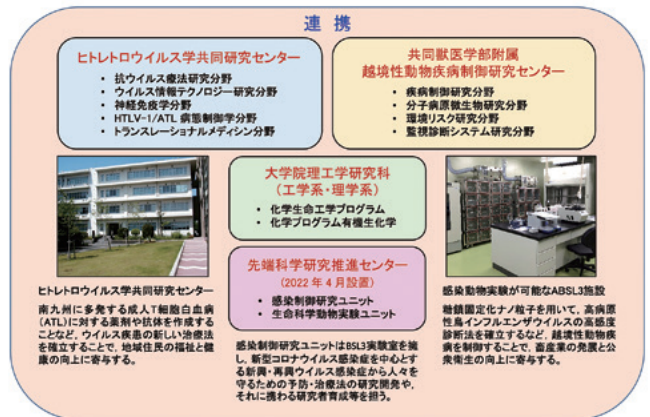
▲ドローンを利用した海ごみの現地調査

(2) 国際水準の卓越した研究

⑤ 先進的感染制御(難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症、新興・再興ウイルス感染症等)

ヒトレトロウイルス学共同研究センター、共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター、先端科学研究推進センター・感染制御研究ユニット、そして大学院理工学研究科の研究分野の一部が連携することで、感染症制御に関する新しい学際的研究を実施しています。特に、HTLV-1や鳥インフルエンザウイルスなど、鹿児島地域において脅威となる感染症に対し、診断・予防・治療に関わる先進的な研究を展開する事によって防御体制を構築し、地域住民の福祉と健康の増進を図るとともに、地元畜産業の発展と公衆衛生の向上にも寄与するような、感染症に関する国際レベルの研究を目指しています。本学ではこれまでに、医学分野においてHTLV-1やそれによって起こる成人T細胞白血病や中枢神経疾患のHAMに関する卓越した研究業績があり、また、獣医学分野では鳥インフルエンザのサーベイランスや各種ウイルスの病原性解析、感染実験動物モデルの構築に多くの実績があります。さらに、世界的な課題である新型コロナウイルス感染症を中心とする新興・再興ウイルス感染症の治療法開発にも取り組んでいます。

鹿児島大学先進的感染制御研究拠点(構想)



⑥ 天の川銀河

七夕伝承でおなじみの天の川は、数千億もの星々が集まった直径10万光年にも及ぶ天体で、太陽系はその中にあります。宇宙には同種の天体である銀河が無数に存在しますが、天の川銀河だけがその内部を3次的に詳しく調べることができます。鹿児島大学では、天の川銀河の構造・内部運動、そこで起こる恒星・惑星の形成や末期の恒星が起こす種々の現象、銀河中心核のブラックホールの影響などについて、世界トップレベルの研究を行っています。国立天文台と共同で種々の天体までの距離や運動を観測したり、星間ガスの広域観測を実施するなど、天の川銀河の構造・運動の解明に大きな貢献をしています。薩摩川内市入来の20m電波望遠鏡は鹿児島大学が運用しており、他の望遠鏡と連携して巨大電波干渉計を構成できる能力を持っています。その隣にある鹿児島大学1m赤外線望遠鏡では、独自に開発したカメラkSIRIUSを用いて、天の川銀河内の突発現象や超新星爆発など、多様な天体の研究を行っています。これに加えて、国内外の種々の望遠鏡を用いて様々な天体に関する詳細観測を行うと共にスーパーコンピュータを用いたシミュレーション研究も行っており、年老いた恒星が放つジェットのごく初期の様子を明らかにしたり、銀河中心にあるブラックホール周囲で惑星に相当する天体が形成される可能性を示すなど、天の川の完全理解に挑戦しています。

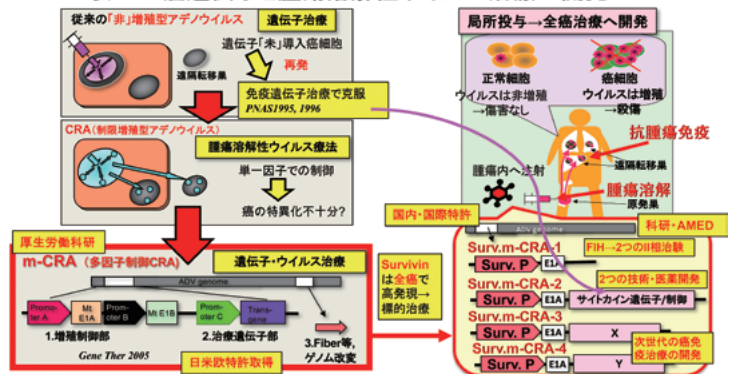


◀入来観測所に設置されている1m赤外線望遠鏡とkSIRIUS。kSIRIUSは、近赤外の3波長帯を観測できるカメラであり、本学教員と大学院生によって手作りされた。

⑦ 難治性がん

遺伝子治療の早期開発・実用化が世界的に期待されているが、独創先駆性と高度専門性が要求されるため、革新的ながん遺伝子治療の腫瘍溶解性ウイルス(OV)の承認例も、世界でも未だ二例に過ぎません。本プロジェクトは「次世代OVの独自開発と実用化」という、最先端かつ挑戦的研究です。まず研究代表者(小賤)は、従来のOVの性能を凌ぐ「多因子によるがん特異的増殖制御型アデノウイルス(m-CRA)」のプラットフォーム作製技術を独自開発しました。次にその技術でサバイビン反応性m-CRA(Surv.m-CRA)を発明し、第一弾Surv.m-CRA-1のグローバル基準での非臨床開発(GMP製造、GLP非臨床試験、規制対応)にも成功しました。本学でFirst-In-Human(患者さんへ世界初の投与)第I相、第II相医師主導治験を実施して高い安全性と一部有効性のデータを得て、現在、本承認への第III相医師主導治験(世界初)を進行中です。さらに転移がんも効果的に治療できる第二弾のSurv.m-CRA-2の二つのシーズも、AMED大型事業で非臨床開発中です。併せて、革新的ながん免疫治療となる次世代m-CRAの基礎研究開発も、別のAMED事業で進めています。これらの研究成果の社会実装のため、鹿児島大学認定ベンチャーも創業し、製薬企業へライセンスもしました。大型競争的研究費の取得額、自学主導の医師主導治験数、遺伝子治療の基礎・非臨床・臨床応用から事業化までの研究開発の実績はいずれも本邦トップクラスであり、学術的・社会的意義が何度も全国報道されてきているように、本プロジェクトは社会的にも非常に期待されています。

我々の癌遺伝子と腫瘍溶解性ウイルス治療の開発



◆かごしまルネッサンスアカデミー

鹿児島大学では、平成18年度から22年度の間、文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」による補助事業として、「食の安全管理コース」、「経営管理コース」、「健康・環境・文化コース」の3コースによる人材育成プログラム「かごしまルネッサンスアカデミー」を実施し、総計250名の修了者を地域に送り出してきました。

平成24年度からは、この成果を受け、後継事業として、部局等が企画・実施する「履修証明制度」に基づく社会人向け人材養成プログラムを、新しい「かごしまルネッサンスアカデミー※」として継続して実施し、プログラムの内容と質を保証しています。[現行は、焼酎マイスター養成コース、次世代林業マイスター養成講座(旧「林業生産専門技術者養成プログラム」)、稲盛経営哲学プログラム、食品安全管理基礎講座(旧「食品管理技術者養成コース」)、奄美環境文化教育プログラム、農業分野における野生動物管理者養成プログラムを開講しています。]

※年度によっては中止・延期等ございますので、受講希望の方は必ず各プログラムの最新情報をご確認ください。

※かごしまルネッサンスアカデミーとは、本学が実施する履修証明プログラムのうち、主に社会人向けに「地域力」を高めることを目的として実施される人材育成プログラムの総称です。



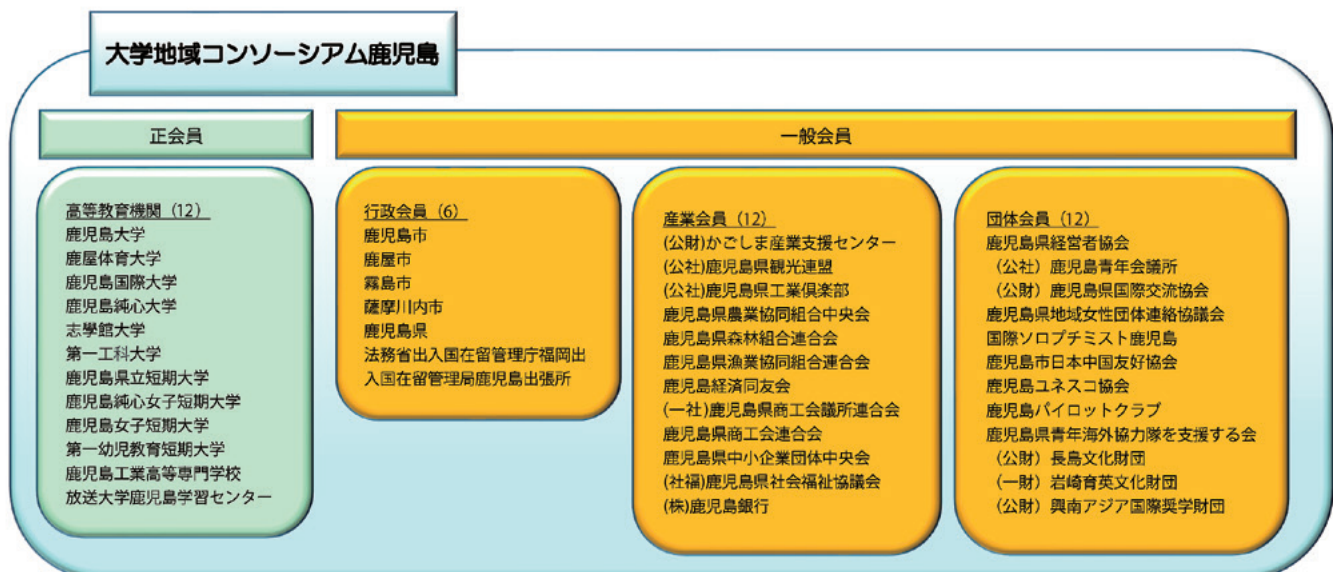
▲講義(焼酎マイスター養成コース)

◆大学地域コンソーシアム鹿児島

「大学地域コンソーシアム鹿児島」は、鹿児島県内13の高等教育機関(当時)が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域の教育および学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成21年1月6日に設立されました。

令和2年度からは、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」として平成27年度から令和元年度まで実施された「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」の共同事業を継承し、また、鹿児島県内の国際交流の推進や留学支援を目的とした「鹿児島地域留学生交流推進会議」を本コンソーシアムに集約したことから、参加機関も国の機関、地方公共団体、産業関係団体及び各種団体を含む44機関に拡充されました。さらに実施事業も再編し、現在「教育連携」「FD・SD活動」「教員養成・研修事業開発推進部会」「高大連携」「地域連携・就業」「地域留学生交流推進」の6事業部会を置き、活動を行っています。

〈参加機関〉



男女共同参画推進センター

鹿児島大学男女共同参画基本理念に基づく行動計画及び女性活躍推進法に係る一般事業主行動計画等により、男女共同参画の視点に立った情報提供や環境整備、仕事と生活の調和（ライフワークバランス）の推進、男女共同参画の視点に立った能力開発・能力発揮の支援、学外関係機関との連携等に取り組んでいます。

「研究支援員制度」「教員業務短期支援員制度」「保育支援制度」の運用や育児・介護制度紹介等による仕事と生活の両立支援、男女共同参画や次世代リーダー育成に関するセミナー及び男女共同参画に係る共通教育科目等による意識醸成機会の提供、「メンター制度」の運用による相談対応等を実施しています。

～一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために～



▲男女共同参画推進センターシンボルマーク
(2010年11月制定)

ボランティア支援センター

ボランティア支援センターは、平成20年7月に設置され、学生が様々なボランティア活動に参加し、地域との関わりを持つことで人間力を高め、学生による地域貢献や地域の活性化を図るため、ボランティア教育への支援や災害発生時の復旧支援活動、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティア関係機関・団体との連絡調整などの業務を行って、学生がボランティア活動に参加しやすい環境を設けて支援しています。



障害学生支援センター（修学支援室）

修学支援室では、つまづきを感じている学生や障がい学生および保証人、担当教員からの修学に関わる相談に応じています。専任教員および事務職員が常駐し、障がいのある学生への支援を円滑に実施するため、各部局や保健管理センターと連携を取りながら、支援を実施しています。また、必要に応じ会議（入試事前・入学前・修学支援）を実施し、合理的配慮の提供を含めた支援方法を検討することで障がい学生が自分らしく豊かな生活を送ることができるように支援しています。令和3年度より「障害学生支援センター学習室」（支援員常駐）を設け、遠隔授業や遠隔での就職活動に利用できる学習スペース及び個別ボックスを利用できるようにしています。



▲障害学生支援センターの様子



▲学習室の様子 学習ボックスもあります

インフォメーションセンター

インフォメーションセンターは、一般市民、受験生や企業の方々との交流拠点として平成19年4月、正門に付設されました。鹿児島大学の教育・研究・社会貢献活動の概要の紹介、各種イベント等の案内、研究成果物の展示を行っています。スタッフが常駐し、市民が利用できる施設の案内、学部・研究科等の概要や広報誌等の配布、鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ等の販売を行っています。



開 館 時 間	月～金曜日(祝祭日等除く)	9:30～16:30(販売は16:00まで)
---------	---------------	------------------------

販 売 物	鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ、ねじめびわ茶、寮歌・学部歌集(CD)、研究書籍、長命草シリーズ、サツマ黒味噌、マスクケース、農学部附属農場生産物
主な展示物	ポストカード

総合研究博物館常設展示室（国登録有形文化財）

鹿児島大学には数多くの学術資料が蓄積されています。総合研究博物館常設展示室はその学術資料を展示公開するための施設です。

建物は昭和3(1928)年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられたもので、当初の雰囲気を残しながら改装して開設しています。初期の鉄筋コンクリート建物で、また学校施設としても最も古いものであることが評価され、国の登録文化財としての認定も受けています。

現在、常設展示室では鹿児島大学の歴史にかかわる考古学資料・教育研究史資料、鹿児島の自然史にかかわる化石・鉱石資料を中心に展示しており、観覧は学内外に関係なく自由に利用できる生涯学習施設としての役割も果たしています。



▲常設展示室外観

▲展示室内

開 館 時 間	10:00～17:00	休 館 日	毎週月曜日・日曜日・祝日・年末年始(その他、臨時休館・閉館あり)	観 覧 料	無 料
---------	-------------	-------	----------------------------------	-------	-----

稲盛会館

稲盛会館は、昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業された鹿児島大学名誉博士の稲盛和夫京セラ株式会社代表取締役会長(当時)から工学部創立50周年記念事業(平成7年)の際に寄贈されたもので、教育および学術の交流の場として本学の教職員とその他の関係者の利用に供することにより、本学の教育・研究の進展に資するとともに、学術および文化の向上に寄与しています。この建物は日本を代表する著名な建築家、安藤忠雄氏の設計によるもので、非常にユニークな構造をしています。特に中央のキミ&ケサ メモリアルホールは卵型の構造で、講演会・式典などに利用されています。



日本を代表する著名な建築家
安藤忠雄氏の設計
(地下1階～地上3階建、建面積810.40㎡、
延面積1,628.85㎡ 平成6年10月竣工)

キミ&ケサ メモリアルホール
(稲盛名誉博士のご両親の名前に由来)

稲盛記念館

本学の卒業生で、第一号の名誉博士である稲盛和夫鹿児島大学名誉博士より令和元年に寄贈されたもので、稲盛和夫名誉博士の哲学を学び、知の創造を刺激する場として、国際社会で活躍しうする有為な人材の育成と地域・産業界との連携強化を図ることを目的としています。ITコンセントを利用できるITプラザやフードコート・レストランがあり、学生・教職員が日常的に集うことができる施設となっています。また、稲盛和夫名誉博士の歩みや哲学等に触れる場として、稲盛ライブラリーや京都賞ライブラリーを設置しています。



稲盛記念館外観

京都賞ライブラリー(3階)

植物園

鹿児島大学植物園は、明治42(1909)年鹿児島高等農林学校の開校に際し、初代校長玉利喜造の命により計画されました。そして10年後の大正8(1919)年頃、約1ヘクタールの分類式花壇として完成しました。第二次世界大戦の戦災によって壊滅的な被害を受けましたが、戦後まもなく学生や教職員の手により整備が図られました。この頃から「林園」と呼称され、農学部林学科(現・森林科学コース及び環境共生科学プログラム)学生の樹木実習の場として利用されてきました。この間、初島住彦教授らにより主に南西諸島の樹木の植え込み、整備が行われ、現在の植物園の特色が形づくられました。

植物園には南九州の植物や南西諸島固有の植物、そして戦前に植栽された北アメリカなどの外国産の樹木も多数植栽されています。樹木の種類は昭和54(1979)年の調査では659種が確認されています。その後も定期的な樹木の調査や位置図の作成、映像記録の蓄積等が行われ、平成16年にはこれらの記録をまとめて「鹿児島大学植物園の樹木たち」が刊行されました。植物園には、豊富な樹種を目当てに種々の野鳥が集い、地域の方々も散歩や自然観察に訪れています。キャンパス内の緑のオアシスに是非足を運んでみてください。



学習交流プラザ

学生、教職員等が相互に交流を深めることにより、学生の進取の精神を育み、活気ある交流と情報交換を促進することを目的として、平成25年10月に設置されました。

グループ学習室、学習ラウンジおよび学習交流ホールがあり、飲食もできるなど多様な学習形態に対応しています。また、学生の自学自習をサポートするための書店や売店も併設されています。

〈施設名及び用途〉

階 別	施 設 名	用 途 等
1 階	ライフサポート フードコーナー 学習ラウンジ1 スタディサポート	売店 軽食・喫茶等 学習、休憩、談話等 文具、書籍、福利厚生関連商品の販売等
中2階	学習ラウンジ2 学習ラウンジ3 学習交流ホール グループ学習室	学習、休憩、談話等 学習、休憩、談話等 学習、講演会、研修、会議等 学習、研修、会議等
2 階	学習ラウンジ4	学習、休憩、談話等



食 堂



中央食堂



郡元南食堂

施 設 名	席 数	所 在 地
中 央 食 堂	720席	郡 元 地 区
軽 食 堂 (ガ ロ ア)	45席	郡 元 地 区
郡 元 南 食 堂	144席	郡 元 地 区
フードコーナー(学習交流プラザ)	188席	郡 元 地 区
桜 ケ 丘 食 堂	252席	桜ヶ丘地区
水 産 学 部 食 堂	90席	下荒田地区

大学会館

学生相互ならびに学生と職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、昭和47(1972)年3月に設置されました。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日および12月29日から翌年1月3日までとなっています。



階別	施 設 名	用 途 等
1	軽 食 堂	喫茶、食事 (45席)
	理 髪 室	理髪 (3台)
	共 用 談 話 室	休憩、談話 (48人)
2	音 楽 鑑 賞 室	音楽鑑賞 (51人)
	会 議 室 (1 ・ 2)	会議、研究会等(42人・20人)
3	和 室 (1 ～ 5)	会議および邦楽、茶道・華道等の練習
4	ホ ー ル	音楽会、講演会、研究会等(300人)
	音楽練習室(1・2)	音楽等練習

課外活動施設

課外活動（サークル）は、大学教育における人間形成の上で非常に有益であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有しています。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する学生会館以外に、平成14年3月に設置された学生サークル会館Ⅱ、平成25年10月に改築された学生サークル会館Ⅰなどがあります。

学生サークル会館ⅠおよびⅡは、サークル間の交流・連携の場として、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室、多目的ホールおよびサークル室等を配置し、文化系、音楽系、体育系合わせて約120サークルが使用しています。

体育施設（体育館等）



学生寮



国際交流会館

国際交流会館は、鹿児島大学の外国人留学生および本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資することを目的に1号館が昭和54(1979)年4月に、2号館が平成6年(1994)10月に、3号館が平成25(2013)年4月に設置されました。



施設名	所在地	備考
学生サークル会館Ⅰ・Ⅱ	郡元地区	文化系・音楽系・体育系サークル
馬房（厩舎）	郡元地区	馬術
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター



施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
桜ヶ丘グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	7面
第1体育館	郡元地区	1,122㎡
第2体育館	〃	2,461㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,072㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設（武道場）	桜ヶ丘地区	451㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m(7コース)

棟 名		区 分	面積(㎡)	延面積(㎡)	収容定員(人)
唐湊寄宿舍	A棟	棟	鉄筋5階建	1,412	76
	B棟	棟	〃	1,568	92
	女子寮		鉄筋4階建	1,627	81
	共用棟		鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍			鉄筋5階建	2,693	99
合 計				7,617	348

(1号館)			(2号館)		
室名	面積(㎡)	室数	室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	35室	単身室	12	30室
夫婦室	39	3室	夫婦室	40	6室
家族室	59	2室	家族室	56	4室
主事室	14		補食室	11	4室
事務室	16		洗濯室	11	4室
談話室	47		ラウンジコーナー	49	
娯楽室	94		応接コーナー	14	
和室	25				
補食室	5~12	4室			
浴室	5~8	4室			
洗濯室	10	4室			
管理人室	14				
倉庫	52				

(3号館)		
室名	面積(㎡)	室数
単身室	16	57室
洗濯室	15	5室
応接コーナー	15	1室

外国人研究者宿泊施設

鹿児島大学を訪問する外国人研究者のための宿泊施設であり下荒田キャンパスに3棟、計22室の単身室があります。A棟は、鹿児島大学創立50周年記念事業の一環で寄付され、平成15年12月に完成しました（鉄骨造地上2階、延床面積502㎡、計16室）。また、平成21年度からは共同研究終了後に譲渡された建物をB棟・C棟として新たに使用開始しました（薄板軽量形鋼造地上2階、延床面積185.48㎡、計6室）。



海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設

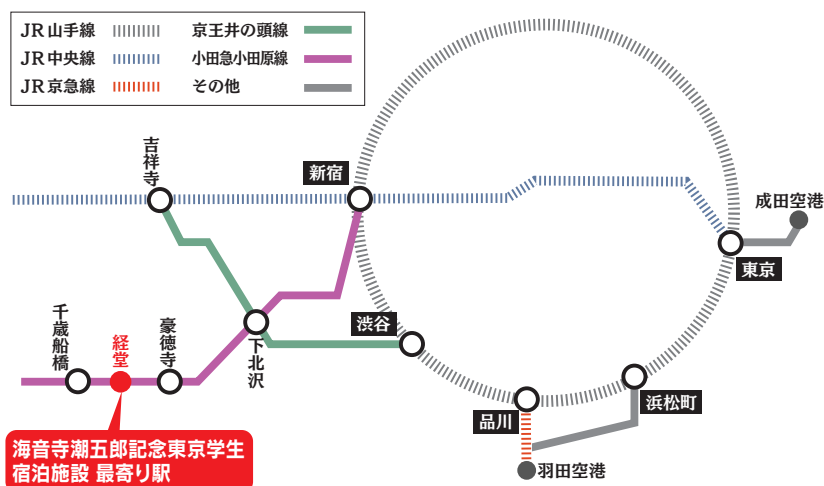
海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設は、鹿児島県伊佐郡（現伊佐市）出身の歴史小説家海音寺潮五郎氏のご遺族様より本学が寄贈を受けた世田谷区経堂の海音寺潮五郎記念館を、本学学生の首都圏における就職活動や学生および教職員が教育・研究等を行う際の東京拠点（宿泊施設）として改修・整備し、平成27年8月から運用を開始しました。

〒156-0052 東京都世田谷区経堂2-12-9

交通アクセス

海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設

小田急線 経堂駅から約400m、徒歩約5分



資料編

- 47… 役職員等
- 49… 役職員数
- 50… 入学定員・現員数
- 51… 附属学校入学定員・現員数
- 52… 入学状況
- 54… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 55… 奨学生状況／経済支援制度
- 56… 産学官連携活動
- 58… 公開講座等
- 59… 学術国際交流協定締結状況
- 61… 外国人留学生
- 62… 収入・支出決算額/予算
- 63… 外部資金受入状況
- 65… 鹿児島大学病院・附属動物病院実績
- 66… 附属図書館実績
- 67… 土地・建物・船舶
- 68… 位置図・交通アクセス
- 69… 地区別建物等配置図
- 73… 所在地一覧

役 員		
学 長	井戸 章雄	
〔筆頭理事〕 理 事	研究・情報担当	橋口 照人
	総務担当	橋本 文雄
	企画・社会連携担当	宮本 篤
	教育担当	有倉 巳幸
	財務・施設担当	福島 崇
理 事	特命担当(広報・男女共同参画推進)	石窪奈穂美
	特命担当(附属病院経営)	萩元美恵野
	業務監査	加用 利彦
監 事	会計監査	松枝 千鶴

副 学 長		
研究・情報担当	橋口 照人	
総務担当	橋本 文雄	
企画・社会連携担当	宮本 篤	
教育担当	有倉 巳幸	
財務・施設担当	福島 崇	
附属病院担当	石塚 賢治	
国際担当	郡山 千早	

学長補佐		
総務・人事・広報担当	松田 忠大	
コンプライアンス担当	吉崎 敦憲	
ダイバーシティ推進担当	八代 利香	
企画・評価担当	藤枝 繁	
社会連携担当	村上加奈子	
防災担当	酒匂 一成	
教務担当	伊藤奈賀子	
学生生活担当	和田 信哉	
高大接続・入試担当	富原 一哉	
稲盛アカデミー担当	山口 明伸	
キャリア支援担当	新留 康郎	
研究企画推進担当	奥野 浩行	
情報担当	淵田 孝康	
IR担当	寺田 竜太	

学長特別顧問		
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構長	木部 暢子	
長崎大学大学院熱帯医学・ グローバルヘルス研究科教授 鹿児島大学南九州・南西諸島域 イノベーションセンター特任教授	北 潔	

経営協議会委員		
学 長	井戸 章雄	
公益社団法人鹿児島県工業倶楽部会長 カクイ株式会社代表取締役	岩元 正孝	
神川洋一法律事務所弁護士	神川 洋一	
中核医療センター・地域医療支援病院 霧島市立医師会医療センター病院長	河野 嘉文	
学校法人津曲学園理事長 日本瓦斯株式会社代表取締役社長	津曲 貞利	
株式会社南日本放送相談役	中村 耕治	
鹿児島県副知事	藤本 徳昭	
鹿児島県医師会会長	牧角 寛郎	
株式会社南日本銀行取締役	山縣由美子	

理 事	橋口 照人
理 事	橋本 文雄
理 事	宮本 篤
理 事	有倉 巳幸
理事・事務局長	福島 崇
鹿児島大学病院長	石塚 賢治

教育研究評議会評議員		
学 長	井戸 章雄	
理 事	橋口 照人	
理 事	橋本 文雄	
理 事	宮本 篤	
理 事	有倉 巳幸	
理 事	福島 崇	
副 学 長	郡山 千早	
法文学部長	藤内 哲也	
教育学部長	溝口 和宏	
理学部長	富安 卓滋	
医学部長	大脇 哲洋	
歯学部長	田松 裕一	
工学部長	木方 十根	
農学部長	山本 雅史	
水産学部長	西 隆一郎	
共同獣医学部長	遠藤 泰之	
鹿児島大学病院長	石塚 賢治	
理工学研究科長	小山 佳一	
医歯学総合研究科長	田川 義晃	
臨床心理学研究科長	廣瀬 幸市	
連合農学研究科長	北原 兼文	
総合教育機構長	有倉 巳幸	
総合教育機構副機構長	伊藤 昌和	
ヒトレトロウイルス学共同研究センター 鹿児島大学キャンパス長	前田 賢次	
附属図書館長	山本 智子	
学内共同教育研究施設代表者	宮本 篤	
事務局長	福島 崇	
学長補佐(学長指名)	八代 利香	

事 務 局		
事務局長	福島 崇	
総務部長	西 哲郎	
総務課長	加治屋明子	
企画評価課長	西 哲郎	
人事課長(兼)労務調査室長	桑畑 安丈	
研究推進部長	久保 智裕	
研究協力課長	久保 智裕	
社会連携課長	仁禮 晃子	
部付課長(奄美プロジェクト担当)	尾崎 誠	
財務部長	有蘭 文博	
財務課長	岩元 秀壮	
経理課長	宮野 英彦	
学生部長	澤田 佳代	
教務課長	川崎さおり	
共通教育課長	川崎さおり	
学生生活課長	勇 宗一郎	
入試課長	黒岩 芳純	
国際事業課長	鈴木 直	

施設部長	有野 克己
企画課長	岩永 直
建築課長	井上 晃
設備課長	森山 誠
情報推進部長	佐藤 秀
学術共創課長	東 洋充
情報企画課長	秋月 大輔

監査室		
監査室長	田中 賢治	

学術研究院		
学域長		
法文教育学域長	溝口 和宏	
理工学域長	小山 佳一	
医歯学域長	田川 義晃	
農水産獣医学域長	山本 雅史	
総合科学域長	橋口 照人	

学系長		
法文学系長	藤内 哲也	
臨床心理学系長	廣瀬 幸市	
教育学系長	溝口 和宏	
理学系長	富安 卓滋	
工学系長	木方 十根	
医学系長	大脇 哲洋	
歯学系長	田松 裕一	
ヒトレトロウイルス学系長	前田 賢次	
農学系長	山本 雅史	
水産学系長	西 隆一郎	
獣医学系長	遠藤 泰之	
総合教育学系長	有倉 巳幸	
共同学系長	宮本 篤	

学 部 等		
法文学部		
学部長	藤内 哲也	
副学部長	山本 一哉	
副学部長	中島 祥子	
附属司法政策教育研究センター長	米田 恵市	
附属「鹿児島の近現代」教育研究センター長	松田 忠大	

教育学部		
学部長	溝口 和宏	
副学部長	佐藤 宏之	
副学部長	黒光 貴峰	
副学部長	山口 武志	
附属幼稚園長	本山 智彦	
附属小学校長	常山 隆治	
附属中学校長	溜 清弘	
附属特別支援学校長	新條 嘉一	

法文教育学域事務部		
事務部長	山下恵一郎	
法文学系事務課長	山下恵一郎	
教育学系事務課長	山森 剛	

理学部

学部長	富安 卓滋
副学部長	岡村 浩昭
副学部長	中尾 茂
副学部長	古澤 仁

医学部

学部長	大脇 哲洋
副学部長	赤崎 安昭
副学部長	下堂蘭 恵
副学部長	堀内 正久
副学部長	八代 利香

歯学部

学部長	田松 裕一
副学部長	西谷 佳浩
副学部長	田口 則宏
副学部長	菊地 聖史

鹿児島大学病院

病院長	石塚 賢治
副病院長(医科総括・総務・経営企画担当)	榎田 英樹
副病院長(歯科総括担当)	西谷 佳浩
薬剤部長	寺園 英之
看護部長	福田ゆかり
医療技術部長	弓場 裕之
事務部長	志茂 弘明
総務課長	美坂 英樹
経営企画課長	中村 友貴
経理調達課長	島名 冬美
施設管理課長	乗富 公一
医務課長	原之園さつき

工学部

学部長	木方 十根
副学部長	青野 祐美
副学部長	駒崎 慎一
副学部長	重井 徳貴

農学部

学部長	山本 雅史
副学部長	坂井 教郎
副学部長	坂巻 祥孝
副学部長	高峯 和則
附属農場長	高山 耕二
附属演習林長	寺岡 行雄
附属焼酎・発酵学教育研究センター長	吉崎由美子

水産学部

学部長	西 隆一郎
副学部長	石川 学
副学部長	塩崎 一弘
副学部長	中村 啓彦
附属練習船かごしま丸船長	幅野 明正
附属練習船南星丸船長	東 隆文
附属海洋資源環境教育研究センター長	安樂 和彦

共同獣医学部

学部長	遠藤 泰之
副学部長	白石 光也
副学部長	大塚 彰
附属動物病院長	藤木 誠
附属越境性動物疾病制御研究センター長	小澤 真
附属南九州畜産獣医学教育研究センター長	三角 一浩

農水産獣医学域事務部

事務部長	横枕久美子
農獣医学系総務課長	横枕久美子
農獣医学系学務課長	新田誠一郎
水産学系事務課長	楠原 良成

大 学 院

人文社会科学研究科

研究科長	藤内 哲也
副研究科長	尾崎 孝宏

教育学研究科

研究科長	溝口 和宏
------	-------

保健学研究科

研究科長	赤崎 安昭
------	-------

農林水産学研究科

研究科長	西 隆一郎
副研究科長	山本 雅史

理工学研究科

研究科長	小山 佳一
副研究科長	木方 十根
副研究科長	富安 卓滋
副研究科長	九町 健一
副研究科長	木下 英二
附属DXコネクトセンター長	小山 佳一
附属天の川銀河研究センター長	和田 桂一
附属南西島弧地震火山観測所長	八木原 寛

理工学域事務部

事務部長	野間 尚宜
研究科・工学系総務課長	野間 尚宜
研究科・工学系学務課長	濱崎 利幸
理学系事務課長	松元 公良

医歯学総合研究科

研究科長	田川 義晃
副研究科長	高嶋 博
副研究科長	玉木 直文
附属南九州先端医療開発センター長	小戩健一郎

医歯学総合研究科等事務部

事務部長	平野謙一郎
総務課長	桑畑 実代
学務課長	久木田寿代

(令和8年5月1日現在)

臨床心理学研究科

研究科長	廣瀬 幸市
副研究科長	久保 陽子

共同獣医学研究科

研究科長	遠藤 泰之
------	-------

連合農学研究科

研究科長	北原 兼文
副研究科長	寺田 竜太

機 構

総合教育機構

機構長	有倉 巳幸
高等教育研究開発センター長	伊藤奈賀子
共通教育センター長	伊藤 昌和
キャリア形成支援センター長	新留 康郎
中等・高等教育接続センター長	富原 一哉
グローバルセンター長	郡山 千早
教師教育開発センター長	溝口 和宏
稲盛アカデミー長	山口 明伸

ヒトレトロウイルス学共同研究センター

センター長	上野 貴將 (熊本大学)
鹿児島大学キャンパス長	前田 賢次

学内共同教育研究施設

附属図書館	
附属図書館長	山本 智子
桜ヶ丘分館長	永野 聡
水産学部分館長	佐野 雅昭
保健管理センター所長	川池 陽一
総合研究博物館長	本村 浩之
埋蔵文化財調査センター長	中村 直子
環境安全センター長	富安 卓滋
情報基盤統括センター長	浏田 孝康
地域防災教育研究センター長	酒匂 一成
南九州・南西諸島域 イノベーションセンター長	藤枝 繁
奄美群島共創連携推進センター センター長	藤枝 繁
国際島嶼教育研究センター長	大塚 靖
先端科学研究推進センター長	岡村 浩昭

■役員数

令和8年5月1日現在（人）

学 長	理 事	監 事
1	7	2

（注）※非常勤を含む。

■教職員数

令和8年5月1日現在（人）

区 分		教 員								事 務・技 術 職 員 等				総 計	
		教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	教諭等	教 員 計		常 勤	非常勤	事務・技術職員等計		全 体	うち女性
								全 体	うち女性			全 体	うち女性		
事 務 局	監 査 室									2		2		2	
	総 務 部									57	49	106	31	106	31
	研 究 推 進 部									21	6	27	15	27	15
	財 務 部									30	5	35	15	35	15
	学 生 部									46	22	68	40	68	40
	施 設 部									18	3	21	4	21	4
学 部 等	情 報 推 進 部									31	36	67	36	67	36
	法 文 学 部	32	22	1	13	2		70	16	16	12	28	21	98	37
	附属司法政策教育研究センター	2	1					3	2		2	2	2	5	4
	附属「鹿児島近代」教育研究センター				4			4						4	
	教 育 学 部	19	27	6	9			61	11	17	17	34	23	95	34
	附 属 幼 稚 園						4	4	3					4	3
	附 属 小 学 校						31	31	10	3	8	11	10	42	20
	附 属 中 学 校						31	31	7	1	4	5	3	36	10
	附 属 特 別 支 援 学 校						29	29	13	2	9	11	9	40	22
	医 学 部	18	7	2	17			44	20	1	11	12	11	56	31
	鹿 児 島 大 学 病 院	3	13	42	135			193	48	1181	577	1758	1243	1951	1291
	農 学 部	20	21		9			50	10	34	41	75	48	125	58
	附 属 農 場		1		1			2		16	2	18	4	20	4
	附 属 演 習 林	1	1		2			4	2	6	2	8	2	12	4
	附属焼酎・発酵学教育研究センター	1	2					3	1		2	2	2	5	3
	共 同 獣 医 学 部	17	7		6			30	5		16	16	14	46	19
	附 属 動 物 病 院	3	3		8			14	4	2	21	23	20	37	24
	附属越境性動物疾病制御研究センター		2		3			5	1		2	2	2	7	3
	附 属 南 九 州 畜 産 獣 医 学 教 育 研 究 セ ン タ ー	3	2	1	2			8	2		2	2	2	10	4
	水 産 学 部	13	14		13			40	5	17	8	25	16	65	21
大 学 院	附 属 練 習 船 か ご し ま 丸									17		17	1	17	1
	附 属 練 習 船 南 星 丸									8		8		8	
	附属海洋資源環境教育研究センター	2			2			4	1	4		4		8	1
	人 文 社 会 科 学 研 究 科	1			1			2	1					2	1
	教 育 学 研 究 科	7	4	1	1			13	2					13	2
	医 歯 学 総 合 研 究 科	44	21	20	86			171	32	79	175	254	219	425	251
	医 歯 学 総 合 研 究 科（歯学系）	17	9	7	40			73	24					73	24
	附属南九州先端医療開発センター									1		1		1	
	臨 床 心 理 学 研 究 科	2	5	1	1			9	5		2	2	2	11	7
	連 合 農 学 研 究 科	1			1			2						2	
	理 工 学 研 究 科	6	4	2	6			18	2	27	27	54	27	72	29
	理工学研究科（理学系）	20	21	2	9			52	6	10	8	18	13	70	19
	理工学研究科（工学系）	37	39	1	21			98	6	20	17	37	24	135	30
	附属南西島孤地震火山観測所		1					1			3	3	2	4	2
	附属天の川銀河研究センター										2	2	2	2	2
	共 同 獣 医 学 研 究 科		1		1			2	1					2	
総 合 教 育 機 構	高等教育研究開発センター	1	1	1				3	2					3	2
	共 通 教 育 セ ン タ ー	9	17	2	4			32	10		1	1	1	33	11
	中等・高等教育接続センター			1				1	1	1		1	1	2	2
	グ ロー バ ル セ ン タ ー	2		1				3	3		1	1	1	4	4
	キャリア形成支援センター	1			1			2	1	1	1	2	2	4	3
	稲 盛 ア カ デ ミ ー	1	2					3	1	2		2	2	5	3
学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 等	教師教育開発センター	1			2			3		1	1	2	1	5	1
	先端科学研究推進センター	3	2	1	1			7	2	8	17	25	13	32	15
	国際島嶼教育研究センター	3	1					4			3	3	1	7	1
	保 健 管 理 セ ン タ ー	1	1		1			3	1	5	5	10	10	13	11
	総 合 研 究 博 物 館	2	1		2			5	1		4	4	4	9	5
	埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー	1			1			2	2		3	3	3	5	5
	環 境 安 全 セ ン タ ー		1					1	1	1		1		2	1
	南九州・南西諸島域イノベーションセンター	7	1	1	1			10	3	7	6	13	7	23	10
	障 害 学 生 支 援 セ ン タ ー				2			2	1		3	3	3	5	4
	ボランティア支援センター										1	1	1	1	1
	ヒトレトロウイルス学共同研究センター	9	4		2			15	3	2	13	15	13	30	16
	情 報 基 盤 統 括 セ ン タ ー	2	3					5		6		6	2	11	2
	I R セ ン タ ー	1						1						1	
	地域防災教育研究センター									2	1	3	2	3	2
	附 属 図 書 館	1	2		1			4	1					4	1
	奄美群島共創連携推進センター										1	1	1	1	1
合 計		314	264	93	409	2	95	1177	273	1703	1152	2855	1931	4032	2203

（注）※休職者および休業者は含まない。

※教員には、非常勤の特任教員も含む。

※事務・技術職員等は、一般職員、海事職員（教員以外）、医療職員および特任職員（教員は除く）等を計上している。

■学 部

(令和8年5月1日現在)

学 部	学科・課程	入学 定員	3年次 編入学定員	現 員						計
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
法 文 学 部	法 経 社 会 学 科	245	10	245 (119)	251 (131)	254 (125)	307 (147)			1,057 (522)
	人 文 学 科	165	10	170 (115)	168 (120)	177 (132)	219 (141)			734 (508)
	小 計	410	20	415 (234)	419 (251)	431 (257)	526 (288)			1,791 (1030)
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	190	5	199 (95)	197 (102)	201 (110)	249 (134)			846 (441)
理 学 部	理 学 科	185		194 (51)	185 (47)	249 (63)	172 (44)			800 (205)
	数理情報科学科※						2 (0)			2 (0)
	小 計	185		194 (51)	185 (47)	249 (63)	174 (44)			802 (205)
医 学 部	医 学 科	110	10	124 (55)	123 (52)	120 (46)	111 (44)	129 (48)	120 (48)	727 (293)
	保 健 学 科	120		120 (93)	122 (99)	122 (101)	118 (104)			482 (397)
	小 計	230	10	244 (148)	245 (151)	242 (147)	229 (148)	129 (48)	120 (48)	1,209 (690)
歯 学 部	歯 学 科	53		58 (22)	55 (26)	56 (21)	46 (16)	53 (25)	61 (33)	329 (143)
工 学 部	先 進 工 学 科	385	17	441 (66)	441 (63)	425 (62)	379 (47)			1,686 (238)
	建 築 学 科	55	3	60 (16)	67 (17)	65 (17)	58 (17)			250 (67)
	小 計	440	20	501 (82)	508 (80)	490 (79)	437 (64)			1,936 (305)
農 学 部	農 学 科	163	5	178 (110)	169 (81)	183 (91)	5 (5)			535 (287)
	農業生産科学科※						102 (49)			102 (49)
	食料生命科学科※						77 (46)			77 (46)
	農林環境科学科※						69 (21)			69 (21)
	国際食料資源学特別コース	12		11 (5)	15 (12)					26 (17)
	小 計	175	5	189 (115)	184 (93)	183 (91)	253 (121)			809 (420)
水 産 学 部	水 産 学 科	130		134 (30)	131 (32)	163 (38)	156 (41)			584 (141)
	国際食料資源学特別コース	10		10 (1)	10 (5)					20 (6)
	小 計	140		144 (31)	141 (37)	163 (38)	156 (41)			604 (147)
共 同 獣 医 学 部	共 同 獣 医 学 科	30		33 (19)	33 (23)	29 (21)				95 (63)
	畜 産 学 科	30		31 (24)	31 (26)	29 (26)				91 (76)
	獣 医 学 科 ※				3 (1)	2 (1)	37 (18)	24 (14)	30 (13)	96 (47)
	小 計	60		64 (43)	67 (50)	60 (48)	37 (18)	24 (14)	30 (13)	282 (186)
合 計		1,883	60	2,008 (821)	2,001 (837)	2,075 (854)	2,107 (874)	206 (87)	211 (94)	8,608 (3567)

- (注) 1. () は女子で内数、現員には外国人留学生を含む。
 2. 医学部医学科の編入学定員は2年次の編入学定員。
 3. ※は旧学科、旧課程を表す。
 4. 農学部及び水産学部の国際食料資源学特別コースは、学科配属が決定した場合の現員は学科に含まれる。

■大学院

(令和8年5月1日現在)

研 究 科	入学 定員	現 員								
		修士課程(博士前期)			博士課程(博士後期)又は専門職学位課程					合 計
		1年	2年	計	1年	2年	3年	4年	計	
人文社会科学研究科	28	26 (12)	35 (20)	61 (32)						61 (32)
	6				4 (2)	3 (1)	16 (11)		23 (14)	23 (14)
教育学研究科	20				17 (7)	13 (5)			30 (12)	30 (12)
保健学研究科	28	26 (16)	27 (18)	53 (34)						53 (34)
	6				6 (2)	9 (4)	16 (7)		31 (13)	31 (13)
理工学研究科	306	352 (62)	311 (53)	663 (115)						663 (115)
	16				21 (7)	12 (0)	16 (2)		49 (9)	49 (9)
農林水産学研究科	101	122 (59)	117 (48)	239 (107)						239 (107)
医歯学総合研究科	15	17 (8)	21 (12)	38 (20)						38 (20)
	50				51 (20)	51 (23)	45 (14)	144 (38)	291 (95)	291 (95)
臨床心理学研究科	15				15 (15)	17 (14)			32 (29)	32 (29)
連合農学研究科	30				34 (13)	36 (11)	49 (21)		119 (45)	119 (45)
共同獣医学研究科	8				3 (2)	6 (0)	7 (5)	13 (2)	29 (9)	29 (9)
合 計	629	543 (157)	511 (151)	1,054 (308)	151 (68)	147 (58)	149 (60)	157 (40)	604 (226)	1,658 (534)

- (注) 1. () は女子で内数、現員には外国人留学生を含む。
 2. 教育学研究科、臨床心理学研究科は専門職学位課程である。
 3. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・琉球の3大学の構成によるものである。

■附属学校

【教育学部附属幼稚園】

(令和8年5月1日現在)

附属幼稚園	入園定員	現 員				学 級 数
		3歳児	4歳児	5歳児	計	
	3歳児 30	12	27	21	60	3歳児、4歳児、5歳児 各1学級 計3学級
	4歳児 30					
	5歳児 30					

【教育学部附属小学校】

(令和8年5月1日現在)

附属小学校	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
	単式学級	1～3年 90	89	89	88	102	104	104	576	各学年3学級 計18学級
		4～6年 105								
	複式学級	1年 8	8						43	1・2年で1学級 3・4年で1学級 計3学級 5・6年で1学級
		2年 8		8						
		3年 8			8					
		4年 8				6				
		5年 8					7			
		6年 8						6		
合 計	1～3年 98 4～6年 113	97	97	96	108	111	110	619	計21学級	

【教育学部附属中学校】

(令和8年5月1日現在)

附属中学校	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1年	2年	3年	計	
	普通学級	180	180	180	180	540	各学年5学級 計15学級

【教育学部附属特別支援学校】

(令和8年5月1日現在)

附属特別支援学校	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
	小学部	3	3	3	3	3	3	3	18	1・2学年で1学級 3・4学年で1学級 計3学級 5・6学年で1学級
	中学部	6	4	5	6	-	-	-	15	各学年1学級 計3学級
	高等部	8	7	8	8	-	-	-	23	各学年1学級 計3学級

学部

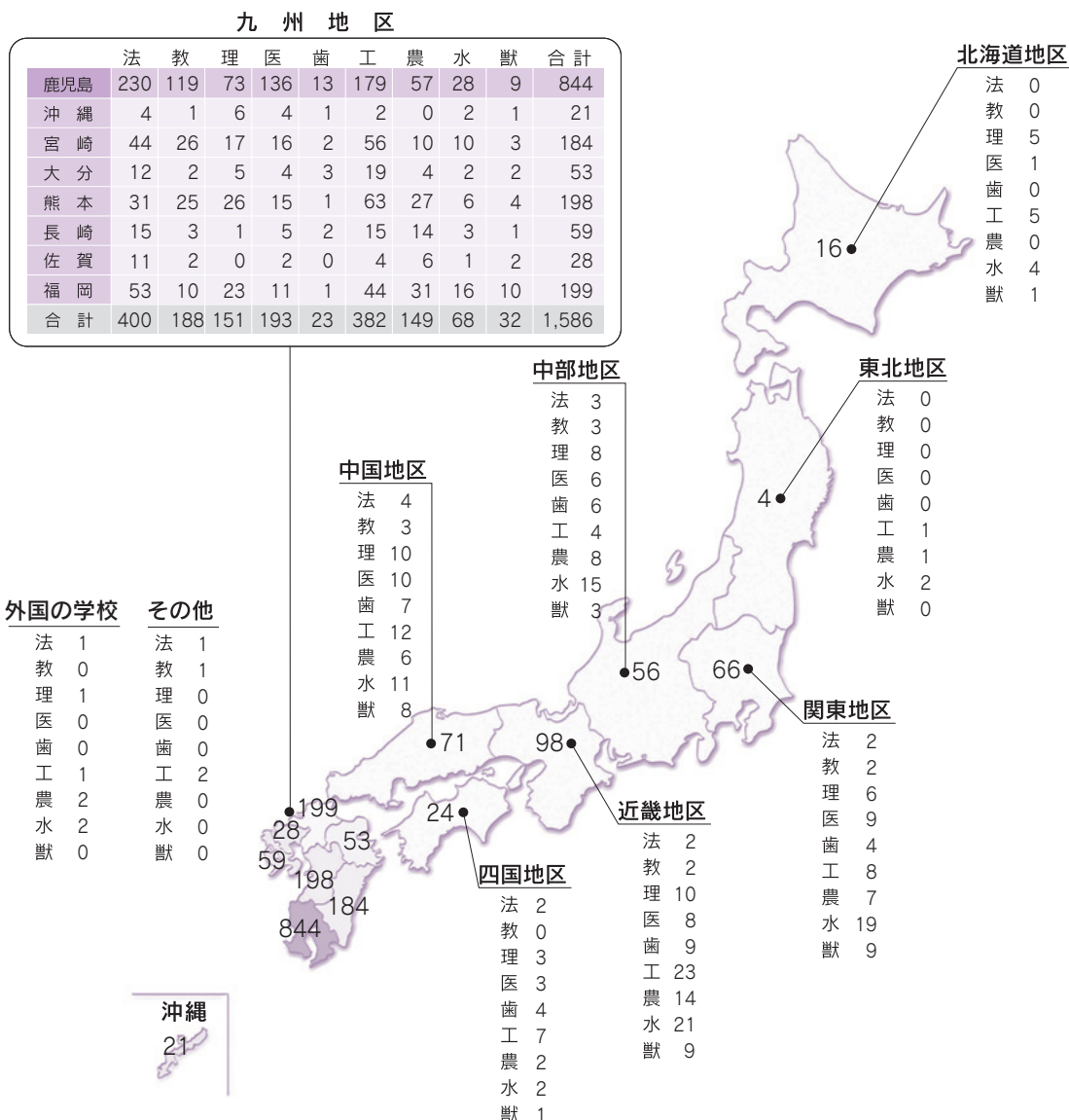
(令和8年度)

学 部	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地		入学者の出身地割合(%)	
				県 内	県 外	県 内	県 外
法 文 学 部	410	1,411 (778)	415 (234)	230	185	55.4	44.6
教 育 学 部	190	661 (349)	199 (95)	119	80	59.8	40.2
理 学 部	185	612 (177)	194 (51)	73	121	37.6	62.4
医 学 部	230	1,106 (592)	230 (145)	136	94	59.1	40.9
歯 学 部	53	471 (223)	53 (21)	13	40	24.5	75.5
工 学 部	440	1,367 (261)	445 (81)	179	266	40.2	59.8
農 学 部	175	635 (372)	189 (115)	57	132	30.2	69.8
水 産 学 部	140	534 (145)	144 (31)	28	116	19.4	80.6
共同獣医学部	60	503 (331)	63 (42)	9	54	14.3	85.7
合 計	1,883	7,300 (3,228)	1,932 (815)	844	1,088	43.7	56.3

(注) ()内は女子を内数で表す。

○入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、高等学校卒業程度認定試験合格(従前の大学入学資格検定合格を含む)等の入学者を表す。



■令和8年度大学院(志願者・受験者・合格者状況)【10月入学を除く】

【修士課程・博士前期課程】

(令和8年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	
人文社会科学研究科	法学専攻	5	10	3	1	0	14	8	3	1	0	12	3	0	1	0	4	4
	経済社会システム専攻	10	1	4	4	-	9	1	4	3	-	8	1	3	2	-	6	6
	人間環境文化論専攻	5	7	1	2	-	10	6	1	2	-	9	3	1	2	-	6	5
	国際総合文化論専攻	8	8	0	4	-	12	8	0	4	-	12	6	0	3	-	9	8
	計	28	26	8	11	0	45	23	8	10	0	41	13	4	8	0	25	23
保健学研究科	保健学専攻	28	22	14	0	-	36	21	14	0	-	35	12	15	0	-	27	26
理工学研究科	理学専攻	54	54	0	5	22	81	50	0	5	22	77	49	0	5	22	76	71
	工学専攻	178	60	1	4	150	215	57	1	3	150	211	56	1	3	150	210	199
	情報科学専攻	74	24	0	5	63	92	23	0	3	62	88	23	0	3	62	88	82
	計	306	138	1	14	235	388	130	1	11	234	376	128	1	11	234	374	352
医歯学総合研究科	医科学専攻	15	9	7	2	-	18	9	7	2	-	18	9	7	2	-	18	16
農林水産学研究科	農林資源科学専攻	39	49	1	7	-	57	46	1	7	-	54	37	1	7	-	45	44
	食品創成科学専攻	26	42	0	6	-	48	39	0	6	-	45	39	0	6	-	45	40
	環境フィールド科学専攻	16	23	0	1	-	24	23	0	1	-	24	21	0	1	-	22	20
	水産資源科学専攻	20	23	0	1	-	24	23	0	1	-	24	20	0	1	-	21	18
	計	101	137	1	15	-	153	131	1	15	-	147	117	1	15	-	133	122
合計		478	332	31	42	235	640	314	31	38	234	617	279	28	36	234	577	539

【博士課程・博士後期課程】

(令和8年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	進学者	計	一般	社会人	留学生	進学者	計	一般	社会人	留学生	進学者	計	
人文社会科学研究科	地域政策科学専攻	6	1	2	1	0	4	1	2	1	0	4	1	1	1	0	3	3
保健学研究科	保健学専攻	6	4	7	0	-	11	4	7	0	-	11	3	3	0	-	6	6
理工学研究科	総合理工学専攻	16	13	2	5	-	20	13	2	5	-	20	13	2	5	-	20	17
医歯学総合研究科	健康科学専攻	19	6	2	4	-	12	5	2	4	-	11	5	2	4	-	11	10
	先進治療科学専攻	31	10	22	1	-	33	10	21	1	-	32	10	21	1	-	32	31
	計	50	16	24	5	-	45	15	23	5	-	43	15	23	5	-	43	41
連合農学研究科	農水生命科学専攻	30	17	12	19	-	48	17	11	19	-	47	13	9	12	-	34	33
共同獣医学研究科	獣医学専攻	8	2	0	1	-	3	2	0	1	-	3	2	0	1	-	3	3
合計		116	53	47	31	0	131	52	45	31	0	128	47	38	24	0	109	103

【専門職学位課程】

(令和8年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
教育学研究科	学校教育実践高度化専攻	20	20	-	-	20	20	-	-	20	18	-	-	18	17
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	15	38	0	1	39	36	0	1	37	17	0	0	17	15
合計		35	58	0	1	59	56	0	1	57	35	0	0	35	32

■卒業生数・就職状況

(令和8年5月1日現在)

学 部	卒業生数 (R7まで) (累 計)	令 和 7 年 度 卒 業 生 数	就 職 状 況																	
			就職 希望 者数	就職 者数	就職率 (%)	業 種 別						地 区 別								
						農林業 漁 業	建 設 製 造 電 気 ガ ス 水 道 情 報 通 信 運 輸 卸 売 ・ 小 売	金 融 保 険 医 療 福 祉 教 育 学 習 サ ー ビ ス	公 務 員	教 員	そ の 他	関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	鹿 児 島 県 内	そ の 他	
法 文 学 部	20,334	420	368	364	98.9	0	93	111	130	5	25	69	6	17	4	1	137	126	4	
教 育 学 部	21,311	188	172	168	97.7	0	13	16	19	118	2	19	4	4	1	0	47	93	0	
理 学 部	8,751	180	88	85	96.6	0	34	21	20	10	0	16	0	10	1	0	33	25	0	
医 学 部	9,475	237	105	105	100.0	0	0	100	5	0	0	6	0	2	2	0	26	69	0	
歯 学 部	2,496	41																		
工 学 部	22,687	434	155	151	97.4	0	104	25	19	0	3	73	6	22	4	0	26	19	1	
農 学 部	14,819	203	138	131	94.9	2	54	22	49	0	4	28	5	6	4	0	39	48	1	
水 産 学 部	9,069	143	81	74	91.4	1	48	10	12	1	2	30	7	7	4	0	7	16	3	
共同獣医学部 (文理学部)	271 2,651	29	23	23	100.0	0	0	21	2	0	0	9	2	2	1	0	5	3	1	
合 計	111,864	1875	1130	1101	97.4	3	346	326	256	134	36	250	30	70	21	1	320	399	10	

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降を計上した。
2. 卒業生は9月卒業者を含む。
3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。
4. 卒業生数(累計)には、令和7年度を含む。

■大学院修了生数

(令和8年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程		専門職学位課程	
	修了生数 (累計)	令和7年度 修了生数	修了生数 (累計)	令和7年度 修了生数	修了生数 (累計)	令和7年度 修了生数
人文社会科学研究科	769	23	41	4	-	-
教育学研究科	917	-	-	-	132	20
保健学研究科	468	24	35	6	-	-
理工学研究科	9,081	289	467	9	-	-
農林水産学研究科	578	92	-	-	-	-
医歯学総合研究科	266	14	776	57	-	-
臨床心理学研究科	-	-	-	-	268	15
共同獣医学研究科	-	-	20	12	-	-
連合農学研究科	-	-	903	25	-	-
法学研究科*	123	-	-	-	-	-
人文科学研究科*	120	-	-	-	-	-
理学研究科*	539	-	-	-	-	-
農学研究科*	2,307	-	-	-	-	-
水産学研究科*	1,315	-	-	-	-	-
医学研究科*	-	-	581	-	-	-
歯学研究科*	-	-	112	-	-	-
司法政策研究科*	-	-	-	-	144	-
合計	16,483	442	2,935	113	544	35

(注)1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。
2. *印は旧研究科である。

■学位授与状況

(令和8年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程				専門職学位課程	
	累計	令和7年度 授与	課程		論文		累計	令和7年度 授与
			累計	令和7年度授与	累計	令和7年度授与		
人文社会科学研究科	769	23	60	4	2	1	-	-
教育学研究科	917	-	-	-	-	-	132	20
保健学研究科	468	24	54	6	7	0	-	-
理工学研究科	9,081	289	531	9	83	0	-	-
農林水産学研究科	578	92	-	-	-	-	-	-
医歯学総合研究科	266	14	843	58	51	2	-	-
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-	268	15
共同獣医学研究科	-	-	24	12	5	2	-	-
連合農学研究科	-	-	1,120	28	148	3	-	-
(法学研究科)	123	-	-	-	-	-	-	-
(人文科学研究科)	120	-	-	-	-	-	-	-
(理学研究科)	539	-	-	-	-	-	-	-
(農学研究科)	2,307	-	-	-	-	-	-	-
(水産学研究科)	1,315	-	-	-	-	-	-	-
(医学研究科)	-	-	701	-	1,484	-	-	-
(歯学研究科)	-	-	136	-	71	-	-	-
(司法政策研究科)	-	-	-	-	-	-	144	-
合計	16,483	442	3,469	117	1,851	8	544	35

(注) 1. 医学研究科については、昭和30年国立移管後の数を計上した。
2. ()は旧研究科である。

■奨学生状況

(令和8年5月1日現在)

学部・研究科等		在学者数	給付	第一種	第二種	各種団体 育英会	計	在学生に対する 百分率
学部	法文学部	1,791	399	313	240	13	965	53.9
	教育学部	846	220	124	101	14	459	54.3
	理学部	802	194	125	101	7	427	53.2
	医学部	1,209	248	164	140	10	562	46.5
	歯学部	329	58	26	46	5	135	41.0
	工学部	1,936	388	228	252	9	877	45.3
	農学部	809	162	124	89	11	386	47.7
	水産学部	604	121	52	55	10	238	39.4
	共同獣医学部	282	40	12	12	4	68	24.1
計		8,608	1,830	1,168	1,036	83	4,117	47.8
大学院 (修士課程)	人文社会科学研究科	61		2	2	0	4	6.6
	保健学研究科	53		5	0	0	5	9.4
	理工学研究科	663		147	15	8	170	25.6
	農林水産学研究科	239		31	1	21	53	22.2
	医歯学総合研究科	38		1	0	0	1	2.6
	計	1,054		186	18	29	233	22.1
大学院 (博士課程)	人文社会科学研究科	23		0	0	1	1	4.3
	保健学研究科	31		3	0	0	3	9.7
	理工学研究科	49		6	0	1	7	14.3
	医歯学総合研究科	291		21	1	0	22	7.6
	共同獣医学研究科	29		0	0	0	0	0.0
	連合農学研究科	119		19	0	1	20	16.8
	計	542		49	1	3	53	9.8
大学院 (専門職学位課程)	教育学研究科	30		3	0	1	4	13.3
	臨床心理学研究科	32		2	0	0	2	6.3
	計	62		5	0	1	6	9.7
合計		10,266	1,830	1,408	1,055	116	4,409	42.9

注1) 在学者数は外国人留学生を含む 注2) 学部生・院生の1年生は、採用前の為計上しておりません。

<備考：日本学生支援機構奨学金月額（令和8年度入学者）>

■新型給付奨学生 ●学部生のみ 第I区分－自宅生：29,200 (33,300) / 自宅外生：66,700 ※（ ）は生活保護者、児童養護施設出身者等の給付額
第II区分－自宅生：19,500 (22,200) / 自宅外生：44,500 第III区分－自宅生：9,800 (11,100) / 自宅外生：22,300
第IV区分－自宅生：7,300 (8,400) / 自宅外生：16,700

■第一種奨学生 ●学部生：自宅通学 20,000・30,000・45,000 円 / 自宅外通学 20,000・30,000・40,000・45,000・51,000 円
●大学院生：修士・博士前期課程 50,000・88,000 円 / 博士後期課程 80,000・122,000 円

■第二種奨学生 ●学部生：20,000・30,000・40,000・50,000・60,000・70,000・80,000・90,000・100,000・110,000・120,000 円
●大学院生：50,000・80,000・100,000・130,000・150,000 円

■大学独自の経済支援制度

鹿児島大学離島出身者支援スタートアップ奨学金

鹿児島県内の離島地域に所在する小学校、中学校又は高等学校を卒業し、鹿児島大学の第1年次に入学した学部生のうち、入学年度の本学前期分授業料免除を申請の上、許可された学生*に予算の範囲内で最大25万円を給付する制度です。

*ただし、支援区分「多子世帯」（授業料免除のみ）に該当する学生は対象外とします。

鹿児島大学ストレートドクター修学支援金

鹿児島大学の博士前期課程、修士課程若しくは専門職学位課程を修了後又は本学の医学部、歯学部若しくは共同獣医学部の6年課程を卒業後、1年を経過しないで本学の博士後期課程又は博士課程に入学した学生に、予算の範囲内で最大50万円を給付する制度です。

■協 定

協 定 名	協定締結年月日
社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定	平成17年10月21日
鹿児島県酒造組合との包括連携協力協定	平成18年 3月 9日
奄美市との包括連携協定	平成18年 3月13日
日本政策投資銀行との連携協定	平成18年 5月31日
鹿児島市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成19年11月30日
株式会社鹿児島銀行と国立大学法人鹿児島大学との農業経営管理システム開発事業に関する連携協定	平成20年11月28日
社団法人鹿児島青年会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成20年12月26日
垂水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年 1月27日
独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センターとの連携・協力に関する協定	平成21年 4月 1日
公益財団法人慈愛会今村総合病院との連携・協力に関する協定	平成21年 4月 1日
財団法人横浜企業経営支援財団との産学官連携に関する基本協定	平成21年 5月28日
出水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年12月21日
伊仙町、国立大学法人鹿児島大学及び社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携に関する協定	平成22年 3月30日
平川動物公園及びかごしま水族館を活かした地域活性化プロジェクト推進に係る産学官連携協定	平成22年 8月 9日
国立大学法人山口大学との獣医学に関する共同教育課程の編成及び実施に関する協定	平成23年 4月22日
南さつま市と国立大学法人鹿児島大学との健康長寿のまちづくり推進事業に関する連携協定	平成24年 7月27日
国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人水産総合研究センターとの包括連携に関する協定	平成25年 9月27日
鹿児島県と国立大学法人鹿児島大学の動物疾病制御及び関連分野に係る相互連携に関する協定	平成26年 7月 3日
特定非営利活動法人 NPO 造士館講座と国立大学法人鹿児島大学との連携協定	平成26年 7月 7日
株式会社鹿児島銀行及び野村證券株式会社との産学連携授業に関する連携協定	平成26年 9月26日
奄美群島広域事務組合との包括連携協定	平成26年11月28日
与論町漁業協同組合と国立大学法人鹿児島大学との水産学分野における実践的教育研究等に関する協定	平成27年 7月14日
鹿児島商工会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年 4月 7日
国立大学法人鹿児島大学と株式会社三井住友銀行との産学連携協力に関する協定	平成28年 8月29日
日置市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年11月 1日
国立大学法人山口大学と国立大学法人鹿児島大学との間の大学院における獣医学に関する共同教育課程の編成及び実施に関する協定	平成29年 3月16日
大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築事業に関する協定	平成29年 4月 1日
株式会社鹿児島銀行との地方創生への取組みに関する連携協定	平成29年 4月 7日
志布志市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成29年 5月 8日
林野庁九州森林管理局と国立大学法人鹿児島大学の連携と協力に関する協定	平成29年 8月30日
南九州プラットフォームに関する協定	平成29年10月26日
南九州プラットフォームと独立行政法人教職員支援機構との連携協力に関する協定	平成29年12月22日
伊佐市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成30年 7月 6日
国立大学法人鹿児島大学と JA グループ鹿児島との組織間連携の推進に関する協定	平成31年 3月 4日
南九州市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成31年 3月13日
鹿児島大学大学院連合農学研究科の設置及び運営に関する構成国立大学法人間協定	平成31年 3月15日
国立大学法人鹿児島大学と国立大学法人熊本大学とのヒトレトロウイルス学共同研究センターの編成及び運営に関する協定	平成31年 3月18日
薩摩川内市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	令和元年 7月 2日
国立大学法人鹿児島大学と大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台との研究協力協定	令和2年 4月 1日
徳之島3町（徳之島町・天城町・伊仙町）と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	令和2年 5月15日
地域密着型パイロット人材創出プログラムの実施に伴う連携協力に関する協定	令和2年10月 5日
国立大学法人鹿児島大学と日本航空株式会社及び日本エアコミューター株式会社との包括連携に関する協定	令和3年 3月16日
大崎町と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	令和5年 3月27日
国立大学法人鹿児島大学と国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所との包括連携に関する協定	令和5年 7月 3日
曾於市と国立大学法人鹿児島大学との南九州畜産獣医学拠点運営に関する協定	令和5年 8月17日
与論町と清水建設株式会社及び国立大学法人鹿児島大学との地域課題の解決や新たな価値の創出に資する人材育成及び事業創出に関する連携協定	令和5年12月 5日
令和6年度からの国立大学法人山口大学と国立大学法人鹿児島大学との間の大学院における獣医学に関する共同教育課程の編成及び実施に関する協定	令和5年12月18日
国立大学法人鹿児島大学、九州電力株式会社、サーキュラーパーク九州株式会社及び薩摩川内市とのサーキュラーエコノミー実証事業の実施に関する連携協定	令和6年 2月16日
鹿児島県と鹿児島大学との就職支援に関する協定	令和7年 3月24日
鹿児島大学と福岡市教育委員会との教員養成にかかる連携・協力協定	令和7年 5月22日
長崎大学、宮崎大学及び鹿児島大学との地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に関する連携協定	令和7年 7月 9日
国立大学法人宮崎大学と国立大学法人鹿児島大学との包括的連携に関する協定	令和7年 8月 7日
国立大学法人鹿児島大学及び国立大学法人熊本大学と株式会社新日本科学との博士人材育成に関する協力協定	令和8年 1月 8日

■寄附講座

(令和8年3月31日現在)

設置部局	寄附講座名	設置期間	寄附者	主な研究内容等
医歯学総合研究科	医療関節材料開発講座	平成18年6月～令和11年5月	京セラメディカル株式会社	・人工股関節及び人工骨頭の臨床データを基にした次世代生体材料の開発 ・人工材料によるQOLの改善、医療経済上の有効性をアンケートや統計学的解析に基づいた新たな治療方針の再構築 ・新しい関節外科の治療を創造するための学部教育のカリキュラム構築
	地域医療・健康医学講座	平成30年12月～令和10年11月	出水市病院事業	・出水地区において、生活習慣病及び消化器疾患の高リスク群を囲い込み、健康寿命の延伸を図るとともに、生活習慣病や消化器癌の発症・重症化予防モデルを確立する。
	心血管病予防分析学講座	平成31年4月～令和10年3月	社会医療法人義順顕彰会	・心血管病を予知・予防する先制医療を実現し、健康寿命延伸に寄与するモデルとして、種子島において既存の健診を生かした島民健康分析を行う。
	骨関節医学講座	令和2年4月～令和12年3月	出水市病院事業	・骨関節障害の新規治療法開発を目的とした病態メカニズムの研究
	運動器再生学講座	令和4年4月～令和10年3月	医療法人術徳会	・運動器構成細胞再生のための増殖と分化の方法論の開発 ・再生足場の開発
	婦人科がん先端医療学講座	令和5年4月～令和11年3月	指宿市南薩3市医療体制充実等推進協議会（南さつま市、南九州市、枕崎市）	・病巣特異的抗がん剤産生バイオシステムの創薬開発 ・婦人科がんに対するがん遺伝子パネル検査 ・ナノメディスンを利用した低毒性抗がん剤の開発 ・子宮がんに対するセンチネルノードナビゲーションサージャリー ・妊孕性温存・挙児希望を希望する若年子宮頸がん患者に対する公況子宮頸部摘出術 ・婦人科がんロボット手術による患者QOL向上とロボット手術遠隔医療に関する研究
	感染症専門医養成講座	令和5年7月～令和9年3月	鹿児島県	・感染症専門医の養成 ・地域連携による県内感染防御体制の強化 ・医療従事者及び県民向けの研修会・講座の開催 ・感染症に関する教育、調査・研究
理工学研究科	街・海・宇宙からみるプラスチックごみ監視システム研究講座	令和4年4月～令和9年3月	木村 真也	・街中プラスチックごみ、海岸漂着プラスチックごみの定量化手法の構築 ・人工衛星によるプラスチックごみの広域監視システムの構築
医歯学総合研究科	地域小児医療創生学講座	令和8年1月～令和12年12月	志布志市	・地域医療の現状分析とその役割の研究

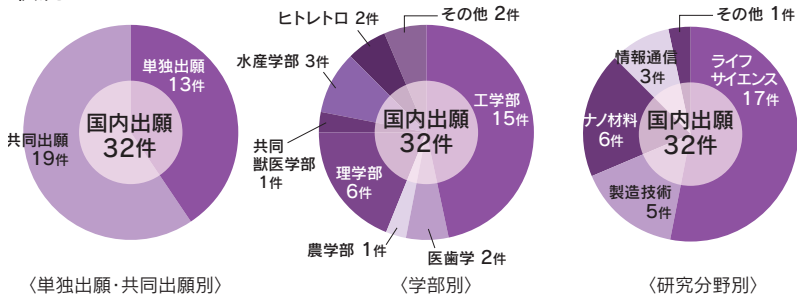
■共同研究講座・共同研究部門

(令和8年3月31日現在)

設置部局	共同研究講座・部門名	設置期間	相手方企業等
医歯学総合研究科	漢方薬理学共同研究講座	令和3年1月～令和9年12月	クラシエ株式会社
	DDS創薬学共同研究講座	令和4年4月～令和9年3月	祐徳薬品工業株式会社
	先進画像診断学共同研究講座	令和5年4月～令和10年3月	株式会社新日本科学
先端科学研究推進センター	医用ミニボタ・先端医療開発共同研究部門	令和4年4月～令和10年3月	・社会医療法人白光会白石病院 ・特定非営利活動法人医用ミニボタ研究所
理工学研究科	糖鎖ナノテクノロジー共同研究講座	令和4年4月～令和10年3月	株式会社スディックスバイオテック
	南九州市地殻構造共同研究講座	令和5年4月～令和10年3月	九州電力株式会社
共同獣医学部	動物疾病共同研究講座	令和7年8月～令和10年7月	共立製菓株式会社

■知的財産管理状況

〈2025年度〉
出願状況



〈2025年度 ライセンス・譲渡実績〉

	新規件数	金額(千円)
特許	22	22,651
商標	3	534
意匠	0	136
ソフトウェア	10	16,037
ノウハウ	0	3,670
マテリアル	1	1,340
合 計	36	44,368

(注)千円未満四捨五入により作成 (2026年3月31日現在)

〈2025年度末〉
特許保有件数

	登録済	出願中	合 計		登録済	出願中	合 計
国 内	296	167	463	外 国	118	212	330

■公開講座

公開講座名	実施部局	開催期間	代表者	職 名	受講対象者
金融で地域を考える：日本政策投資銀行による企業財務分析講座 (2025)	法文学部・法経社会学科	2025 年 6 月 27 日	王 鏡凱	准教授	青少年・大学生・社会人（一般公開）
鹿大生に答える！老後資金と資産形成について	法文学部・法経社会学科	2025 年 7 月 18 日	王 鏡凱	准教授	青少年・大学生・社会人（一般公開）
鹿大生に答える！老後資金と資産形成について【共同開催】	法文学部・法経社会学科	2025 年 12 月 4 日	王 鏡凱 呉 博宇	准教授 助教	青少年・大学生・社会人（一般公開）
日本政策投資銀行による企業財務分析講座【共同開催】	法文学部・法経社会学科	2026 年 1 月 29 日	王 鏡凱 呉 博宇	准教授 助教	青少年・大学生・社会人（一般公開）
マクロ経済学入門「経済の成長を考える」	法文学部・法経社会学科	2025 年 7 月 26 日	高倉 啓	助教	高校生以上
高校生のスポーツ心理学 I	教 育 学 部	2025 年 7 月 5 日、6 日、12 日、13 日、19 日、20 日、26 日、27 日（いずれか 1 回）	藤田 勉	准教授	高校生
理学 LABO ～動物の血液についての実験	理 学 部	2025 年 7 月 19 日、7 月 27 日	池永 隆徳	准教授	中高生
理学 LABO ～はたと閃く！おもちゃとリズムの科学	理 学 部	2025 年 7 月 19 日、8 月 7 日	秦 浩起	准教授	社会人（小2以上の生徒1名同伴可）
理学 LABO ～はたと閃く！光の実験 - 分けて混ぜて	理 学 部	2025 年 7 月 20 日、7 月 27 日	秦 浩起	准教授	社会人（小4以上の生徒1名同伴可）
理学 LABO ～はたと閃く！コンピュータによる科学実験体験	理 学 部	2025 年 7 月 26 日、8 月 7 日	秦 浩起	准教授	中高生
理学 LABO ～図鑑で見る岩石・鉱物の顕微鏡観察	理 学 部	2025 年 7 月 20 日、8 月 7 日	礼満 ハフィース	准教授	社会人（小3以上の生徒1名同伴可）
理学 LABO ～プランクトンのハウスを染めよう	理 学 部	2025 年 7 月 26 日	小沼 健	准教授	中高生
理学 LABO ～あなた色に染める～染色してみよう	理 学 部	2025 年 7 月 26 日	横川由起子	講師	中高生
理学 LABO ～桜の木で桜色に染めよう	理 学 部	2025 年 7 月 26 日、8 月 7 日	鬼束 聡明	准教授	社会人（小4以上の生徒1名同伴可）
理学 LABO ～折り紙で作るかんたん分子模型	理 学 部	2025 年 7 月 27 日、8 月 7 日	加藤太一郎	准教授	社会人（小4以上の生徒1名同伴可）
理学 LABO ～水の分析：身近な水には何が溶けている？	理 学 部	2025 年 8 月 7 日	児玉谷 仁	准教授	中高生
理学 LABO ～クレーンゲームで学ぶ物理学で UFO メカを工作するぞ	理 学 部	2025 年 7 月 19 日、7 月 26 日	小山 佳一	教授	社会人（小4以上の生徒1名同伴可）
小山教授の「育て理数好き小学女子！」親娘でスクラッチゲームプログラミング6月号「動物の餌やりゲーム」を作ろう！	理 学 部	2025 年 6 月 21 日	小山 佳一	教授	小学校4～6年生の女子と保護者1名
小山先生の親子でスクラッチゲームプログラミング in 亀美パックマン風ゲームに挑戦！	理 学 部	2025 年 7 月 5 日	小山 佳一	教授	小学校4～6年生1名と保護者1名
未来の自分と子どもの健康を守るブレコンセプションケア	医 学 部	2025 年 8 月 20 日	根路銘安仁	教授	高校生以上の男女
無痛分娩の助産ケア ～何かかわって、何かかわらないの？～	医 学 部	2025 年 10 月 25 日	井上 尚美	教授	助産師
高齢者の健康支援・介護	医学部保健学科	2025 年 8 月 30 日	大重 匡	教授	医療・介護職
第1回 コ・メディカルのためのご遺体解剖実習	医学部保健学科	2025 年 9 月 7 日	榊間 春利	教授	コ・メディカル（理学療法士、作業療法士等）
第2回 コ・メディカルのためのご遺体解剖実習	医学部保健学科	2025 年 11 月 9 日	榊間 春利	教授	コ・メディカル（理学療法士、作業療法士等）
最先端バイオ・医療（遺伝子治療、再生医学）の研究開発・実用化ー最先端医療による社会変革と研究者の将来性・キャリア形成も含めてー	医歯学総合研究科	2025 年 6 月 14 日	小賤健一郎	教授	大学生・一般社会人
ものづくり体験教室 2025	工 学 部	2025 年 8 月 6 日	中村 喜寛	技術専門員	中高生対象（テーマによって異なる）
機械に親しもう 鹿児島ロケットと市電整備の見学	先進工学科 機械工学プログラム	2025 年 8 月 5 日	片野田 洋	教授	小学生、中学生と保護者1名
新タマネギ収穫体験 ～家庭菜園での栽培のコツ～	農 学 部	2025 年 4 月 17 日	朴 炳宰	准教授	一般市民（社会人）
トルコギキョウ収穫体験	農 学 部	2025 年 4 月 24 日	朴 炳宰	准教授	社会人
観葉植物の寄せ植え体験	農 学 部	2025 年 6 月 25 日	朴 炳宰	准教授	一般市民（社会人）
熱帯・亜熱帯の果樹や植物の観察とオクラ収穫体験	農 学 部	2025 年 7 月 30 日	朴 炳宰	准教授	一般市民（小学生とその保護者）
附属農場市民講座「ベニハルカ収穫体験」	農 学 部	2025 年 9 月 29 日	朴 炳宰	准教授	一般市民（社会人）
カキの収穫 and 渋抜きを学ぶ	農 学 部	2025 年 10 月 2 日	朴 炳宰	助教	社会人
パッションフルーツの鉢植え栽培	農 学 部	2026 年 3 月 24 日	朴 炳宰	准教授	一般市民（社会人）
夏休み体験学習 プルーベリーを育ててみよう！収穫してみよう！	農 学 部	2025 年 7 月 24 日	西澤 優	助教	小学生とその保護者
落葉果樹の剪定を学ぶ	農 学 部	2026 年 1 月 22 日	西澤 優	助教	社会人
鹿児島ならではのカンキツ「タンカン」を収穫	農 学 部	2026 年 2 月 5 日	西澤 優	助教	社会人
発見！体感！本物の海藻を見てさわって海の豊かさを知り、「海の森図鑑」をつくろう	連合農学研究科	2025 年 7 月 19 日、26 日	寺田 竜太	教授	小学5年生・小学6年生
「中世社会成立期の歴史を学ぶー薩摩国を中心にー」	高等教育研究開発センター 生涯学習部門	2025 年 8 月 28 日、29 日	酒井 佑輔	准教授	主に 2025 年 前期公開授業をお申込みいただいた方（社会人）
ジュニア陸上教室 1 期	共通教育センター	2025 年 4 月 26 日、5 月 10 日、24 日、31 日、6 月 14 日、7 月 5 日、19 日	塗木 淳夫	教授	小学1～6年生
ジュニア陸上教室 2 期	共通教育センター	2025 年 9 月 6 日～12 月 14 日	塗木 淳夫	教授	小学1～6年生
ジュニア陸上教室 3 期	共通教育センター	2026 年 1 月 10 日～2 月 28 日	塗木 淳夫	教授	小学1～6年生
教育臨床セミナー・ベーシック篇	教師教育開発センター	2025 年 8 月 5 日	関山 徹	准教授	現職教員を中心とした教育関係者
教育臨床セミナー・アドバンス篇	教師教育開発センター	2025 年 8 月 6 日	関山 徹	准教授	現職教員を中心とした教育関係者
放射線ってどんなもの？～目に見えない放射線の世界～	先端科学研究推進センター	2025 年 8 月 5 日	尾上 昌平	講師	小学5年生～中学3年生

■大学間国際学術交流協定校(26カ国・地域、98機関)

(令和8年5月1日現在)

国・地域	締結機関名	締結年月日
インド	カルナタカ国立工科大学	2005年3月23日
	アンダラス大学	2003年12月1日
	インドネシア大学	2009年12月9日
	ボゴール農科大学	2010年6月4日
インドネシア	ディボネゴロ大学	2008年6月30日
	バンドン工科大学	2010年11月22日
	サムラランギ大学	2011年2月8日
	パティムラ大学	2014年3月25日
	スリウィジャヤ大学	2015年11月2日
	アイルランガ大学	2012年11月19日
カンボジア	王立プノンペン大学	2024年11月13日
	メジヨー大学	2001年4月30日
	国立モンクト王工科大学トンプリ校	2002年1月16日
タイ	カセサート大学	2005年12月19日
	スラナリ工科大学	2009年4月17日
	タクシン大学	2024年9月12日
	釜慶大	1995年7月6日
	全北大	1997年4月22日
	群山大	1997年12月1日
	済州大	1998年1月30日
韓国	江原大	2002年4月5日
	木浦大	2010年5月28日
	祥明大	2013年5月13日
	忠北大	2016年8月18日
	韓国外国語大	2013年1月22日
	国民大	2026年3月31日
	湘潭大	1986年12月11日
	雲南農業大	1989年5月11日
	湖南農業大	1989年6月2日
	中南大	1993年6月15日
	中国医科大	1993年9月13日
	南京工業大	1999年9月14日
	東北師範大	2001年11月13日
	東北大	2004年12月3日
	重慶大	2006年5月22日
中国	山東師範大	2009年12月24日
	上海海洋大	2011年10月24日
	首都経済貿易大	2013年3月1日
	華東政法大	2013年10月10日
	大連海事大	2015年7月27日
	四川大 錦江学院	2011年12月16日
	山西師範大	2022年6月15日
	曲阜師範大	2024年3月15日
	清華大	2024年12月17日
バングラデシュ	バングラデシュ農業大	2014年12月27日
フィリピン	フィリピン大	2007年12月12日
	フィリピンポリテクニク大	2017年4月1日
	ベトナム国家農業大	2002年3月6日
	ハノイ貿易大	2002年12月25日
ベトナム	ベトナム社会科学院	2007年5月23日
	ニャチャン大	2015年7月31日
	カントー大	2009年5月25日
ミャンマー	獣医科学大	2018年12月24日
	マレーシアアトレングヌ大	2005年4月22日
マレーシア	マレーシアサバ大	2009年3月4日
	マレーシアブトラ大	2010年3月16日
	マレーシア国際イスラム大	2013年10月29日
	マレーシア工科大	2023年11月30日
パキスタン	シンド大	2020年12月21日
	淡江大	2005年11月5日
	国立高雄科技大	2008年2月29日
	国立中興大	2009年4月1日
	国立高雄大	2016年4月7日
台湾	国立成功大	2005年12月23日
	国立台湾海洋大	2010年7月15日
	国立中央大	2024年4月26日
	国立屏東大	2024年12月2日
	国立宜蘭大	2025年8月7日
	国立台湾師範大	2026年2月5日

国・地域	締結機関名	締結年月日
	ニューイングランド大	1995年7月20日
オーストラリア	シドニー工科大	2000年3月1日
	セントラルクイーンズランド大	2019年12月5日
パプアニューギニア	パプアニューギニア大	1987年5月29日
南太平洋12カ国・地域	南太平洋大	1982年7月21日
	ジョージア大	1979年11月29日
	グアム大	2006年4月5日
	サンノゼ州立大	2012年4月23日
アメリカ合衆国	ノースダコタ州立大	2014年1月15日
	ハワイ大 マノア校	2018年8月8日
	ウイスコンシン大 ラクロス校	2021年2月4日
	フロリダ農工大	2021年5月3日
	ワシントン大	2024年11月21日
ブラジル	サンカルロス連邦大	2011年8月19日
	アマゾナス連邦大	2016年4月28日
イギリス	セントラル・ランカシャー大	2022年5月9日
スウェーデン	リンシェーピング大	2010年6月11日
スペイン	バレンシア工芸大	2000年2月7日
スロバキア	スロバキア農業大	2015年5月1日
	カール・フォン・オシエツキー大	2015年7月27日
ドイツ	オルデンブルク大	2015年7月27日
	ロッテンブルク林業大	2013年11月5日
	レンヌ第2 オート・ブルターニュ大	2010年7月1日
フランス	ボルドー・モンテーニュ大	2017年1月26日
	ヴェットアグロ・スーブ(フランス獣医学農学高等教育学校)	2015年8月25日
	ボルドー大	2025年4月28日
トルコ	アンカラ大	2012年12月10日
	ドクツェイリル大	2025年2月21日
エジプト	カフルシェイク大	2011年9月5日
	ベンハ大	2018年8月7日

■ダブル・ディグリー・プログラム協定校(2カ国・地域、3機関)

国・地域	締結機関名	締結年月日
中国	湖南農業大	2021年3月9日
タイ	メーファンラン大	2023年4月3日
タイ	タクシン大	2025年5月27日

■プログラム協定校(2カ国・地域、2機関)

国・地域	締結機関名	締結年月日
	医歯学総合研究科	
中国	中南大	2022年3月30日
	グローバルセンター	
オーストラリア	西オーストラリア大	2018年4月12日

■ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)との協定

国・地域	締結機関名	締結年月日
イギリス	鹿児島大学・21世紀版薩摩藩英国留学生「UCL 稲盛留学生」派遣協定	2018年6月21日

■独立行政法人国際協力機構(JICA)との協定

国・地域	締結機関名	締結年月日
セントルシア	国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人国際協力機構(JICA)との連携ボランティア派遣覚書	2015年7月31日
コロンビア	JICA研修員(学位課程就学者)受入に係る独立行政法人国際協力機構と国立大学法人鹿児島大学との覚書	2018年5月16日
日本	国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人国際協力機構(JICA)とのJICA海外協力隊連携派遣覚書	2025年3月10日

■部局間国際学術交流協定校(36力国・地域、97機関)

(令和8年5月1日現在)

国・地域	締結機関名	締結年月日
法文学部		
中国	長江大学外国語学院	2019年6月28日
モンゴル	ユネスコ後援国際遊牧文明研究所	2023年2月20日
フランス	大西洋ブルターニュ・マネジメント学院	2019年4月12日
ドイツ	ミュンヘン大学東アジア研究部日本センター	2003年10月29日
法文学部・人文社会科学研究科		
中国	内蒙古大学民族学与社会学学院	2016年11月1日
	内蒙古師範大学外国語学院	2017年6月19日
	上海海事大学外国語学院	2018年7月1日
	海南大学外国語学院	2019年7月19日
	江蘇師範大学	2025年4月2日
台湾	国立暨南国際大学人文学院	2017年4月18日
教育学部		
台湾	国立台北教育大学	2012年4月1日
ドイツ	ボン大学哲学部	2006年9月26日
フランス	国立障害者教育指導方法高等研究所	2013年9月24日
教育学部附属中学校		
台湾	台北市立大直高級中学校	2013年12月16日
医学部		
韓国	中央大学校赤十字看護大学	2012年11月15日
	東亜大学健康科学大学	2024年2月23日
アメリカ合衆国	ベレア大学	2023年3月13日
鹿児島大学病院		
韓国	韓国中央大学病院	2015年1月28日
歯学部		
中国	香港大学歯学部	2017年7月11日
韓国	慶熙大学校歯学部	2019年11月28日
台湾	国立陽明大学歯学部	2017年8月12日
	高雄医学大学歯学部	2017年8月7日
タイ	プリンスオブソンクラーク大学歯学部	2018年7月4日
インドネシア	ブラウイジャヤ大学歯学部	2020年4月8日
	アイルランガ大学歯科医学学部	2023年5月22日
マレーシア	マラヤ大学歯学部	2020年2月19日
ミャンマー	ヤンゴン歯科大学	2014年10月30日
カナダ	マンダレー歯科大学	2014年10月30日
ブラジル	プリティッシュコロンビア大学歯学部	2014年11月17日
農学部		
中国	華中農業大学	2018年5月22日
台湾	中国文化大学農学院	2012年10月3日
タンザニア	セントオーガスティン大学タンザニア	2018年4月19日
タイ	メーファンラン大学農産業学部	2016年11月14日
	タクシン大学農学部	2023年10月18日
マラウイ	リクングウェ農業天然資源大学	2016年8月23日
	マラウイ科学技術大学	2019年3月25日
メキシコ	ヌエボレオン自治大学	2019年1月22日
南アフリカ	ヨハネスブルグ大学	2024年7月8日
水産学部		
インドネシア	ハサヌティン大学海洋科学水産学部	2007年11月17日
タイ	東南アジア漁業開発センター	2003年12月3日
韓国	韓国海洋科学技術院	2017年5月22日
中国	大連海洋大学	2003年10月21日
	浙江海洋学院	2011年4月5日
	自然資源部第二海洋研究所	2014年10月9日
	華中農業大学水産学院	2018年7月27日
台湾	国立嘉義大学生命科学院	2016年11月28日
フィリピン	サンカルロス大学文理学部	2012年5月30日
マレーシア	マレーシア科学大学	2019年11月1日
ノルウェー	トロムソ大学生物水産経済学部	2019年6月25日
エリトリア	海洋科学技術大学	2011年4月30日
トルコ	チャナツカレ・オンセキズ・マルト大学	2017年12月21日
コロンビア	マグダレナ大学	2020年2月12日

国・地域	締結機関名	締結年月日
水産学部		
大学院国際連携プログラムの形成のための包括協定	サムラトランギ大学（インドネシア）	2014年8月19日
	フィリピン大学ヴィサヤス校（フィリピン）	
	カセサート大学（タイ）	
	トレンガヌ大学（マレーシア）	
	ニャチャン大学（ベトナム）	2016年2月29日
共同獣医学部	ボゴール農科大学（インドネシア）	2019年1月15日
	国立嘉義大学（台湾）	2023年4月11日
共同獣医学部		
タイ	チュラロンコン大学獣医学部	2025年8月5日
バングラデシュ	チョットグラム獣医動物科学大学	2013年6月23日
	シエレバングラ農科大学動物科学・獣医学部	2019年10月31日
	パツカリ科学技術大学動物科学・獣医学部	2025年10月12日
フィリピン	カヴィテ州立大学獣医生命科学部	2020年3月13日
パキスタン	アブドゥルワリカーン大学マルダン	2022年8月12日
キルギス	キルギス獣医学研究所	2025年7月25日
ドイツ	ベルリン自由大学	2018年7月6日
フランス	アルフォー獣医大学	2021年10月18日
ポルトガル	トラスモンテスアルトデオ大学獣医学部	2019年2月13日
エジプト	国立研究所	2022年1月19日
	サウスバレー大学獣医学部	2023年11月5日
リトアニア	リトアニア健康科学大学獣医学部	2021年7月7日
理工学研究科		
インドネシア	マタラム大学	2025年10月20日
台湾	国立台湾大学理学部	2019年1月19日
カンボジア	カンボジア工科大学	2023年9月4日
フランス	ソルボンヌ大学	2017年3月31日
イタリア	フィレンツェ大学建築学科	2016年10月13日
スイス	西スイス応用科学技術大学	2017年7月4日
チェコ	チェコ工科大学電気工学部	2026年1月14日
メキシコ	モンテレイ大学	2020年4月1日
南アフリカ	南アフリカ大学	2026年3月4日
医歯学総合研究科		
中国	徐州医科大学	2018年5月11日
インドネシア	ジェンバー大学医学部	2008年3月25日
タイ	プリンスオブソンクラーク大学医学部	2011年3月11日
ベトナム	ハノイ医科大学	2008年5月9日
ネパール	ネパールガンジ医科大学	2016年7月31日
オーストラリア	フリンダース大学	2022年5月3日
アラブ首長国連邦	ガルフ医科大学	2022年5月11日
国際島嶼教育研究センター		
韓国	済州研究院済州学研究センター	2019年6月10日
フィリピン	ビサヤ大学経営学部	2023年1月9日
マレーシア	サバ大学島嶼研究所	2023年1月9日
インドネシア	パティムラ大学島嶼研究所	2023年1月9日
総合教育機構		
タイ	ブラバーク大学	2024年7月18日
稲盛アカデミー		
中国	浙江工商大学	2024年10月5日
総合研究博物館		
ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー生命科学研究所	2026年3月9日
ラオス	ラオス国立大学森林学部	2023年7月13日
ヒトレトロウイルス学共同研究センター		
インドネシア	ブラウイジャヤ大学医学部	2026年3月10日

■出身国(地域)別(41か国・地域 348名)

(令和8年5月1日現在)

地域	国(地域)	法文人社研	教育学部	理学部・理工学研究科(理)	医歯研	工学部・理工学研究科(工)	農学部・農水研(農)	水産学部・農水研(水)	共同獣医学部・研究科	連合農学研究科	グローバルセンター	合 計
ア ジ ア 地 域	中 国	70	2 ①	5	13	23	24	9	2	12 ②		160 ③
	韓 国	4 ①	1	1	3	11	3	2		1		26 ①
	台 湾		2	3			1		2			8
	ベ ト ナ ム	2			2 ②		2			3 ①		9 ③
	マ レ ー シ ア			2 ②		7			2 ②			11 ④
	ミ ャ ン マ ー			1		2						3
	フィリピン		2		1 ①		1			2		6 ①
	インドネシア	2 ①	1 ①		10 ⑦	2 ②	5 ②			5 ③		25 ⑥
	タ イ	3 ①					1					4 ①
	カンボジア					6						6
	イ ン ド					1 ①		1 ①				2 ②
	ス リ ラ ン カ			1 ①			1 ①			8 ⑦		10 ⑨
中 近 東 地 域	パ キ ス タ ン			5 ⑤		1 ①				1 ①		7 ⑦
	バングラデシュ				2	1	1 ①	1	5 ②	2 ①		12 ④
	イ ラ ン				1				1 ①			1 ①
ア フ リ カ 地 域	トルコ	2			1							4
	ウ ガ ン ダ									1		1
	エチオピア									2 ①		2 ①
	タンザニア				1 ①		3 ②		1 ①			5 ④
	ナイジェリア			1			1					2
	南 ス ー ダ ン									1		1
	シエラレオネ						1			1		2
	マ ラ ウ イ									1 ①		1 ①
	ジンバブエ									1		1
	カメルーン									1 ①		1 ①
	ナ ミ ビ ア									1		1
	モザンビーク									1		1
ヨ ー ロ ッ パ 地 域	ス イ ス					1						1
	ス ペ イ ン		1									1
	ド イ ツ	1	1	1								3
	フ ラ ン ス	5										5
	ノ ル ウ ェ ー							3				3
	チ ェ コ			1 ①								1 ①
北 米 地 域	米 国	2										2
	ベ リ ー ズ			1 ①								1 ①
中 南 米 地 域	エルサルバドル						1					1
	ブ ラ ジ ル	1 ①				1	1					3 ①
	ペ ル ー				4	1		2 ②				7 ②
	メ キ シ コ				1 ①	1						2 ①
大 洋 州 地 域	オーストラリア	1			1	1						3
	フ ィ ジ ー									3 ①		3 ①
合 計		93 ④	10 ②	22 ⑩	40 ⑫	59 ④	46 ⑥	18 ③	13 ⑥	47 ⑨	0	348 ⑥⑥

■在籍別

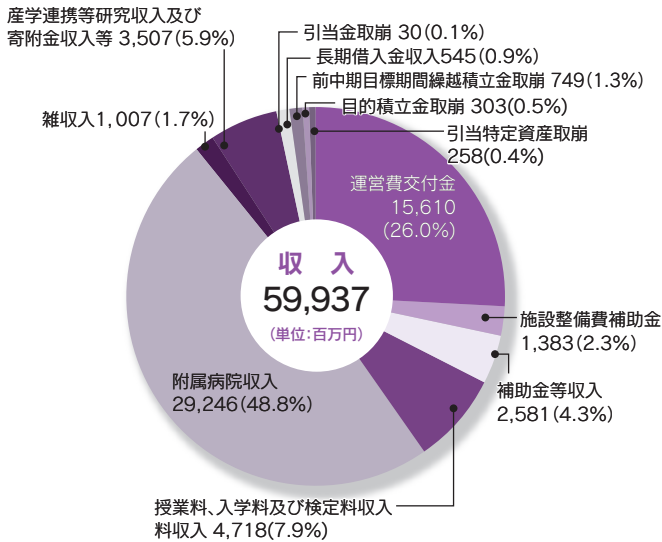
(令和8年5月1日現在)

在 籍 身 分		法文・人社研	教育学部	理学部・理工学研究科(理)	医歯研	工学部・理工学研究科(工)	農学部・農水研(農)	水産学部・農水研(水)	共同獣医学部・研究科	連合農学研究科	グローバルセンター	合 計
大学院	博士[博士後期]	4			7				3 ①			10 ①
		3	6		2 ①				3 ②	17 ⑦		28 ⑩
		2	1	3 ②	9 ②	4 ①			1	16 ⑥		34 ⑪
		1	3	1 ①	8 ⑤	4 ①			1 ①	14 ⑥		31 ⑭
	修士[博士前期]	2	15	2 ①	6 ③	9 ②	15 ③	3 ①				50 ⑩
		1	10	7 ⑤	3 ①	9	15 ③	2 ①				46 ⑩
学 部		6			1							1
		5			1							1
		4	4			7	1	1				13
		3	1	3		11	4	3	2 ①			24 ①
		2	2	1 ①	1	5	2					11 ①
		1	1	1		4	2	2	1 ①			11 ①
研 究 生		5		2	2	5	4	3 ①	1			22 ①
特 別 研 究 学 生												0
特 別 聴 講 学 生		45 ④	10 ②	2		1	3	4	1			66 ⑥
目 等 履 修 生												0
日 本 語 研 修 コ ー ス 生												0
合 計		93 ④	10 ②	22 ⑩	40 ⑫	59 ④	46 ⑥	18 ③	13 ⑥	47 ⑨	0	348 ⑥⑥

(注) ※○印内は内数で国費留学生を示す。

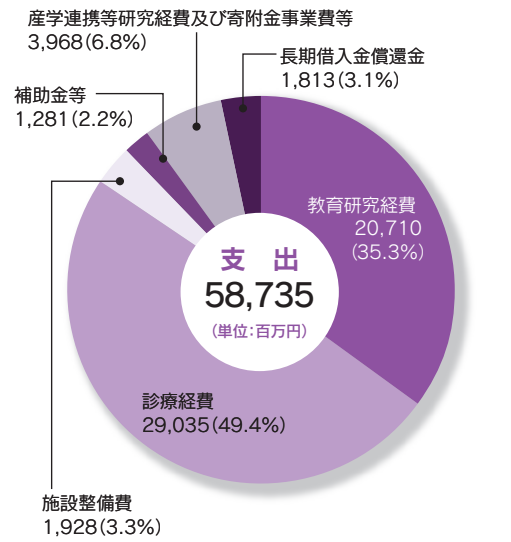
※大学院連合農学研究科の内訳：鹿大26(6)佐大15(9)琉大6(4) (()内は国費留学生を示す)

令和7年度収入・支出決算額



(単位:百万円)	
収入	金額
運営費交付金	15,610
施設整備費補助金	1,383
補助金等収入	2,581
授業料、入学科及び検定料収入	4,718
附属病院収入	29,246
財産処分収入	0
雑収入	1,007
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,507
引当金取崩	30
長期借入金収入	545
前中期目標期間繰越積立金取崩	749
目的積立金取崩	303
引当特定資産取崩	258
合計	59,937

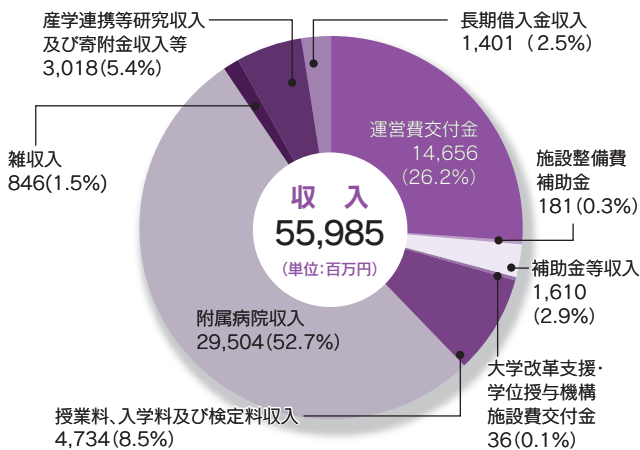
(注)端数処理上、合計額が一致しない場合があります。



(単位:百万円)	
支出	金額
教育研究経費	20,710
診療経費	29,035
施設整備費	1,928
補助金等	1,281
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	3,968
長期借入金償還金	1,813
合計	58,735

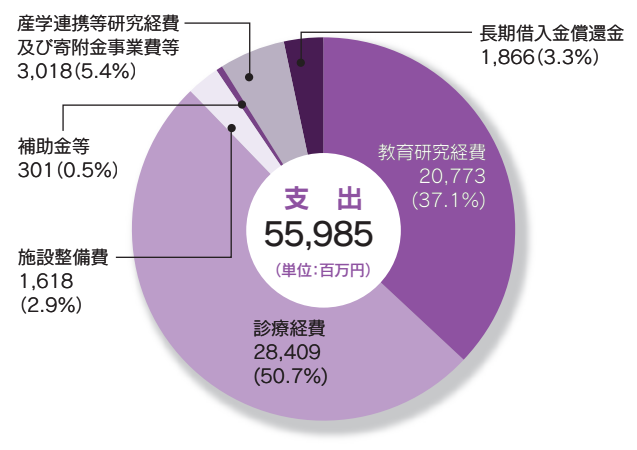
(注)端数処理上、合計額が一致しない場合があります。

令和8年度予算



(単位:百万円)	
収入	金額
運営費交付金	14,656
施設整備費補助金	181
補助金等収入	1,610
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	36
授業料、入学科及び検定料収入	4,734
附属病院収入	29,504
雑収入	846
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,018
長期借入金収入	1,401
合計	55,985

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合があります。



(単位:百万円)	
支出	金額
教育研究経費	20,773
診療経費	28,409
施設整備費	1,618
補助金等	301
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	3,018
長期借入金償還金	1,866
合計	55,985

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合があります。

■科学研究費助成事業

【種目別採択状況(令和7年度)】

(単位:千円)

研究種目	件数	金額	研究種目	件数	金額
学術変革領域研究(A)	2	6,500	研究活動スタート支援	15	13,300
基盤研究(A)	4	37,200	奨励研究	2	910
基盤研究(B)	48	185,000	特別研究促進費	1	13,975
基盤研究(C)	340	360,700	研究成果公開促進費 (ひらめき☆ときめきサイエンス)	3	1,500
挑戦的研究(開拓)	1	4,200	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)	1	11,700
挑戦的研究(萌芽)	7	10,300	特別研究員奨励費	16	14,100
若手研究	81	88,827	合計	521	748,212

【学部等別採択状況(令和7年度)】

(単位:千円)

学部等	件数	金額	学部等	件数	金額
法文学部	36	39,000	大学院理工学研究科(理学系)	28	76,375
教育学部	32	34,300	大学院理工学研究科(工学系)	53	79,740
医学部	27	31,400	大学院医歯学総合研究科	166	236,157
鹿児島大学病院	83	98,970	大学院連合農学研究科	4	3,500
農学部	23	37,700	総合教育機構	15	14,100
共同獣医学部	18	35,200	ヒトレトロウイルス学共同研究センター	5	4,900
水産学部	17	35,900	学内共同教育研究施設	14	20,970
			合計	521	748,212

(注1)本表は、令和7年度に本学の研究者が研究代表者として採択された新規課題に既に採択されている継続課題を加え集計したもの。

(注2)金額は、日本学術振興会の交付内定一覧に記載された令和7年度の交付予定額(直接経費)を記載。(千円未満四捨五入)

(注3)所属は、交付内定時(補助金(新規・継続)、基金(新規))及び支払請求時(基金(継続))の部局等で集計。

(注4)応募から交付内定までの間の転出者及び令和7年度中に承認された廃止課題を含み、令和7年度転入者を除く。

(注5)補助金繰越・基金延長課題を除く(支払請求を行った育休取得等に伴う中断・延長課題は含む)。

■厚生労働科学研究費

(単位:千円)

研究事業名	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
厚生労働科学特別研究事業					1	2,688
難治性疾患政策研究事業	1	8,639	1	10,500	1	13,431
合計	1	8,639	1	10,500	2	16,119

(注)金額は直接経費を記載

■学術コンサルティング

(単位:千円)

学部等	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
法文学部	-	-	1	728	-	-
教育学部	1	130	-	-	-	-
医学部	-	-	1	315	-	-
農学部	4	650	-	-	1	114
水産学部	-	-	1	57	2	1,204
共同獣医学部	1	199	-	-	2	286
理工学研究科(理学系)	1	26	-	-	-	-
理工学研究科(工学系)	6	5,652	8	5,272	8	5,281
医歯学総合研究科	2	1,140	1	646	1	390
臨床心理学研究科	1	150	-	-	-	-
ヒトレトロウイルス学共同研究センター	-	-	-	-	1	34
学内共同教育研究施設等	3	936	5	2,383	8	2,256
合計	19	8,883	17	9,401	23	9,565

(注) 1. 学術コンサルティング制度は令和5年度より開始。2. 千円未満四捨五入により作成。3. 端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

■寄附金

(単位:千円)

学 部 等	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
法文学部・人文社会科学 研究科	28	10,839	21	9,917	35	16,579
教育学部・教育学研究科 (附属学校含む)	63	15,700	58	18,918	51	17,068
理 学 部	1	10,000	2	10,056	2	10,000
医学部・保健学 研究科	39	18,527	54	14,417	30	10,222
歯 学 部	33	6,580	23	7,810	25	9,310
工 学 部	15	436	12	268	7	640
農 学 部	73	34,781	52	47,602	62	23,969
水 産 学 部	68	41,923	58	30,680	76	28,391
共同獣医学部・共同獣医学 研究科	72	57,571	75	46,798	102	49,828
鹿児島大学 病院	178	71,579	224	126,462	191	81,256
理工学 研究科	156	119,052	197	135,746	205	118,551
医歯学総合 研究科	1,082	1,019,171	980	860,863	1,033	956,720
臨床心理学 研究科	5	394	2	335	4	743
連合農学 研究科	2	1,976	2	550	2	8,025
ヒトレトロウイルス学共同研究センター	8	10,215	5	4,750	3	2,000
機構・学内共同教育 研究施設	1,531	21,108	1,492	25,041	321	23,289
事 務 局	331	14,008	449	18,960	428	32,916
合 計	3,685	1,453,867	3,706	1,359,181	2,577	1,389,513

(注) 1. 件数、金額には、現物寄附を含む。(現物寄附の件数に図書の入受冊数を含む。)
2. 千円未満切捨てにより作成。

■受託研究

(単位:千円)

学 部 等	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
法 文 学 部	7	17,264	8	18,121	7	9,519
教 育 学 部	-	-	1	10,000	3	11,201
医学部・保健学 研究科	10	23,659	9	14,542	8	16,933
農 学 部	13	34,378	14	21,325	14	43,517
水 産 学 部	16	42,029	14	34,163	16	30,898
共同獣医学部	236	32,250	243	80,748	239	137,727
(うち、動物病理組織検査)	225	4,020	221	4,169	206	3,916
鹿児島大学 病院	236	263,642	251	204,149	254	300,063
(うち、医薬品等の臨床研究)	136	129,467	132	127,570	126	148,737
理工学 研究科 (理学系)	19	167,314	14	131,369	13	131,841
理工学 研究科 (工学系)	31	132,174	36	149,019	31	185,473
(うち、受託試験)	-	-	-	-	-	-
医歯学総合 研究科	112	270,579	104	181,540	129	371,939
(うち、病理組織検査)	43	30,052	43	30,223	62	31,665
臨床心理学 研究科	-	-	-	-	-	-
連合農学 研究科	1	232	1	232	1	232
ヒトレトロウイルス学共同研究センター	4	5,734	2	4,550	3	95,799
学内共同教育 研究施設等	9	34,998	6	241,101	7	51,700
合 計	694	1,024,253	703	1,090,859	725	1,386,842
(うち受託試験・病理組織検査・臨床研究等)	404	163,539	396	161,962	394	184,318

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。
2. 千円未満四捨五入により作成。
3. 端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

■共同研究

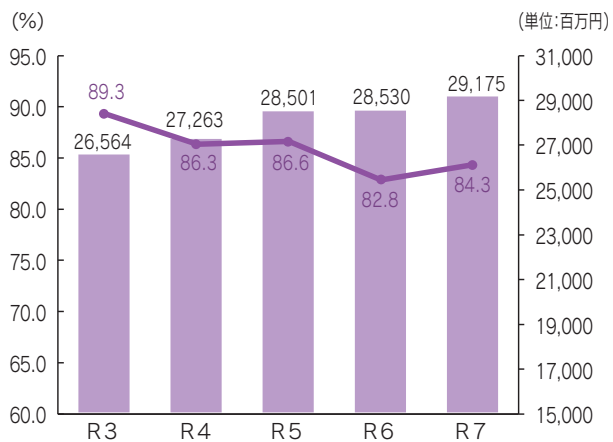
(単位:千円)

学 部 等	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
法 文 学 部	5	786	5	4,438	3	5,004
教 育 学 部	1	0	1	897	1	0
医学部・保健学 研究科	10	10,780	10	17,910	10	8,630
農 学 部	49	37,650	31	30,082	44	29,156
水 産 学 部	32	34,907	22	33,549	32	31,228
共同獣医学部	18	35,785	27	52,336	29	60,854
鹿児島大学 病院	31	2,970	28	3,380	23	5,093
理工学 研究科 (理学系)	23	70,721	26	80,149	28	75,901
理工学 研究科 (工学系)	92	96,111	105	130,491	110	216,042
医歯学総合 研究科	56	81,533	52	159,296	51	118,260
臨床心理学 研究科	-	-	-	-	-	-
連合農学 研究科	1	1,000	1	1,000	1	1,000
ヒトレトロウイルス学共同研究センター	4	2,210	3	1,440	4	0
学内共同教育 研究施設等	19	26,056	18	23,310	14	19,438
合 計	341	400,509	329	538,278	350	570,606

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。
2. 共同研究契約については、金額の入受がない契約もあり。(必要な経費は各機関で措置する。)
3. 千円未満四捨五入により作成。
4. 端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

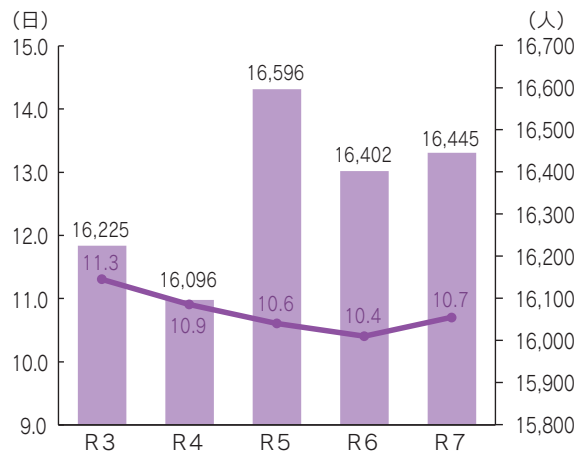
鹿児島大学病院実績等

診療報酬稼働額と病床稼働率の推移



	R3	R4	R5	R6	R7
稼働額 (百万円)	26,564	27,263	28,501	28,530	29,175
病床稼働率 (%)	89.3	86.3	86.6	82.8	84.3

平均在院日数 (一般病床) と新入院患者数の推移



	R3	R4	R5	R6	R7
新入院患者数 (人)	16,225	16,096	16,596	16,402	16,445
平均在院日数 (日)	11.3	10.9	10.6	10.4	10.7

病床数

				床
一	般	病	床	662
精	神	病	床	40
感	染	症	病	2
鹿児島大学病院合計				704

附属動物病院実績等

診療件数および稼働額

動物種	診療科等	件数 (件)	稼働額 (千円)
伴侶動物	伴侶系	4,897	221,311
	検査系	646	27,190
産業動物	馬診療科	386	10,946
	牛・山羊診療科	171	25,758
夜間診療		685	21,393
火葬		381	5,024
合計		7,166	311,622



附属図書館実績等

【令和7年度利用状況】

区 分	開館日数	総 入 館 者 数				
		平 日			土・日 及び祝日	合 計
		17:15まで	17:15以降	計		
中央図書館	304	129,519	50,871	180,390	23,355	203,745
桜ヶ丘分館	330	40,910	10,099	51,009	9,249	60,258
水産学部分館	268	12,615	2,019	14,634	772	15,406
合 計		183,044	62,989	246,033	33,376	279,409

【蔵 書】

図書(冊) (令和8年4月1日現在)

区 分		総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計
和漢書	中央図書館	68,766	42,164	80,080	203,016	99,999	68,250	51,298	28,320	28,256	72,787	742,936
	桜ヶ丘分館	809	1,807	739	5,046	75,644	956	338	747	1,552	1,558	89,196
	水産学部分館	1,827	386	1,145	6,179	13,225	6,302	13,462	931	1,268	1,008	45,733
	小 計	71,402	44,357	81,964	214,241	188,868	75,508	65,098	29,998	31,076	75,353	877,865
洋書	中央図書館	13,780	17,609	16,932	51,270	69,813	18,176	19,397	4,895	13,299	32,045	257,216
	桜ヶ丘分館	488	218	56	535	58,374	55	35	52	224	422	60,459
	水産学部分館	417	117	268	630	5,601	2,262	4,218	253	270	92	14,128
	小 計	14,685	17,944	17,256	52,435	133,788	20,493	23,650	5,200	13,793	32,559	331,803
合 計		86,087	62,301	99,220	266,676	322,656	96,001	88,748	35,198	44,869	107,912	1,209,668

雑誌(総種類数)

区 分	和雑誌	洋雑誌	合 計
中央図書館	22,258	9,164	31,422
桜ヶ丘分館	3,486	2,456	5,942
水産学部分館	2,578	1,141	3,719
合 計	28,322	12,761	41,083



▲玉里文庫所蔵資料

【貴重書・古書籍等コレクション】

文庫名	内 容 等					
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊					
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊					
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊					
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア・太平洋諸島関係洋書 686冊					
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊					
市来文庫	伊佐市の郷土史家であった市来政香氏旧蔵書 政香氏収集の文書記録類 同様に市来政香氏旧蔵書で当館所蔵の中世・近世の市来家文書に連なる史料9冊					
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊本、馱謨、臼杵の各郡が比較的まとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる 2,944冊					
山下(森)徳治文書	旧制鹿児島師範学校出身の教育学者、山下(森)徳治氏の直筆原稿・ノート等 356点					
諸家文書	市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
	山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
	有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
	斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	144点
	肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		

■土地・建物・船舶

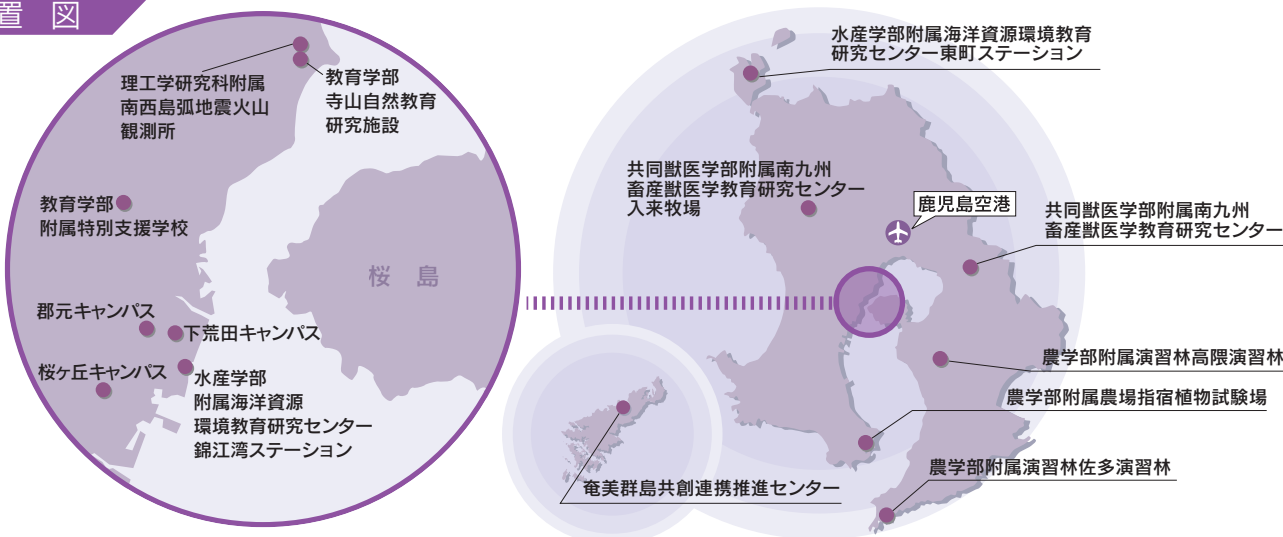
(令和8年5月1日現在)

区 分			土 地(m ²)	建 物(延面積m ²)			備 考(単位:m ²)
				木 造	非木造	計	
郡 元 地 区	事 務 局		233,630 (23)	0	13,338	13,338	
	保 健 管 理 セ ン タ ー			0	902	902	
	附 属 図 書 館			0	12,703	12,703	
	法 文 学 部			0	6,930	6,930	
	理 学 部			0	13,764	13,764	
	工 学 部			0	38,540	38,540	
	農 学 部			169	24,958	25,127	
	共 同 獣 医 学 部			0	14,568	14,568	
	共 通 教 育			0	17,440	17,440	
	そ の 他			0	14,310	14,310	
桜ヶ丘地区	教 育 学 部		118,265	308	41,911	42,219	看護師宿舎 (土地 4,431 建物 4,127)
	小 計		351,895 (23)	477	199,364	199,841	
	医 学 部		218,183	0	21,992	21,992	
	歯 学 部			0	3,115	3,115	
	医 歯 学 総 合 研 究 科			0	43,298	43,298	
	鹿 児 島 大 学 病 院			0	81,437	81,437	
	附 属 図 書 館			0	2,010	2,010	
	先端科学研究推進センター			0	4,381	4,381	
	亀ヶ原総合グラウンド			0	52	52	
	桜ヶ丘寄宿舎			0	3,122	3,122	
	小 計		218,183	0	159,407	159,407	
下荒田地区	水産学部地区		49,154	93	12,144	12,237	宿舎 (土地 3,383 建物 2,028)
	国際交流会館(1号館)			0	1,430	1,430	
	国際交流会館(2号館)			0	1,259	1,259	
	国際交流会館(3号館)			0	1,507	1,507	
	外国人研究者宿泊施設			0	686	686	
	小 計		49,154	93	17,026	17,119	
そ の 他	唐湊寄宿舎		24,391	0	5,694	5,694	その他宿舎 (土地 25,234 建物 15,338)
	唐湊果樹園		72,682	0	1,207	1,207	
	唐湊林園		9,958	0	0	0	
	寺山自然教育研究施設		300,855	0	885	885	
	教育学部附属特別支援学校		16,776	460	3,131	3,591	
	桜島火山観測点		298	0	31	31	
	高隈演習林		30,596,982	0	1,543	1,543	
	佐多演習林		2,972,857	0	0	0	
	入来牧場		1,478,451 (26)	178	3,637	3,815	
	桜島熔岩実験場		372,714	0	0	0	
	指宿植物試験場		30,725	250	2,039	2,289	
	東町ステーション		16,902	0	1,183	1,183	
	錦江湾ステーション		4,990 (94)	0	2,150	2,150	
	外国人宿泊施設		344	0	294	294	
	磯艇庫		408	0	243	243	
	海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設		457	0	389	389	
	谷山ふ頭		0 (440)	0	0	0	
	甌島観測点		0 (49)	0	24	24	
	伊集院観測点		0 (7)	0	0	0	
	屋久島観測点		0 (109)	0	40	40	
	串間観測点		0 (58)	0	58	58	
	紫尾観測点		0 (59)	0	58	58	
	黒島観測点		0 (59)	0	58	58	
	佐多観測点		0 (58)	0	11	11	
	高岡観測点		0 (58)	0	40	40	
	吉松観測点		0 (47)	0	0	0	
	田代観測点		0 (6)	0	0	0	
	そ の 他		0 (3,139)	0	658	658	
	小 計		35,899,791 (4,209)	888	23,373	24,261	
合 計			36,519,022 (4,232)	1,458	399,170	400,628	宿舎(土地 33,048 建物 21,493)

(注) 1. 土地欄()内数量は借用地。
2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

船 名	トン数(トン)	機 関	馬力	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	建造年月日
かごしま丸	935.00	電 気 推 進	1,800	57.42	12.10	7.00	平成24年 3月30日
南 星 丸	175.00	デ ィ ー ゼ ル	500	34.20	7.50	3.30	平成14年11月28日

位置図



■鹿児島市へのアクセス 鹿児島空港から 鹿児島空港リムジンバスで鹿児島中央駅まで約40分

鹿児島市内交通アクセス

1 郡元キャンパス

 市電 ※()は最寄りの門

1系 騎射場電停下車 徒歩約10分(正門、東門)

2系 唐湊電停下車(西門)

工学部前電停下車(工学部門)

 **市営バス【鹿児島中央駅経由】**

鹿大正門前または、法文学部前下車

10 高麗橋線 11 鴨池・冷水線

20 緑が丘・鴨池港線

 鹿児島交通【鹿児島中央駅経由】

鹿大正門前または、法文学部前下車

18 大学病院線

19 紫原・桜ヶ丘五丁目行

 南国交通【鹿児島中央駅経由】

鹿大教育学部前または、附属小前下車

30 県庁西・鴨池新町方面

鹿大正門前または

39 武岡・鴨池港線
徒歩
鹿児島中央駅から市電2系通り沿いに歩いて約25分

2 桜ヶ丘キャンパス



市電

1系 脇田電停下車

 市営バス

【脇田電停前発】

大学病院前または、歯学部前下車

18 大学病院線

 鹿児島交通【鹿児島中央駅経由】

大学病院前または、歯学部前下車

17 桜ヶ丘東口行

18 大学病院線

19 紫原・桜ヶ丘五丁目行

 JR【JR指宿枕崎線】宇宿(うすき)駅下車

3 下荒田キャンパス



1系 騎射場電停下車 徒歩約10分

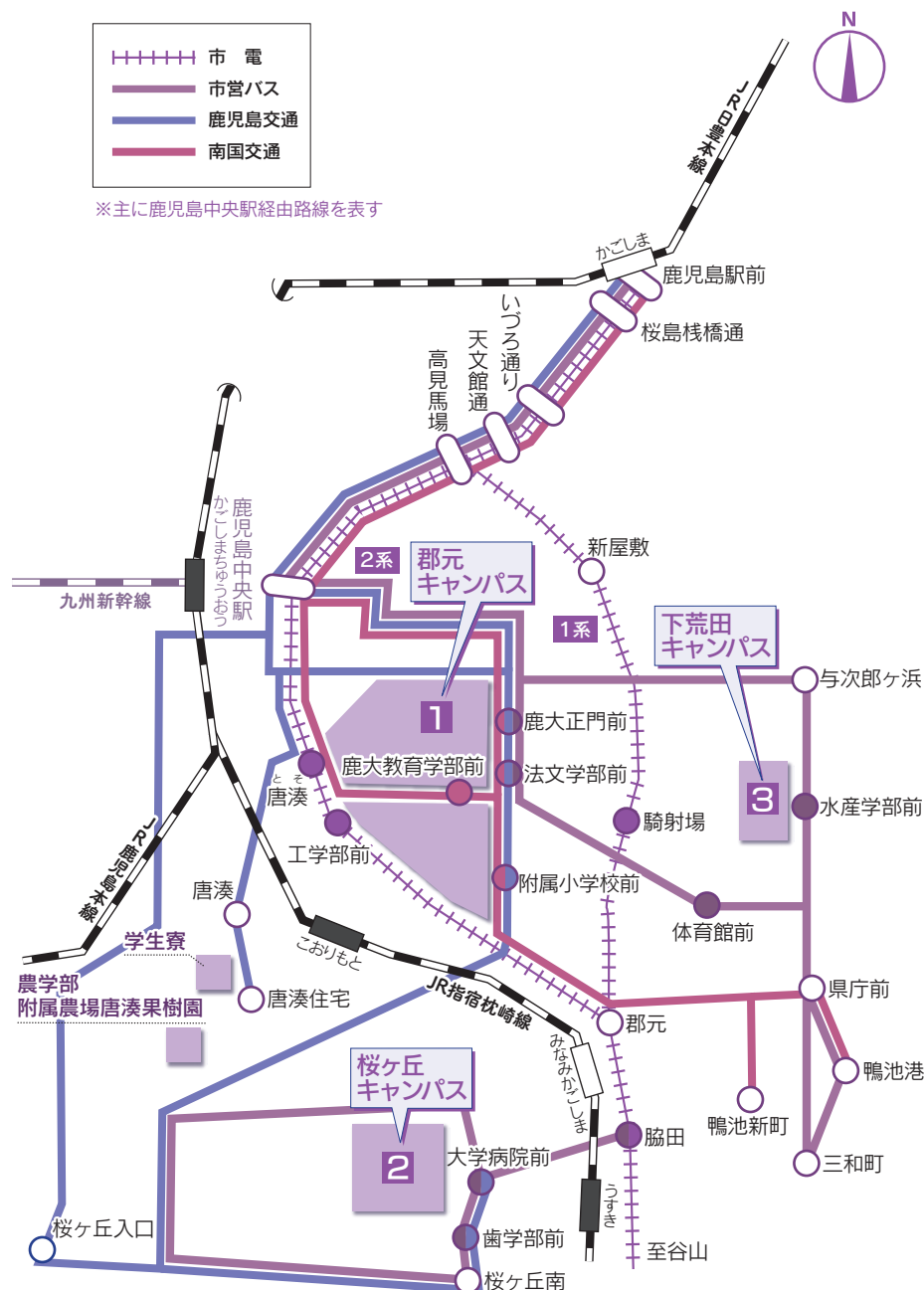
 **市営バス【鹿児島中央駅経由】**

體育館前下車 徒歩約5分

11 鴨池・冷水線

水产学部前下車

27 豊庁・与次郎線



郡元キャンパス

法文学部
教育学部
理学部
工学部
農学部
共同獣医学部

理工学研究科
臨床心理学研究科
連合農学研究科

- 1 北辰通り (大正4年第七高等学校第14回記念祭歌「北辰斜に」に由来)
- 2 銀杏並木通り
- 3 稲盛通り (稲盛と夫京セラ名誉会長の寄贈の稲盛会館に由来)
- 4 田園通り (附属農場越しに桜島が望めます。)
- 5 みのりの小径
- 6 本部前・緒方通り (初代学長 緒方健三郎氏に由来)
- 7 植物園通り
- 8 ふれあい通り
- 9 教育学部通り
- 10 玉利通り (鹿児島高等農林学校初代校長 玉利喜造博士に由来)
- 11 工学部通り
- 12 理学部通り
- 13 森の小径
- 14 法文学部通り

A-

- 1 インフォメーションセンター
- 2 事務局
- 3 保健管理センター
- 4 埋蔵文化財調査センター・事務局車庫
- 5 農・獣医共通棟 (管理室・講義室・学生実験室・セミナー室)
- 6 共同獣医学部研究棟 A (獣医学科実験研究室)
- 7 共同獣医学部研究棟 B (獣医学科実験研究室)
- 8 農学部研究棟 C
- 9 農学部研究棟 D
- 10 農学部研究棟 E
- 11 共同獣医学部附属動物病院大動物診療センター
- 12 共同獣医学部附属動物病院軽種馬診療センター
- 13 農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター (北辰蔵)
- 14 // 温室
- 15 // 植物研究実験施設
- 16 // 網室・硝子室
- 17 // 附属農場動物飼育棟
- 18 // 附属農場研究実習棟
- 19 // 倉庫
- 20 // 水理実験棟
- 21 // 昆虫飼育棟
- 22 共同利用棟 (獣医学科実験研究室・総合研究博物館・先端科学研究推進センター (感染制御研究部門) 等)
- 23 先端科学研究推進センター (遺伝子実験部門)
- 24 先端科学研究推進センター (低温実験・アイトソープ部門)
- 25 馬術部馬房
- 26 大学院連合農学研究科棟
- 27 総合研究博物館展示棟 (常設展示室)
- 28 学習交流プラザ
- 29 大学会館
- 30 中央食堂
- 31 産学交流プラザ (南九州・南西諸島域イノベーションセンター・地域防災教育研究センター・奄美群島共創連携推進センター)

- 32 情報基盤統括センター
- 33 中央変電所・総合研究博物館標本収蔵庫
- 34 工学部情報・生体工学棟
- 35 コトづくり支援棟
- 36 工学部電気電子工学棟
- 37 // 建築学棟
- 38 // 化学工学棟
- 39 // 機械工学第一実験棟
- 40 // 機械工学第二実験棟
- 41 // 機械工学第三実験棟
- 42 // 機械工学 2 号棟
- 43 // 機械工学 1 号棟
- 44 // 化学生命工学棟
- 45 // 薬品庫
- 46 // 海洋波動実験棟
- 47 稲盛会館
- 48 工学系講義棟
- 49 工学部海洋土木工学棟
- 50 // 共通棟
- 51 理工系総合研究棟・先端科学研究推進センター (機器分析部門)
- 52 理学部 1 号館 (管理室・物理・宇宙プログラム・化学プログラム・地球科学プログラム・実験研究室・講義室)、理学先端研究棟、天の川銀河研究センター
- 53 理学部 2 号館 (数理情報科学プログラム・生物学プログラム・化学プログラム・地球科学プログラム・実験研究室・講義室)



桜ヶ丘キャンパス

医学部
歯学部
医歯学総合研究科
鹿児島大学病院

B-

- ① 医学部臨床講義棟
- ② 医歯学総合研究科棟3(臨床医学系)
- ③ 医歯学総合研究科棟2(基礎医学系)
- ④ 実験施設
- ⑤ 先端科学研究推進センター(動物実験施設)
- ⑥ 福利厚生施設(桜ヶ丘会館)
- ⑦ 桜ヶ丘寄宿舎(学生寮)
- ⑧ 看護師宿舎
- ⑨ 医学部基礎講義実習棟
- ⑩ 中央機械棟
- ⑪ ポンプ室
- ⑫ 附属図書館桜ヶ丘分館(医学図書館)
- ⑬ サークル棟
- ⑭ 実験廃液処理施設
- ⑮ 旧歯科診療棟
- ⑯ 医歯学総合研究科棟1(歯学系)
- ⑰ 歯学部講義・実習棟
- ⑱ 桜ヶ丘体育館
- ⑲ 運動器具庫
- ⑳ 医学部保健学科東研究棟
- ㉑ 共通教育棟
- ㉒ 資料保管庫
- ㉓ 鶴陵会館
- ㉔ 医学部・歯学部課外活動施設
- ㉕ 弓道場
- ㉖ さくらっ子保育園
- ㉗ 患者用立体駐車場
- ㉘ 医歯学総合研究科棟5
- ㉙ レジデントハウス
- ㉚ 病棟(C棟)
- ㉛ 病棟・診療棟(B棟)
- ㉜ 医歯学総合研究科棟4(新臨床医学系)
- ㉝ ヒトレトロウイルス学共同研究センター
- ㉞ 共同利用研究棟
- ㉟ 医学部保健学科西研究棟
- ㊱ トリアージ施設
- ㊲ 中央診療棟
- ㊳ 救急集中治療棟
- ㊴ さくらびあ
- ㊵ 病棟・診療棟(A棟)



関係施設凡例

- | | |
|----------------|---------------|
| ■ 大学院 医歯学総合研究科 | ■ 大学病院 |
| ■ 医学部 | ■ 学内共同教育研究施設等 |
| ■ 歯学部 | ■ 共通施設 |

下荒田キャンパス

水産学部

関係施設凡例

- 水産学部
- 学内共同教育研究施設等
- 共通施設



C-

- ① 1号館
- ② 2号館
- ③ 変電室
- ④ 水圏生物標本棟
- ⑤ 3号館
- ⑥ 6号館(食堂(1階))
- ⑥ 6号館(附属海洋資源環境教育研究センター(2階))
- ⑦ 国際交流会館(1号館)
- ⑧ " (2号館)
- ⑨ " (3号館)
- ⑩ 大型回流水槽実験棟
- ⑪ 職員宿舍
- ⑫ 車庫・倉庫
- ⑬ 実験・実習支援棟
- ⑭ 5号館
- ⑮ 附属図書館水産学部分館(水産学図書館)
- ⑯ 4号館
- ⑰ 外国人研究者宿泊施設(A・B・C)

教育学部附属特別支援学校

下伊敷1丁目

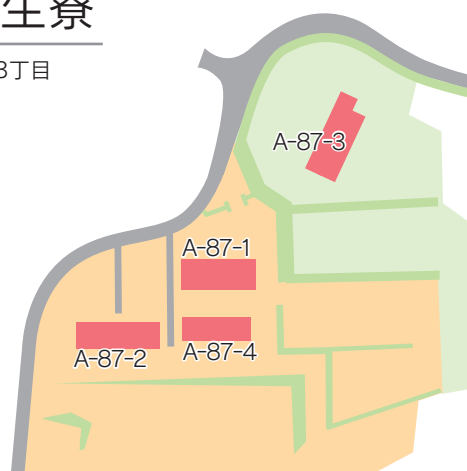


D-

- ① 校舎
- ② 体育館
- ③ 生活訓練棟
- ④ 水遊び場(プール)

学生寮

唐湊3丁目



A-87-

- ① 男子寄宿舎A棟
- ② " B棟
- ③ 女子寄宿舎
- ④ 共用棟

●所在地一覧●

A 【事務局】	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
A 【法文学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
A 附属司法政策教育研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3905
A 附属「鹿児島の近現代」教育研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7532
A 【教育学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
A 附属幼稚園	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7990
A 附属小学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7962
A 附属中学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎099(285)7932
附属特別支援学校	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257
寺山自然教育研究施設	〒892-0871	〃 吉野町10857-1	
A 【理工学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
A 附属DXコネクセンター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7689
A 附属天の川銀河研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)8012
附属南西島孤地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
A 【理学部・理工学研究科(理学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
A 【工学部・理工学研究科(工学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
A 【農学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
A 附属農場	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8771
A 学内農事部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8779
唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
附属演習林	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8744
高隈演習林	〒891-2101	垂水市海潟3237番地	☎0994(32)6329
佐多演習林	〒893-2604	肝属郡南大隅町佐多大字馬籠349番地	
A 附属焼酎・発酵学教育研究センター	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
C 【水産学部】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
附属海洋資源環境教育研究センター	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション	〒899-1403	出水郡長島町諸浦字蛤潟1620-3	☎0996(64)5013
附属海洋資源環境教育研究センター錦江湾ステーション	〒890-0062	鹿児島市与次郎二丁目9	
A 【共同獣医学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属動物病院	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8750
大隅産業動物診療研修センター	〒899-7305	曾於郡大崎町飯宿1130番地20マル大崎2階事務室	☎099(478)9111
A 附属越境性動物疾病制御研究センター	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属南九州畜産獣医学教育研究センター	〒899-4101	曾於市財部町南俣1343(南九州畜産獣医学拠点内)	☎0986(72)2090
入来牧場	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
B 【医歯学総合研究科】	〒890-8544	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
B 附属南九州先端医療開発センター	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6107
B 【保健学研究科】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
B 【保健学部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
B 【歯学部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
B 【鹿児島大学病院】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
A 【臨床心理学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
A 【連合農学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
A 【附属図書館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7415
B 桜ヶ丘分館(医学図書館)	〒890-8532	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5205
C 水産学部分館(水産学図書館)	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
A 【保健管理センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7385
A 【共通教育センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8821
A 【稲盛アカデミー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3751
A 【高等教育研究開発センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	
A 高等教育部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8826
A 生涯学習部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7294
A 【キャリア形成支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7321・7341
A 【中等・高等教育接続センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3049
A 【グローバルセンター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3601
A 【教師教育開発センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7308
A 【総合研究博物館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8141
A 【環境安全センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8126
A 【国際島嶼教育研究センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7394
奄美分室	〒894-0026	奄美市名瀬港町15番1号奄美群島大島紬会館6階	☎0997(69)4852
A 【先端科学研究推進センター】	〒890-8520	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
B 動物管理・小動物研究推進部門	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5500
B 大動物研究推進部門	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5496
A 遺伝子実験部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3581
A 機器分析部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7188
A 低温実験・アイソトープ部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8740
B バイオバンク部門	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(811)7485
A 感染制御研究部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8320
A 【南九州・南西諸島域イノベーションセンター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	
A 研究・産学地域連携ユニット	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8491
A 知的財産・リスクマネジメントユニット	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3881
A 【奄美群島共創連携推進センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7108
	〒894-0026	奄美市名瀬港町15番1号奄美群島大島紬会館6階	☎0997(69)4852
A 【地域防災教育研究センター】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番40号	☎099(285)7234
B 【ヒトレトロウイルス学共同研究センター】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6246
A 【情報基盤統括センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7869
A 【埋蔵文化財調査センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7270
A 【ボランティア支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3147
A 【障害学生支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3287
A 【稲盛学生会館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
A 【大学学生会館】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7324
【学生寮】	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238・099(254)9098
C 【国際交流会館(1号館・2号館・3号館)】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)7551
【外国人研究員等宿泊施設】	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	
C 【外国人研究者宿泊施設】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	

※ **A**: 郡元キャンパス、**B**: 桜ヶ丘キャンパス、**C**: 下荒田キャンパス



鹿児島大学学章

創立50周年を記念して制定された。KAGOSHIMAの頭文字『K』をデザインしたものである。今、まさに飛び立とうとしている姿を『鳳』の形にデザインし、歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化したものである。

鹿児島大学公式マスコットキャラクター

さっつん



薩摩の偉人たちの歴史を思わせる紋付き袴と頭の桜島が特徴の大きなしろくまのキャラクター。名前の由来は薩摩の「さつ」と西郷隆盛の愛犬「つん」。



編集・発行

鹿児島大学 広報センター

〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号

[代表電話] 099-285-7111 [FAX] 099-285-3854

[URL] www.kagoshima-u.ac.jp

発行月

令和8年7月